愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第215集

ささだいらいせき

笹平遺跡

本文編

2022

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

序

愛知県北東部にある奥三河地域は、天竜奥三河国定公園を擁する自然豊かなところで、そこを流れる寒狭川などは県下でも屈指の清流として知られています。そして、急峻な地形でありながら、数少ない平坦地をうまく活かして、人々は古くから生活を営んできました。

この奥三河地域の一角をなす設楽町では、豊川で幾度となく繰り返されている洪水氾濫と、頻発する渇水の被害から人々の暮らしを守るため、そして活力に満ちた東三河地域の発展に貢献するために、設楽ダムの建設が計画され、完成に向けて準備が進められています。

この設楽ダムによって水没する区域には多くの遺跡が存在しており、またさまざまな工事の影響を受ける遺跡も少なくありません。こうした遺跡の記録保存を実施するために、愛知県埋蔵文化財センターでは平成26年度から本格的に発掘調査を進めてまいりました。古くから縄文時代のさまざまな遺物が出土することで知られる笹平遺跡も、平成27年度に発掘調査が行われ、縄文時代後期を中心とした集落遺跡の全体像が明らかになりました。

本書は、この笹平遺跡の調査成果をまとめたものであり、今後は学術的な資料として広く活用されることになるものと思われます。また、笹平遺跡をはじめとする、まとまった地域における遺跡の悉皆的な調査は、設楽町の豊かな歴史をより一層深く知ることができる資料となり、さまざまな形での活用が期待されます。

最後になりましたが、発掘調査につきまして、地元住民の方々をはじめとする多くの方々にご協力をいただきました。また、関係各機関および関係者のご指導とご支援をいただきましたことを、厚くお礼申し上げます。

令和4年3月31日

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
理事長 森田利洋

例言

1. 本書は、北設楽郡設楽町小松に所在する笹平遺跡（ささだいらいせき：県遺跡番号 700169）の発掘調査報告書である。

2. 発掘調査は、設楽ダムの事前調査として、国土交通省中部地方整備局から愛知県教育委員会を通じて、公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが、管理委託を受けて実施した。調査対象面積は 6930㎡である。

3. 発掘調査は平成 27 年 5 月から 12 月にかけて実施した。

4. 調査担当者は、鈴木正貴（調査研究専門員、現調査課長）、薩山誠一（調査研究専門員）、川添和暁（調査研究主任、現調査研究専門員）である。

5. 発掘調査は、株式会社二友組の調査支援を受けて実施した。主要なスタッフは下記の通りである。現場代理人：吉田哲也、現場代理人補：大浜良介、調査補助員：鷲坂有吾、測量士：宮本亮太。

6. 遺物整理、製図については次の方々のご協力を受けた。阿部裕恵・鈴木好美・盧 智美・時田典子・堀田祐美・前田弘子・山田亜紀子・山田有美子・山本孝枝（整理補助員）、原田恵理（事務補助員）

7. 土器類の実測トレース作業は株式会社アルカと株式会社イビソクに、石器の実測トレース作業は株式会社アルカと株式会社ラングに、出土遺物の統計的処理データ入力と編集作業はナカシャクリエイティブ株式会社に、土壌選別作業と土器付着炭化物の放射性炭素年代測定分析と土器胎土分析と炭素 / 窒素同位体比を用いた食性分析は株式会社パレオ・ラボに、黒曜石の産地同定分析は株式会社第四紀地質研究所に、ボーリング掘削を株式会社アーキジオに、出土遺物の写真撮影は金子知久氏（スタジオ遊）に、報告書の印刷製本刊行発送業務はサンメッセ株式会社に、それぞれ業務を委託した。

8. 発掘調査および報告書作成に際しては、次の関係機関の指導・協力を受けた。愛知県県民文化局文化部文化芸術課文化財室、愛知県埋蔵文化財調査センター、国土交通省中部整備局、設楽町教育委員会、設楽町奥三河郷土館（五十音順、敬称略）

9. 発掘調査および報告書作成にあたり、次の方々からご教示・ご協力をいただいた。石井峻人、石井寛、伊藤正人、鵜飼堅証、長田友也、大塚達朗、加藤博敏、小泉翔太、高橋三郎、高野紗奈江、千葉豊、原田理一、幡中光輔、増子康眞、増山禎之、松井直樹、森本寛、百瀬長秀、綿田弘実、渡邉俊也（五十音順、敬称略）

10. 本書の執筆は、主に鈴木正貴と川添和暁が担当した。詳細は下記の通りである。第 1 章と第 2 章と第 3 章第 3 節は鈴木正貴、第 3 章第 1 節と第 2 節と第 5 節は川添和暁、第 4 章第 1 節は鬼頭剛・古澤明・株式会社パレオ・ラボ AMS　年代測定グループ、第 2 節は株式会社第四紀地質研究所、第 3 節は藤根久・米田恭子、（パレオ・ラボ）、第 4 節と第 5 節はパレオ・ラボ AMS 年代測定グループ（伊藤茂・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・小林克也・中村賢太郎）、資料編は鈴木正貴と川添和暁がそれぞれ担当した。

11. 本書の編集は鈴木正貴が行った。

12. 調査区の座標は、国土交通省告示に定められた平面直角座標第 VII 系に準拠する。ただし、新基準で表記してある。

13. 調査記録および写真記録は愛知県埋蔵文化財センター（愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24　電話 0567-67-4161）で保管している。

14. 出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センター（愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24　電話 0567-67-4164）で保管している。

目 次（本文編）

序・例言・目次
第 1 章 調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1 頁
第 1 節 遺跡の位置 (1)
第 2 節 調査の経緯 (1)　1 平成 18 年度範囲確認調査の概要 (3)、2 平成 20 年度範囲確認調査の概要 (3)、3 平成 27 年度範囲確認調査の概要 (3)
第 3 節 地理的環境 (5)
第 4 節 歴史的環境 (7)
第 2 章 遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9 頁
第 1 節 調査方法と基本層序 (9)　1 調査区の設定と調査の方法 (9)、2 調査日誌抄録 (9)、3 調査の概要と基本層序 (13)
第 2 節 縄文時代中期後半の遺構 (16)　1 竪穴建物跡 (16)、2 柱穴列 (22)、3 その他の遺構 (22)
第 3 節 縄文時代後期初頭から後期中葉までの遺構 (22)　1 竪穴建物跡 (22)、2 掘立柱建物跡 (61)、3 土坑 (62)
第 4 節 縄文時代後期後葉から晩期中葉までの遺構 (74)　1 竪穴建物跡 (74)、2 土坑 (74)
第 5 節 縄文時代の詳細時期不明の遺構 (85)　1 竪穴建物跡 (85)、2 土坑（大型土坑）(91)、3 土坑（集石土坑）(98)
第 6 節 弥生時代前期の遺構 (101)　1 土器棺墓 (101)、2 土坑 (104)
第 7 節 古代の遺構 (105)　1 土坑 (105)
第 3 章 遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・106 頁
第 1 節 概要 (106)　1 出土遺物の概要 (106)、2 資料整理調査の経過 (106)
第 2 節 縄文土器・土製品・弥生土器 (106)　1 縄文土器（器種別の概要）(106)、2 縄文土器（主要遺構出土遺物の紹介 (135)、3 縄文時代の土製品 (178)、4 弥生土器 (253)
第 3 節 石器・石製品 (255)　1 石器 (255)、2 石製品 (313)
第 4 節 古代以降の遺物 (314)
第 4 章 自然科学分析・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・315 頁
第 1 節 笹平遺跡における層序と古環境 (315)
第 2 節 黒曜石の蛍光 X 線分析（XRF）による原産地同定 (329)
第 3 節 笹平遺跡出土縄文土器の胎土分析 (336)
第 4 節 放射性炭素年代測定（1）(345)
第 5 節 放射性炭素年代測定（2）(355)
第 5 章 総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・365 頁
第 1 節 遺構の変遷 (365)
第 2 節 出土遺物の分布 (365)
抄録　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・373 頁

目次（資料編）

遺構図版
写真図版

挿図目次

第 1 図 笹平遺跡の位置図・・・(1)
第 2 図 笹平遺跡周辺の地形図・・・(2)
第 3 図 平成 18・20 年度範囲確認調査テストトレンチ配置図・・・(4)
第 4 図 平成 27 年度範囲確認調査 TT01 ～ TT03 平面図・断面図・・・(5)
第 5 図 平成 27 年度範囲確認調査テストトレンチ配置図と周辺地形・・・(6)
第 6 図 設楽ダム関連遺跡分布図・・・(8)
第 7 図 笹平遺跡調査区配置図・・・(9)
第 8 図 笹平遺跡主要遺構配置図・・・(10)
第 9 図 笹平遺跡地形断面模式図【東西方向】・・・(11)
第 10 図 主要土層断面図（1）・・・(12)
第 11 図 主要土層断面図（2）・・・(14)
第 12 図 主要土層断面図（3）・・・(15)
第 13 図 3893SI 遺構図（1）・・・(17)
第 14 図 3893SI 遺構図（2）・・・(18)
第 15 図 3893SI 遺構図（3）・・・(19)
第 16 図 3893SI 遺構図（4）・・・(20)
第 17 図 4320SA 遺構図・・・(21)
第 18 図 788SI 遺構図（1）・・・(23)
第 19 図 788SI 遺構図（2）・・・(24)
第 20 図 790SI 遺構図（1）・・・(25)
第 21 図 790SI 遺構図（2）・・・(26)
第 22 図 790SI 遺構図（3）・・・(27)
第 23 図 1155SI 遺構図（1）・・・(28)
第 24 図 1155SI 遺構図（2）・・・(29)
第 25 図 1406SI 遺構図・・・(30)
第 26 図 1559SI 遺構図・・・(31)
第 27 図 1864SI 遺構図・・・(33)
第 28 図 2215SI 遺構図・・・(34)
第 29 図 2216SI 遺構図（1）・・・(35)
第 30 図 2216SI 遺構図（2）・・・(36)
第 31 図 2338SI 遺構図・・・(37)
第 32 図 2400SI 遺構図・・・(38)
第 33 図 2404SI・2405SI 遺構図（1）・・・(39)
第 34 図 2404SI・2405SI 遺構図（2）・・・(40)
第 35 図 2404SI・2405SI 遺構図（3）・・・(41)
第 36 図 3258SI・3429SI 遺構図・・・(43)
第 37 図 3258SI 遺構図・・・(44)
第 38 図 3947SI 遺構図・・・(45)
第 39 図 4240SI・4241SI 遺構図（1）・・・(46)
第 40 図 4240SI・4241SI 遺構図（2）・・・(47)
第 41 図 4141SI 遺構図・・・(48)
第 42 図 4150SI 遺構図（1）・・・(49)
第 43 図 4150SI 遺構図（2）・・・(50)
第 44 図 4293SI・4299SI 遺構図・・・(52)
第 45 図 4310SI 遺構図・・・(53)
第 46 図 4255SL・4291SL 遺構図・・・(54)
第 47 図 565SL 周辺遺構図・・・(55)
第 48 図 2403SB 遺構図・・・(56)
第 49 図 4228SB・4229SB 遺構図・・・(57)
第 50 図 785SK 遺構図・・・(58)
第 51 図 813SK 遺構図・・・(59)
第 52 図 2258SK 遺構図・・・(60)
第 53 図 3639SK 遺構図・・・(61)
第 54 図 3697SK 遺構図・・・(62)
第 55 図 4263SK・4266SK・4269SK 遺構図・・・(63)
第 56 図 3307SK 遺構図・・・(64)
第 57 図 853SK 遺構図・・・(65)
第 58 図 1560SK 遺構図・・・(65)
第 59 図 225SK 遺構図・・・(66)
第 60 図 945SK 遺構図・・・(66)
第 61 図 3823SK 遺構図・・・(67)
第 62 図 4129SK・4242SK 遺構図・・・(68)
第 63 図 3633SK 遺構図・・・(69)
第 64 図 2165SI 遺構図（1）・・・(70)
第 65 図 2165SI 遺構図（2）・・・(71)
第 66 図 1556SS・1143SK 遺構図・・・(72)
第 67 図 1194SS 遺構図（1）・・・(73)
第 68 図 1194SS 遺構図（2）・・・(74)
第 69 図 064SX・1193SS 遺構図・・・(75)
第 70 図 943SZ 遺構図・・・(76)
第 71 図 2237SI・2412SI 遺構図（1）・・・(77)
第 72 図 2237SI・2412SI 遺構図（2）・・・(78)
第 73 図 787SK 遺構図・・・(79)
第 74 図 953SK 遺構図・・・(80)
第 75 図 986SK 遺構図（1）・・・(81)
第 76 図 986SK 遺構図（2）・・・(82)
第 77 図 1072SK 遺構図・・・(83)

第 78 図 1078SK 遺構図・・・(83)
第 79 図 1084SK 遺構図・・・(84)
第 80 図 1092SK 遺構図・・・(84)
第 81 図 1093SK・1094SK 遺構図・・・(85)
第 82 図 1135SK・1147SK 遺構図・・・(86)
第 83 図 1131SK 遺構図・・・(87)
第 84 図 1140SK 遺構図・・・(88)
第 85 図 1148SK 遺構図・・・(89)
第 86 図 1296SK 遺構図・・・(90)
第 87 図 1557SS 遺構図・・・(91)
第 88 図 1781SK 遺構図・・・(92)
第 89 図 1925SK 遺構図・・・(93)
第 90 図 集石土坑遺構図（1）・・・(94)
第 91 図 集石土坑遺構図（2）・・・(95)
第 92 図 集石土坑遺構図（3）・・・(96)
第 93 図 各種土坑遺構図（1）・・・(97)
第 94 図 各種土坑遺構図（2）・・・(99)
第 95 図 各種土坑遺構図（3）・・・(100)
第 96 図 681SZ 遺構図（1）・・・(102)
第 97 図 681SZ 遺構図（2）・・・(103)
第 98 図 681SZ 遺構図（3）・・・(104)
第 99 図 1320SK 遺構図・・・(105)
第 100 図 3893SI 出土土器（1）・・・(108)
第 101 図 3893SI 出土土器（2）・・・(109)
第 102 図 3893SI 出土土器（3）・・・(110)
第 103 図 3893SI 出土土器（4）・・・(111)
第 104 図 3893SI 出土土器（5）・・・(112)
第 105 図 4230SK 他出土土器・・・(113)
第 106 図 788SI 出土土器（1）・・・(114)
第 107 図 788SI 出土土器（2）・・・(115)
第 108 図 788SI 出土土器（3）・・・(116)
第 109 図 788SI 出土土器（4）・・・(117)
第 110 図 790SI 出土土器（1）・・・(118)
第 111 図 790SI 出土土器（2）・・・(119)
第 112 図 790SI 出土土器（3）・・・(120)
第 113 図 790SI 出土土器（4）・・・(121)
第 114 図 790SI 出土土器（5）・・・(122)
第 115 図 790SI 出土土器（6）・・・(123)
第 116 図 790SI・1155SI・1406SI 出土土器・・・(124)
第 117 図 1406SI・1559SI 出土土器・・・(125)
第 118 図 2215SI 出土土器・・・(126)
第 119 図 2216SI 出土土器（1）・・・(127)
第 120 図 2216SI 出土土器（2）・・・(128)
第 121 図 2216SI 出土土器（3）・・・(129)
第 122 図 2338SI・2204SI 出土土器・・・(130)
第 123 図 3258SI 出土土器・・・(131)
第 124 図 3258SI・4150SI 出土土器・・・(132)
第 125 図 4293SI・4299SI 出土土器・・・(133)
第 126 図 4310SI・565SK 出土土器・・・(134)
第 127 図 4291SK 他出土土器・・・(135)
第 128 図 785SK 出土土器（1）・・・(136)
第 129 図 785SK 出土土器（2）・・・(137)
第 130 図 813SK 出土土器・・・(138)
第 131 図 813SK・2258SK 出土土器・・・(139)
第 132 図 2258SK 出土土器（1）・・・(140)
第 133 図 2258SK 出土土器（2）・・・(141)
第 134 図 2258SK 出土土器（3）・・・(142)
第 135 図 3639SK 他出土土器・・・(143)
第 136 図 4263SK 出土土器・・・(144)
第 137 図 3307SK 出土土器（1）・・・(145)
第 138 図 3307SK 出土土器（2）・・・(146)
第 139 図 3307SK 出土土器（3）・・・(147)
第 140 図 1560SK 出土土器・・・(148)
第 141 図 225SK 出土土器・・・(149)
第 142 図 945SK 出土土器（1）・・・(150)
第 143 図 945SK 出土土器（2）・・・(151)
第 144 図 4129SK・4242SK 出土土器・・・(152)
第 145 図 3633SK 他出土土器・・・(153)
第 146 図 1563SK 他出土土器・・・(154)
第 147 図 3652SK・4272SK 出土土器・・・(155)
第 148 図 1018SK 他出土土器・・・(156)
第 149 図 1231SK 他出土土器・・・(157)
第 150 図 1279SK 他出土土器・・・(158)
第 151 図 2229SK・3849SK 他出土土器・・・(159)
第 152 図 4292SK 他出土土器・・・(160)
第 153 図 3424SK 他出土土器・・・(161)
第 154 図 4059SK 他出土土器・・・(162)
第 155 図 4098SK 他出土土器・・・(163)
第 156 図 1194SS 出土土器・・・(164)
第 157 図 1194SS・1557SS 出土土器・・・(165)
第 158 図 059SX 出土土器（1）・・・(166)
第 159 図 059SX 出土土器（2）・・・(167)
第 160 図 059SX 出土土器（3）・・・(168)
第 161 図 059SX 出土土器（4）・・・(169)
第 162 図 059SX 出土土器（5）・・・(170)
第 163 図 059SX・064SX 出土土器・・・(171)
第 164 図 064SX・2236SX 出土土器・・・(172)
第 165 図 2236SX 出土土器（1）・・・(173)

第 166 図 2236SX 出土土器（2）・・・(174)
第 167 図 2236SX 出土土器（3）・・・(175)
第 168 図 2236SX・2256SK 出土土器・・・(176)
第 169 図 943SZ 出土土器・・・(177)
第 170 図 953SK 他出土土器・・・(178)
第 171 図 986SK 他出土土器・・・(179)
第 172 図 1092SK 他出土土器・・・(180)
第 173 図 1135SK・1140SK 出土土器・・・(181)
第 174 図 1140SK・1147SK 出土土器・・・(182)
第 175 図 1148SK 他出土土器・・・(183)
第 176 図 250SK 他出土土器・・・(184)
第 177 図 475SK 他出土土器・・・(185)
第 178 図 507SK 出土土器・・・(186)
第 179 図 528SK 他出土土器・・・(187)
第 180 図 599SK 他出土土器・・・(188)
第 181 図 671SK 他出土土器・・・(189)
第 182 図 685SX 他出土土器・・・(190)
第 183 図 686SK 他出土土器・・・(191)
第 184 図 730SK 他出土土器・・・(192)
第 185 図 829SK 他出土土器・・・(193)
第 186 図 845SK 他出土土器・・・(194)
第 187 図 979SK 他出土土器・・・(195)
第 188 図 1096SK 他出土土器・・・(196)
第 189 図 1145SK 他出土土器・・・(197)
第 190 図 1255SK 他出土土器・・・(198)
第 191 図 1320SK 他出土土器・・・(199)
第 192 図 1466SK 他出土土器・・・(200)
第 193 図 1499SK 他出土土器・・・(201)
第 194 図 1558SK 他出土土器・・・(202)
第 195 図 1784 SK 他出土土器・・・(203)
第 196 図 2169SK 他出土土器・・・(204)
第 197 図 2301SK 他出土土器・・・(205)
第 198 図 3102SK 他出土土器・・・(206)
第 199 図 3260SK 他出土土器・・・(207)
第 200 図 3260SK・3276SK 出土土器・・・(208)
第 201 図 3309SK 他出土土器・・・(209)
第 202 図 3322SK 他出土土器・・・(210)
第 203 図 3322SK 出土土器・・・(211)
第 204 図 3324SK 他出土土器・・・(212)
第 205 図 3349SK 他出土土器・・・(213)
第 206 図 3362SK 他出土土器・・・(214)
第 207 図 3602SK 他出土土器・・・(215)
第 208 図 3677SK 他出土土器・・・(216)
第 209 図 3690SK 他出土土器・・・(217)
第 210 図 3692SK 他出土土器・・・(218)
第 211 図 3787SK 他出土土器・・・(219)
第 212 図 3845SK 他出土土器・・・(220)
第 213 図 4076SK 他出土土器・・・(221)
第 214 図 15A 区出土土器・・・(222)
第 215 図 15A 区・15B 区出土土器・・・(223)
第 216 図 15B 区出土土器（1）・・・(224)
第 217 図 15B 区・15C 区出土土器（1）・・・(225)
第 218 図 15C 区出土土器（1）・・・(226)
第 219 図 15B 区・15C 区出土土器（2）・・・(227)
第 220 図 15B 区出土土器（2）・・・(228)
第 221 図 15B 区出土土器（3）・・・(229)
第 222 図 15B 区出土土器（4）・・・(230)
第 223 図 15B 区出土土器（5）・・・(231)
第 224 図 15B 区出土土器（6）・・・(232)
第 225 図 15B 区出土土器（7）・・・(233)
第 226 図 15B 区出土土器（8）・・・(234)
第 227 図 15C 区出土土器（2）・・・(235)
第 228 図 15C 区出土土器（3）・・・(236)
第 229 図 15C 区出土土器（4）・・・(237)
第 230 図 15C 区出土土器（5）・・・(238)
第 231 図 15C 区出土土器（6）・・・(239)
第 232 図 15C 区出土土器（7）・・・(240)
第 233 図 15C 区出土土器（8）・・・(241)
第 234 図 15C 区出土土器（9）・・・(242)
第 235 図 15C 区出土土器（10）・・・(243)
第 236 図 15C 区出土土器（11）・・・(244)
第 237 図 トレンチ出土土器（1）・・・(245)
第 238 図 トレンチ出土土器（2）・・・(246)
第 239 図 トレンチ・表土出土土器・・・(247)
第 240 図 攪乱他出土土器（1）・・・(248)
第 241 図 攪乱他出土土器（2）・・・(249)
第 242 図 攪乱他出土土器（3）・・・(250)
第 243 図 攪乱他出土土器（4）・・・(251)
第 244 図 土製品・土偶・・・(252)
第 245 図 弥生土器（1）・・・(253)
第 246 図 弥生土器（2）・・・(254)
第 247 図 3893SI 出土石器・・・(257)
第 248 図 2336SX 出土石器・・・(258)
第 249 図 788SI 他出土石器・・・(259)
第 250 図 790SI 出土石器（1）・・・(260)
第 251 図 790SI 出土石器（2）・・・(261)
第 252 図 790SI 出土石器（3）・・・(262)
第 253 図 1406SI 他出土石器・・・(263)

第 254 図 3671SI 他出土石器・・・(264)
第 255 図 4255SK 他出土石器・・・(265)
第 256 図 3633SK 他出土石器・・・(266)
第 257 図 4059SK 他出土石器・・・(267)
第 258 図 1194SS 出土石器（1）・・・(268)
第 259 図 1194SS 出土石器（2）・・・(269)
第 260 図 1194SS 出土石器（3）・・・(270)
第 261 図 059SX 出土石器（1）・・・(271)
第 262 図 059SX 出土石器（2）・・・(272)
第 263 図 059SX 出土石器（3）・・・(273)
第 264 図 059SX 出土石器（4）・・・(274)
第 265 図 059SX 出土石器（5）・・・(275)
第 266 図 986SK 他出土石器・・・(276)
第 267 図 1092SK 他出土石器・・・(277)
第 268 図 1143SK 他出土石器・・・(278)
第 269 図 15A 区出土石器・・・(279)
第 270 図 15AE 出土石器・石鏃・石錐・・・(280)
第 271 図 石錐・石匙・スクレイパー・・・(281)
第 272 図 スクレイパー・剥片類（小型）・・・(282)
第 273 図 剥片類（小型）・・・(283)
第 274 図 剥片類（小型）・石核（小型）・・・(284)
第 275 図 石核（小型）・楔形石器・打製石斧・・・(285)
第 276 図 打製石斧・・・(286)
第 277 図 打製石斧・刃器・・・(287)
第 278 図 刃器（1）・・・(288)
第 279 図 刃器（2）・・・(289)
第 280 図 刃器・剥片類・・・(290)
第 281 図 剥片類（1）・・・(291)
第 282 図 剥片類（2）・・・(292)
第 283 図 剥片類（3）・・・(293)
第 284 図 剥片類（4）・・・(294)
第 285 図 剥片類・礫器・・・(295)
第 286 図 石核（1）・・・(296)
第 287 図 石核（2）・・・(297)
第 288 図 磨製石斧・・・(298)
第 289 図 磨製石斧・打欠石錘・・・(299)
第 290 図 切目石錘・有溝石錘・・・(300)
第 291 図 磨石敲石類・・・(301)
第 292 図 磨石敲石類・石皿台石類・砥石・擦切具・・・(302)
第 293 図 砥石・・・(303)
第 294 図 大型石棒・石冠・岩偶岩版類・・・(304)
第 295 図 大型石棒・石冠・岩偶岩版類・石棒石刀類・・・(305)
第 296 図 大型石棒・・・(306)
第 297 図 大型石棒・石棒石刀類・・・(307)
第 298 図 石棒石刀類・石冠・独鈷石・・・(308)
第 299 図 岩偶岩版類（1）・・・(309)
第 300 図 岩偶岩版類（2）・・・(310)
第 301 図 岩偶岩版類・その他の石製品・・・(311)
第 302 図 その他の石製品・・・(312)
第 303 図 古代以降の遺物・・・(314)
第 304 図 笹平遺跡における分析試料採取地点・・・(315)
第 305 図 地点 1（15A 区）における東西方向の地層断面・・・(316)
第 306 図 地点 2（15A 区）調査区北壁の地層断面・・・(317)
第 307 図 地点 3（15A 区）深掘の状況・・・(318)
第 308 図 地点 4（15A 区）の基盤岩を覆う黒褐色粘土層・・・(319)
第 309 図 地点 5（15Ba 区）の柱状図・・・(320)
第 310 図 地点 5（15Ba 区）深掘の状況・・・(320)
第 311 図 地点 6（15Ca 区）深掘掘削状況・・・(321)
第 312 図 地点 7（15Cc 区）の東西方向地層断面・・・(322)
第 313 図 試錐地点 B（15Ba 区）の地質柱状図・・・(325)
第 314 図 笹平遺跡出土黒曜石 SiO2 Al2O3 図（総合図）・・・(333)
第 315 図 笹平遺跡出土黒曜石 Fe2O3 TiO2 図（総合図）・・・(333)
第 316 図 笹平遺跡出土黒曜石 K2O CaO 図（総合図）・・・(334)
第 317 図 笹平遺跡出土黒曜石積分強度の Rb-Sr 相関図（総合図）・・・(335)
第 318 図 笹平遺跡と周辺地質・・・(340)
第 319 図 暦年較正結果（cal BC/AD 単位）一部抜粋・・・(353)
第 320 図 暦年較正結果（cal BP 単位）一部抜粋・・・(354)
第 321 図 出土遺物分布図（1）・・・(366)
第 322 図 出土遺物分布図（2）・・・(367)
第 323 図 出土遺物分布図（3）・・・(368)
第 324 図 出土遺物分布図（4）・・・(369)
第 325 図 出土遺物分布図（5）・・・(370)
第 326 図 出土遺物分布図（6）・・・(371)
第 327 図 主要遺構変遷図・・・(372)

表目次

第 1 表 地点 1（15A 区）の放射性炭素年代測定結果・・・(316)
第 2 表 地点 2（15A 区）の放射性炭素年代測定結果・・・(318)
第 3 表 地点 4（15A 区）の放射性炭素年代測定結果・・・(319)
第 4 表 地点 5（15Ba 区）の放射性炭素年代測定結果・・・(320)
第 5 表 地点 6（15Ca 区）の放射性炭素年代測定結果・・・(321)
第 6 表 地点 7（15Cc 区）の放射性炭素年代測定結果・・・(323)
第 7 表 試錐地点 B（15Ba 区）の放射性炭素年代測定結果・・・(324)
第 8 表 笹平遺跡出土黒曜石の化学分析表（1）・・・(330)
第 9 表 笹平遺跡出土黒曜石の化学分析表（2）・・・(331)
第 10 表 笹平遺跡出土黒曜石の強被熱遺物・EDS・化学表・・・(332)
第 11 表 笹平遺跡出土黒曜石の原産地対比表・・・(332)
第 12 表 分析試料一覧表・・・(336)
第 13 表 土器粘土中の微化石類と砂粒組成の特徴（1）・・・(338)
第 14 表 土器粘土中の微化石類と砂粒組成の特徴（2）・・・(339)
第 15 表 胎土中粘土および砂粒の特徴一覧表・・・(343)
第 16 表 放射性炭素年代測定試料とその処理（1）・・・(346)
第 17 表 放射性炭素年代測定試料とその処理（2）・・・(347)
第 18 表 放射性炭素年代測定試料とその処理（3）・・・(348)
第 19 表 放射性炭素年代測定試料とその処理（4）・・・(349)
第 20 表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果（1）・・・(350)
第 21 表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果（2）・・・(351)
第 22 表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果（3）・・・(352)
第 23 表 放射性炭素年代測定試料とその処理（5）・・・(359)
第 24 表 放射性炭素年代測定試料とその処理（6）・・・(360)
第 25 表 放射性炭素年代測定試料とその処理（7）・・・(361)
第 26 表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果（4）・・・(362)
第 27 表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果（5）・・・(363)
第 28 表 放射性炭素年代測定および暦年較正の結果（6）・・・(364)

第 1 章 調査の概要

第 1 節　遺跡の位置

愛知県北設楽郡設楽町は、愛知県北東の山間部に所在する。平成 17(2005) 年、旧津具村と合併して、現在は東西約 22.4 km・南北 19.7 km・総面積 273.94k m² の範囲を占める。旧三河国設楽郡に属する設楽町は、北から時計回りに、豊田市稲武地区、長野県根羽村、豊根村、東栄町、新城市鳳来地区、新城市作手地区、豊田市下山地区、豊田市足助地区と接している。稲武地区を挟んで北側には、岐阜県恵那市上矢作町が、一方で東側には東栄町を挟んで、静岡県浜松市天竜区佐久間町が位置しており、当地はまさに美濃・信濃・遠江と接する境界地域である。

笹平遺跡は、設楽町内のほぼ中央にある小松地区の西端部に所在する。遺跡の北側で東北東から流れる境川は、遺跡の西側で南南東に流路を変えており、現在の設楽大橋を超えると西方向に蛇行する。遺跡の西側はこの境川で侵食されて段丘崖となっており川との比高は約 20m を測る。境川の向かいにも段丘面が広がっており、西方向に万瀬遺跡、北方向に上ヲロウ・下ヲロウ遺跡が分布する。一方、東側には標高約 500m の山塊があり、南側の山塊には奴田川沿いに町道小松笹平線が通っており、現在の県道設楽根羽線が開通するまでは他の集落とつなぐ唯一の陸路となっていたと考えられる。

笹平遺跡が所在する段丘面は南北約 200m、東西約 60m を測る三角形状の平面形を呈しており、北から南に緩やかに傾斜している。後述するように、遺跡はこの段丘面の北半に所在する。

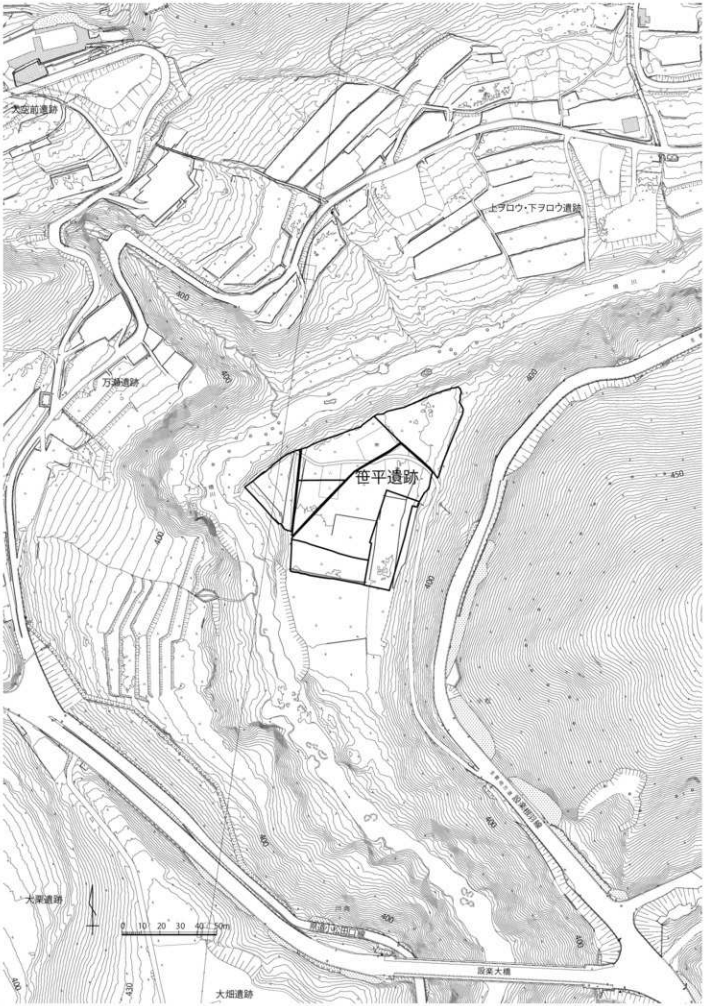
第 2 節　調査の経緯

笹平遺跡の発掘調査は、設楽ダムに伴う事前調査として国土交通省中部地方整備局から、愛知県教育委員会を通じた委託事業として愛知県埋蔵文化財センターが実施した。

笹平遺跡は、小栗鐵次郎が『史蹟名勝天然紀念物調査報告 10』でその重要性を報告する（小栗 1932）など、古くから知られた著名な遺跡であり、『愛知県遺跡分布地図Ⅲ（東三河地区）』（愛知県教育委員会 1996）に記載された周知の遺跡である。また、その後に刊行された『詳細遺跡分布調査報告書』（愛知県教育委員会 2007）にも 事前調査の必要な遺跡として掲載されている。

この笹平遺跡は標高約 380m から約 390m の河岸段丘上に所在しており、設楽ダムの湛水域（標高 437m 以下）に該当する。このため、まずは水没する河岸段丘面を対象に平成 18(2006) 年度と平成 20(2008) 年度に愛知県埋蔵文化財センターにより

第 1 図　笹平遺跡の位置図



第２図　笹平遺跡周辺の地形図（S = 1／2000）

範囲確認調査（現在の本発掘調査Aに相当）が実施され、その結果河岸段丘の北半部に遺跡の範囲が限定されることが判明した。これを受けて愛知県教育委員会により本調査（現在の本発掘調査Bに相当）の範囲6930㎡が確定された。

本調査は平成27(2015)年度に愛知県埋蔵文化財センターにより実施された。発掘調査は3区（7小区）に区分し、概ねA区（調査時点の名称は15A区だが、以下A区と省略する）からC区の順に行われた。

なお、平成27年6月に Ba区北東端部で弥生時代前期の土器棺墓1基（681SZ）が確認された。この土器棺墓681SKの存在から、15Ba区よりも北側の調査区外に拡がる狭い緩斜面にも弥生時代の遺構や遺物が展開している可能性が考えられることとなった。平成27年9月18日に愛知県教育委員会は、笹平遺跡の土器棺墓北側の調査区外にある緩斜面について平成27年度内に範囲確認調査を実施して範囲を特定した上で平成28年度の調査面積を確定する方針を提示した。これを受け、愛知県埋蔵文化財センターは平成27年10月に追加の範囲確認調査を実施することとなった。この範囲確認調査の結果、調査区北側に遺跡の範囲が広がらないことが確認され、当初予定された6930㎡の調査を平成27年12月に完了したことにより現地調査は全て終了した。

平成28年2月と3月に遺構図を中心とした二次整理作業を、令和元(2019)年度から令和2(2020)年度に、愛知県埋蔵文化財センターは図面の整理および出土遺物の分析・記録などの整理報告書作成業務を行い。令和3年度末に発掘調査報告書が刊行された。

以下に範囲確認調査の概要を示す。

1 平成18年度範囲確認調査の概要

平成18（2006）年度は、これまでに縄文土器等が多数採集されている当時の住居地部分の南側に28か所のテストトレンチを設けた。その結果、明確な遺物包含層は確認されなかった。ただし、調査区域の北部では平坦地と南側に向かって急激に落ち込んでいる地形が認められた。また、北部トレンチでは近世以降と考えられる落ち込みが検出され、切目石錘・土師質土器片・近世陶器片が出土した。また、周辺では縄文土器片を採集することができた。南部のT.T.3では石鏃1点を採集している。

2 平成20年度範囲確認調査の概要

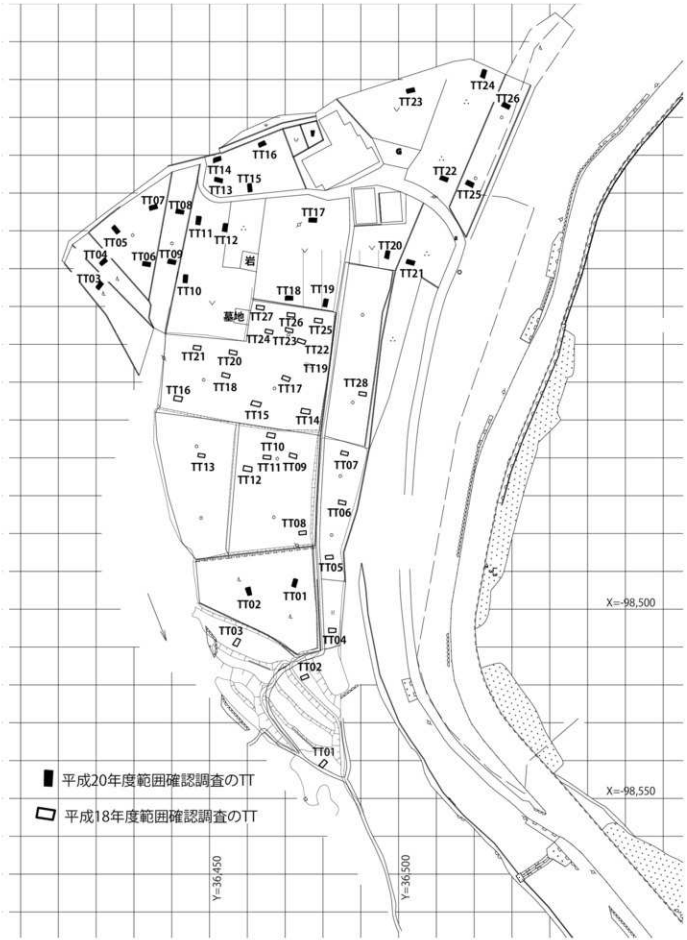
平成20（2008）年度は、平坦地のうち当時の居宅周辺の庭及び畑地にテストトレンチを26か所に設定した。このうち13か所で遺物包含層を確認し、縄文土器・石器などが出土した。また、9か所で土坑・溝などの遺構が検出されたが、うち2ヵ所では竪穴建物跡に伴うと思われる焼土も認められた。この結果、遺跡は字笹平の平坦地の北部で当時の居宅周辺から南西側に広がると考えられる。

3 平成27年度範囲確認調査の概要

平成27（2015）年度は、平坦地北端から北側に舌状にのびる緩斜面上に2m×1mの規模でテストトレンチを3か所設定した。調査の結果、遺構と遺物は全く確認されていない。全ての試掘坑で人工的な盛土または崩落した土砂が厚く堆積しており、遺構面を確認し得た地点は1ヶ所に過ぎない。平成26年度本調査区の成果と併せて、笹平遺跡の縄文時代の遺構面を大胆に推定すると第5図のように復元される。この結果、TT01では標高389.4mでも遺構面に達しないことからTT01を含む調査対象域北東部では谷地形が存在したことが想定され、地形が単純に連続しないと考えられる。したがって、標高388.5m前後の遺構検出面（平坦面）は調査区外の北東部には拡がっておらず、その上位の平坦面の存在も想定しがたいといえる。遺構と遺物は全く確認されていないことと、地形的にみても遺跡が存在する可能性が低い条件であることを考慮すると、今回の調査対象域で遺跡が展開する可能性は極めて低いといわざるを得ない。

【TT01】TT01は調査対象域の北端部に北東—南西方向に2m×1mの規模で設定されたトレンチである。現況は南東から北西に向けて緩やかに下る斜面となっており、この地形に併行するような形でトレンチは設定された。堆積は上位から1層：表土となる黒褐色シルト、2層：暗褐色シルトブロック、3層：角礫を多量に含む暗褐色シルトブロックの順に堆積していた。2層は層厚約70cm、3層は層厚50cm以上を測り、地表下約1.4m以下もさらに3層が深く堆積している状況が確認された。したがって、本トレンチでは地山（基盤層）には達していない。2層と3層は人工的な盛土または崩落した土砂と思われ、本トレンチでは全く遺構と遺物は確認されなかった。

【TT02】TT02は調査対象域の中央部にほぼ東西方向に2m×1mの規模で設定されたトレンチである。現況は東から西に向けて緩やかに下る斜面となって



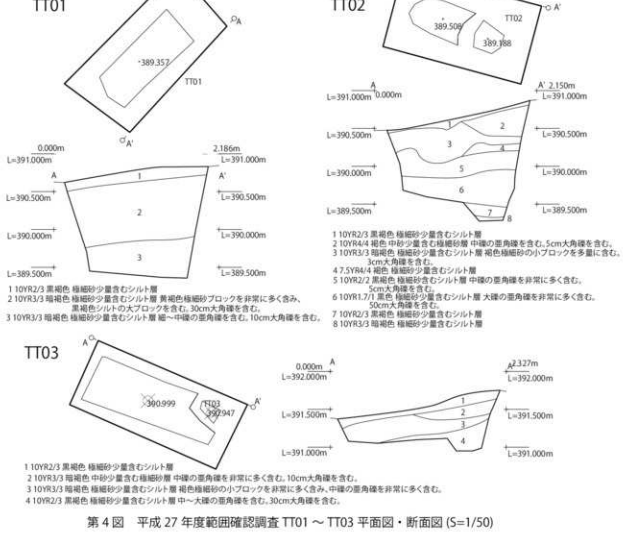
第 3 図　平成 18・20 年度範囲確認調査テストトレンチ配置図 (S=1/1000)

いる。堆積は上位から１層：表土となる黒褐色シルト、３層：暗褐色シルトブロック、５層：角礫を含む黒褐色シルト、６層：角礫を多量に含む黒色シルトブロック、７層：黒褐色シルト、８層：暗褐色シルトの順に堆積していた。途中で２層：褐色極細粒砂や４層：褐色シルトを部分的に挟む形で堆積していた。６層までは角礫を多く含むことから人工的な盛土または崩落した土砂と思われ、そこまでの層厚は東側で約 140cm、西側で約 80cm を測る。７層：黒褐色シルトは本調査区で縄文時代から近代までの遺物包含層で、８層：暗褐色シルトの上面が縄文時代を中心として土器棺墓 681SZ などの遺構を検出した遺構面に対応するものと考えられる。本トレンチでは遺構検出面に達したものの、全く遺構と遺物は確認されなかった。

【TT03】TT03 は調査対象域の南部に東部がやや南に振れる東西方向に 2m × 1m の規模で設定されたトレンチである。現況は南から西に向けて緩やかに下る斜面となっている。堆積は上位から１層：表土となる黒褐色シルト、２層：暗褐色極細粒砂、３層：暗褐色シルトブロック、４層：角礫を多量に含む黒褐色シルトブロックの順に堆積していた。１～３層は層厚約 40cm、４層は層厚 30cm 以上を測るが、４層は巨礫を多く含むためこれ以上深く掘削することができなかった。したがって本トレンチでは地山（基盤層）には達していない。２層～４層は人工的な盛土または崩落した土砂と思われ、本トレンチでは全く遺構と遺物は確認されなかった。

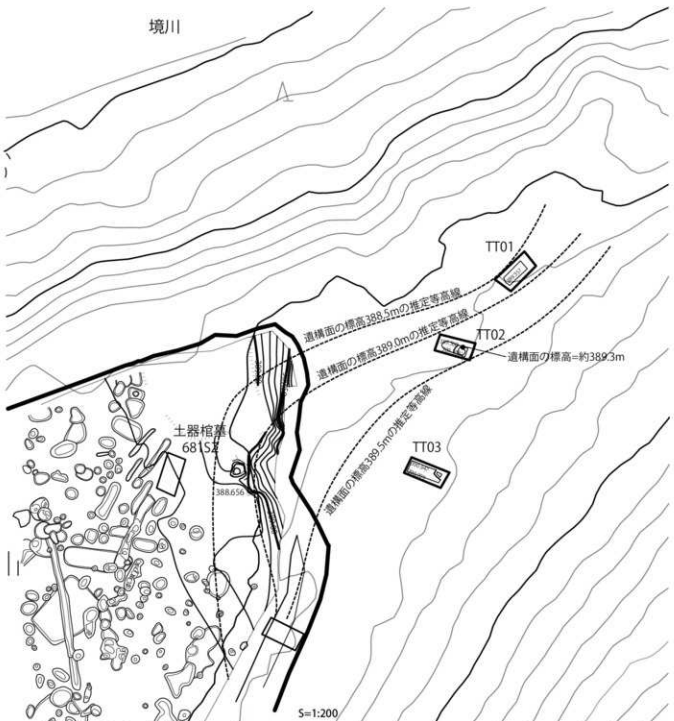
第３節 地理的環境

設楽町内には、豊川水系と矢作川水系と天竜川水系の三本の河川水系が存在する。豊川水系は寒狭川（豊川）に境川や野々瀬川などが合流するもので、概ね町域中央から南流する。矢作川水系は名倉川が岐阜県恵那市上矢作町で矢作川に合流するもので、町域中央から北流する。天竜川水系は、豊根村に抜け



第４図　平成 27 年度範囲確認調査 TT01 ～ TT03 平面図・断面図 (S=1/50)

る津具川や東栄町の大千瀬川へと合流する神田川などが該当し、町域の北東部や南東部から東流するものである。設楽ダムは豊川水系に設置されるもので、これに関わって発掘調査される遺跡は全て豊川水系に所在する。また、設楽町は高低差が激しく、町内は起伏ある地形となっている。豊川と当貝津川との合流地点付近で標高約 200m であるのに対し、北東端の茶臼山高原付近で標高約 1,320m を測る。先に示した３つの水系の境には分水嶺が存在しており、豊川水系と矢作川水系の境には、さいの神峠 (790m) の位置する稜線がある。矢作川水系および豊川水系と天竜川水系の境には、笹暮峠など古町高山 (1055m) から伸びる稜線がある。豊川水系と天竜川水系との境には、明神山 (950m) から岩古谷山 (799m) や鞍掛山 (883m) に延びる稜線がある。また、各水系の標高をみても、豊川水系からみて矢作川水系と天竜川水系とは、町域を南北に二分するような著しい比高差が認められる。豊川水系ではたとえば設楽大橋の



第５図　平成 27 年度範囲確認調査テストトレンチ配置図と周辺地形 (S=1/200)

標高は約 400m であるのに対して、矢作川水系の川向坂の上は標高 695m、天竜川水系の津具地区では標高約 700m であり、10km 以内の範囲で標高が約 300m 上昇する急峻な地形となっている。

笹平遺跡は、標高約 380m、寒狭川（豊川）支流の境川左岸の河岸段丘上に立地する。当地は小松地区の西端に位置しており、険路から見れば小松地区の西奥に相当する。遺跡の立地する段丘は、北から南に向かって緩かに傾斜しており、ここに縄文時代以来、古代・中世・近世、そして現代までさまざまな活動がなされてきた。境川を隔てた川向地区には段丘面に上ヲロウ・下ヲロウ遺跡、万瀬遺跡、川向東貝津遺跡、大栗遺跡などがあり、丘陵上には大畑遺跡などが存在する。境川を挟んで遺跡が数多く分布するこの区域は、津具方面（現在の県道 428 号線）と稲武方面と田口方面（共に現在の国道 257 号線）に分岐する地点であり、古くから交通の要衝でもあっただろう。また、笹平遺跡は境川水面との比高は約 30m であり、河川資源の利用にも便利であったといえる。

設楽地域では地質学的な環境も複雑である。中央構造線は天竜川から豊川沿いにかけて走っていることが知られ、その東側・南側は三波川変成帯、西側・北側は領家変成帯が分布しており、地質構造が大きく異なる。設楽地域は領家変成帯が分布範囲であるが、それに加えて新生代第三紀の火山活動による設楽層群が厲来湖を中心に同心円状に分布している。設楽層群には、設楽火山岩類を含む南設亜層群と堆積岩類由来の北設亜層群があり、設楽町内では、北設亜層群が境川東側を沿って、津具地区・豊根村へと延びている。笹平遺跡はこの設楽層群の外周傍の地点に位置している遺跡であり、このような多様な岩帯が近接地域に存在する当地において、設楽火山岩類や南設亜層群由来の安山岩・溶結凝灰岩や、三波川変成帯由来の塩基性岩類、領家変成帯由来の花こう岩や片麻岩などが、利用可能な石材環境となっている。

第 4 節 歴史的環境

ここでは、設楽町内で知られている遺跡などについて、整理しておく（第 6 図）。

後期旧石器時代では、設楽町津具地区に接した豊根村域には、茶臼山遺跡の所在が知られ、ナイフ形石器・掻器や剥片石核が良好な状態で出土した。川向坂の上にある市場口遺跡では、ナイフ形石器のほか、剥片・石核が出土している。

縄文時代草創期では、川向東貝津遺跡 (27) で木葉形尖頭器やその製作に関わる剥片石核類など多量の石器群が確認された。後期旧石器時代末の細石器（細石刃・細石核）が出土しており、石器群の一部は後期旧石器時代にさかのぼるものの可能性がある。また、八橋地区の滝瀬遺跡では、縄文時代草創期末から早期初頭に遡る可能性のある竪穴建物跡 10 基以上で構成された集落跡が調査された。

縄文時代早期では、名倉地区の星野神田遺跡では押型文土器の出土が古くから知られ、川向東貝津遺跡・滝瀬遺跡でも集石炉跡が発見されており、これらは縄文時代早期に属する可能性がある。滝瀬遺跡や大名倉遺跡では、早期前半に属するトロトロ石器も出土している。川向地区の大栗遺跡では、早期前半に多く知られる燻道付炉穴が 1 基確認されている。また、川向地区の万瀬遺跡では、竪穴建物跡と炉穴群からなる早期前半の集落跡が調査されている。

縄文時代前期では、津具地区の鞍船遺跡や大名倉地区の胡桃窪遺跡では前期後半の竪穴建物跡が調査されている。これ以外にも各遺跡で土器片など遺物は散在的に確認できており、今後の調査で良好な資料群が見つかるものと期待される。

縄文時代中期前半では、川向地区の石原遺跡で山田平式期頃を主体とする竪穴建物跡群が確認された。中期後半になると、笹平遺跡をはじめ滝瀬遺跡、川向東貝津遺跡と川向地区の大畑遺跡がある。川向東貝津遺跡では蓋石のある埋甕が見つかっており、丘陵の頂部に展開する大畑遺跡では副炉をもつ竪穴建物跡が発見された。

縄文時代後期では、大名倉地区の大名倉遺跡、小松地区のマサノ沢遺跡、笹平遺跡、杉平遺跡、さらに豊邦貝津の神谷沢遺跡など、古くから遺物が多く採集されてきた。マサノ沢遺跡では後期前葉～中葉にかけての埋葬遺構群と遺物集積が確認された。なお、この笹平遺跡では、後期初頭～中葉にかけての集落跡が見つかり、多数の竪穴建物跡が発見された。

縄文時代晩期の遺物は、大名倉遺跡・笹平遺跡・滝瀬遺跡・田口地区の大崎遺跡などで散発的に確認される。滝瀬遺跡では、櫛原文様を有する石刀が出土している。マサノ沢遺跡では、晩期後葉の良好な遺物包含層が確認されている。川向地区の上ヲロウ・下ヲロウ遺跡では、竪穴建物跡と思われる遺構が調

査され、川向地区の石原遺跡では自然流路内に形成された土器集積が見つかっている。

弥生時代前期では条痕文土器は縄文時代晩期同様に、各遺跡で散在的にみつかっている。遺構としては、笹平遺跡やマサノ沢遺跡での土器棺墓が主体となる。川向地区の下延坂遺跡では、弥生時代中期の土器が採集されている。弥生時代中期では上ヲロウ・下ヲロウ遺跡と大崎遺跡で竪穴建物跡が良好な状態で発見されている。

古墳時代の活動は設楽ダム関連の調査では明瞭な部分が多いが、名倉地区では古墳時代後期から古代にかけて遺跡がまとまって確認されている。その中でも、丸根古墳や屋木下古墳は戦前から知られた古墳で、調査も実施されている。

古代以降では、南ヶ岳遺跡で古代の清郷甕の出土が以前から知られていた。滝瀬遺跡では、灰釉陶器とともに古代の土坑・柱穴やカマドを伴う竪穴建物跡が見つかっている。八橋地区では、中村遺跡などさらに北側に向かって当該時期の資料が見つかる可能性がある。

中世では、大崎遺跡で水田耕作など活動の場が、西地・東地遺跡で鉄関連の作業場と見られる竪穴状遺構が、滝瀬遺跡で大型の倉庫と思われる掘立柱建物跡などの遺構や遺物が発見されており、中世・近世の集落の様子が次第に明らかになりつつある。

第６図　設楽ダム関連遺跡分布図 (S=1/25,000)

第２章　遺構

第１節　調査方法と基本層序

１調査区の設定と調査の方法

平成18（2006）年度と平成20（2008）年度範囲確認調査（現在の本発掘調査Ａ）の結果、本調査（現在の本発掘調査Ｂ）の対象となったのは、遺跡が所在する段丘面全体の北半部で、その調査面積6930㎡である。調査対象地は境川の東側左岸の川に対して西に張り出す段丘上に立地し、この段丘は川側が標高385m前後と低いのに対し、中央が標高387m前後と一段高くなっている（第９図）。このため、川側の低い段丘部分を15Ａ区（以下Ａ区と略す）、高い段丘部分のうち北西側半分を15Ｂ区（以下Ｂ区と略す）、南東側半分を15Ｃ区（以下Ｃ区と略す）として調査を開始した。さらに、Ｂ区とＣ区については、調査を進めていく過程で主に遺構全景撮影など調査手順の都合から、Ｂａ区、Ｂｂ区、Ｂｃ区、Ｃａ区、Ｃｂ区とＣｃ区に細分することとした。

発掘調査にあたっては、調査区全域に世界測地系の国土座標測定値による10mグリッドを設定し（第８図）、グリッド毎に出土遺物の取り上げ、遺構の整理を行っている。特に縄文時代の遺構・遺物が多く出土した区域に関しては、必要に応じて5mグリッドによる調査を行った。

調査は、重機による表土掘削および人力による包含層掘削を実施した後に、平面と壁面を精査して遺構検出を行い、これらの略測図を記録し写真を撮影した。検出された遺構は、土層断面を記録できるように遺構の形状に合わせ半截またはベルトを設定して掘削を進め、必要に応じて遺物出土状態や土層断面の測量や写真撮影などの記録作業を実施した。そして、概ね全ての遺構を完掘し終えた状態で空中撮影など全体撮影を実施した。撮影後は遺構の断ち割り調査や基盤層を確認するための深掘り調査などの補足調査を実施した。調査終了後は境川に濁水が流出しないよう埋め戻し作業を実施し、調査区域を事業者に引き渡した。

笹平遺跡の発掘調査成果の情報公開としては、発掘調査期間中に概ね毎月刊行される設楽発掘通信（10号～16号）に調査成果速報が掲載されたほか、平成27（2015）年８月８日に地元説明会を開催し79名参加した。また、同年11月21日には２回目の地元説明会を開催し110名が参加した。さらに、平成28（2016）年３月８日に開催された「平成27年度設楽ダム関連発掘調査成果報告会『新設楽発見伝２』でも調査成果の概要が報告された。

発掘調査は平成27（2015）年５月から開始し12月に現地調査は終了し、埋め戻し作業を含めて平成28（2016）年１月に完了した。遺物洗浄は発掘調査時から並行して実施している。平成28（2016）年２月から３月の２ヶ月間は図面整理を中心とした二次整理作業を実施したが、本格的な二次整理作業は令和元（2019）年度から令和２（2020）年度にかけて実施した。報告書印刷刊行は令和３（2021）年度に実施した。

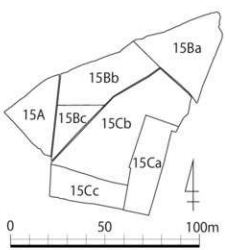
２調査日誌抄録

現地調査の経過について、調査区別に概要を記述する。

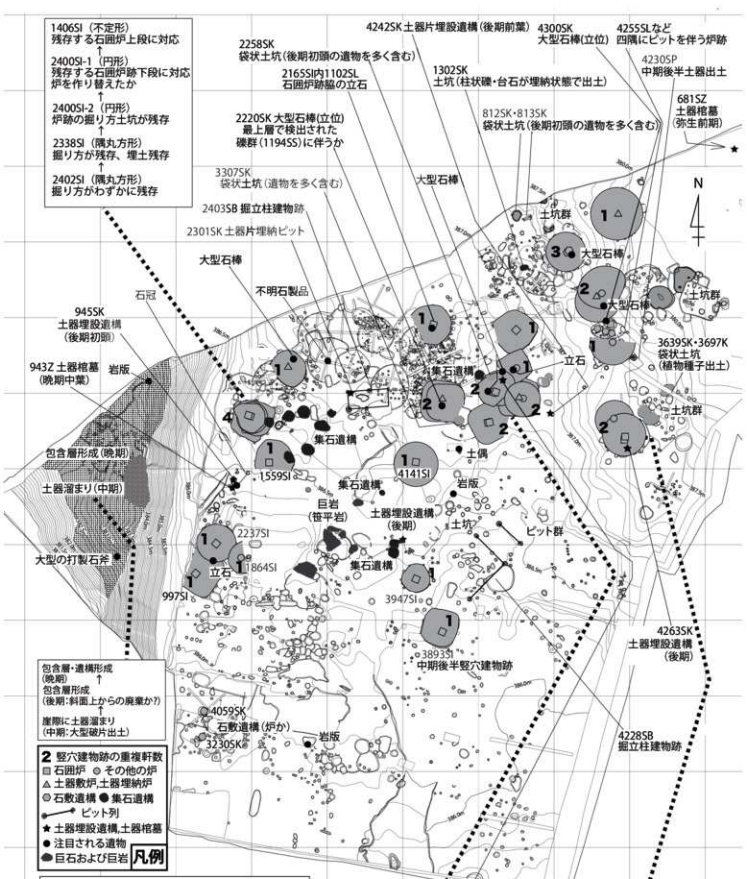
（１）Ａ区の調査経過

５月18日～22日　表土掘削。耕作土と厚い礫層を除去し黒色細粒砂か黒色シルトまで掘削した。

６月１日　人力による掘削作業開始。東西方向にトレンチ１を掘削した。



第７図　笹平遺跡調査区配置図（S=1/2000）



第８図　笹平遺跡主要遺構配置図（S=1/500）

6月4日　褐色細粒砂またはシルト上面で遺構が確認された。

6月15日　縄文時代晩期包含層（黒色細粒砂）を059SXとして掘削しが多数の石器出土。

6月24日　1面遺構撮影。

8月5日　ラジヘリによる1面遺構撮影（Ba区1面とBc区1面と同時に）。

8月6日～7日　1面遺構の補足調査。

10月2日～15日　2面遺構調査。土器埋設土坑などの精査し縄文時代晩期の土器が出土。

10月16日　断ち割り調査。厚0.3m程の遺物包含層を確認。土壌サンプル採取。

10月19日　土層断面の調査。

11月27日　ラジヘリによる2面遺構撮影（Bb区2面とCb区2面と同時に）。

12月1日～3日　2面遺構の補足調査。崖近くにある深い落ち込み 2256SX などを掘削。

12月11日　埋め戻し作業開始。

（2）Ba区の調査経過

5月25日　B区表土掘削開始。

5月26日～6月19日　Ba区表土掘削。範囲確認調査の試掘坑を参考に表土などの掘削。

6月1日　1面遺構検出を開始。北端部で681SZを検出。

6月5日　1面遺構掘削を開始。A区作業と並行して断続的に実施。

6月29日　1面遺構掘削を本格的に開始。まず、近世後期から現代までの撹乱や遺構の完掘を進める。

7月29日頃　788SIおよび790SIの調査を開始。

8月5日　ラジヘリによる1面遺構撮影（A区1面とBc区1面と同時に）。

8月6日　1面遺構の補足調査および北端の681SZと788SI・790SIなどの南西部遺構群の調査。

9月4日　北端の土器棺墓681SZを完掘。翌週からa区北半部の埋め戻しを開始。

10月2日　790SI内917SLの完掘をもって南西部遺構群の調査が完了。

10月5日　埋め戻し作業開始。

（3）Bb区の調査経過

6月27日～7月13日　Bb区表土掘削をBc区に引き続き実施。

8月10日　1面遺構検出を本格的に開始。

8月21日　近世後期以降の茶畑関連畝状遺構群は検出と同時に掘削することとした。

8月24日　近世後期以降の茶畑関連畝状遺構群を完掘した状態で再度遺構検出を実施。

8月25日　1面遺構掘削を開始（配石遺構1194SSなど本格的な掘削は9月4日から）。

10月1日　ラジヘリによる1面遺構撮影（Bc区2面とCa区1面と同時に）。

10月2日　1面遺構の補足調査およびBa区境界部の包含層掘削を開始。

10月15日　2面遺構検出と掘削を開始。一部で深さ15cm程度の大形遺構が竪穴建物跡である可能性を考えて調査を実施したが、茶畑関連畝状遺構群との関係からみて実際には竪穴建物ではないと判断された。

11月27日　ラジヘリによる2面遺構撮影（A区2面とCb区2面と同時に）。

12月1日～10日　2面遺構の補足調査。

12月11日　埋め戻し作業開始。

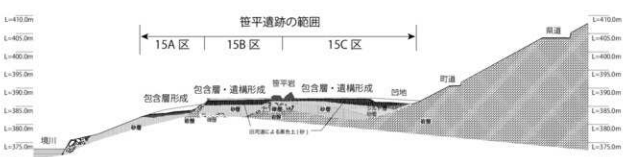
（4）Bc区の調査経過

6月20日～6月27日　Bc区表土掘削。Ba区に引き続き実施。

7月21日　1面遺構検出を開始。

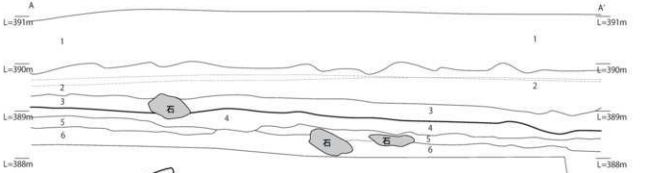
7月24日　1面遺構掘削を本格的に開始。大部分は近世後期以降の茶畑関連畝状遺構群であることが判明した。

8月5日　ラジヘリによる1面遺構撮影（A区1面とBa区1面と同時に）。

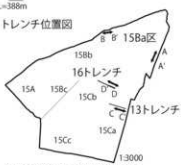


第9図　笹平遺跡地形断面模式図【東西方向】(S=1/1000)

Ba区東壁 A-A'土層断面図

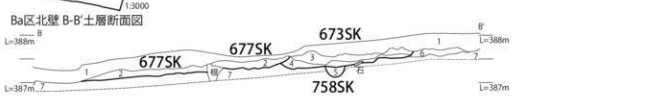


トレンチ位置図



1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 中礫の角礫を多量に含む。（表土）
2 10YR4/2 灰黄褐色 シルト層 中礫の角礫を多量に含む。下部に大礫の角礫がやや集中する。
3 10YR2/1 黒褐色 シルト層 中礫の角礫を多量に含む。
4 10YR3/2 黒褐色 シルト層 中礫の角礫を多量に含む。
5 10YR4/2 灰黄褐色 シルト層 中礫の角礫を少量含む。
6 10YR5/4 黄褐色 細粒砂少量含むシルト層 中礫の円礫を少量含む。上部に暗褐色シルトブロックを含む。
7 10YR5/4 黄褐色 細粒砂多量に含む礫層 中礫の円礫を含む。

Ba区北壁 B-B'土層断面図

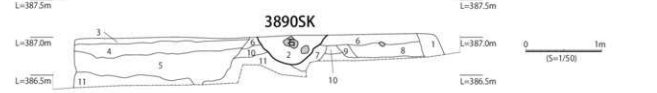


1 10YR2/1 黒色 シルト含む極細粒砂層 暗褐色極細粒砂ブロックを含む。細～粗砂、大礫の亜角礫・亜円礫を含む。部分的にビニール等を含む。
2 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 灰黄褐色シルトブロックを含み、黄褐色シルトブロックを極少量含む。（677SK）
3 10YR3/3 暗褐色 シルト層 中礫の亜円礫を極少量含む。炭化物を極少量含む。（673SK）
4 10YR3/2 細粒砂含むシルト層 灰黄褐色シルトブロックを含み、中礫の亜角礫を極少量含む。炭化物を少量含む。（673SK）
5 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 黄褐色シルトブロックを少量含み、中礫の円礫を含む。赤色粒子を含む。（758SK）
6 10YR3/2 黒褐色 シルト層 黄褐色シルトブロックを含む。
7 10YR4/4～6 褐色 中粒砂多く含む細粒砂層 暗褐色細粒砂ブロックを含み、黄褐色細粒砂の小ブロックを含む。巨礫の風化岩盤あり。（地山）

13トレンチ C-C'土層断面図

1 10YR2/2 黒褐色 シルト層 暗褐色シルトブロックを含み、中礫の円礫を少量含む。
2 10YR2/3 暗褐色 シルト層 中礫の円礫を含む。
3 10YR3/1 黒褐色 細粒砂含むシルト層 中礫の亜円礫を含む。
4 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂含むシルト層 中礫の亜円礫を含む。
5 10YR5/4 にぶい黄褐色 細粒砂 中礫の亜円礫を少量含む。上部に灰黄褐色シルトブロックを少量含む。

16トレンチ D-D'土層断面図



1 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂少量含むシルト層 暗褐色極細粒砂ブロックを非常に多く含み、
褐色極細粒砂の小ブロックを含む。中～大礫の亜角礫を含む。炭化物を少量含む。
2 3890SKの土層（詳細土層断面図参照）
3 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 炭化物を極少量含む。
4 8.75YR2/2 黒褐色 極細粒砂含むシルト層 細～中砂を含み、中礫の亜角礫を含む。細礫を含む。炭化物を少量含む。
5 10YR1.7/1 黒色 シルト少量含む極細粒砂層 黒褐色シルトブロックを非常に多く含む。細礫を多量に含む。炭化物を少量含む。
6 10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層
7 10YR3/3 暗褐色 シルト少量含む極細粒砂層 黒色シルトブロックを含み、褐色極細粒砂の小ブロックを少量含む。細礫を含む。
8 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂少量含むシルト層 細礫を含む。
9 10YR2/3 黒褐色 シルト含む極細粒砂層 粗粒砂～細礫を含む。炭化物を極少量含む。
10 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂含むシルト層 暗褐色極細粒砂ブロックを多量に含み、褐色極細粒砂の小ブロックを含む。細礫を含む。
11 10YR4/4 褐色 細粒砂含む極細粒砂層 暗褐色極細粒砂ブロックを非常に多く含む。中～粗粒砂を含む。（地山）

第 10 図　主要土層断面図（1）(S=1/50)

8月6日　1面遺構の補足調査および2面遺構検出の開始。
9月7日　2面遺構掘削を開始。竪穴状の大型落ち込みなどを調査。
10月1日　ラジヘリによる2面遺構撮影（Bb区1面とCa区1面と同時に）。
10月2日　2面遺構の補足調査を開始。土器埋設遺構943SKなど実施。
10月8日　Bc区は調査を終了し埋め戻し作業。

（5）Ca区の調査経過

8月25日～9月16日　Ca区表土掘削。
8月31日　人力により調査を開始，
9月14日　東壁トレンチ掘削。
9月18日　東西トレンチ掘削。
9月22日　1面遺構検出を実施し、引き続き遺構掘削を開始。
10月1日　ラジヘリによる1面遺構撮影（Bb区1面とBc区2面と同時に）。終了後補足調査。
10月5日　東壁付近で深掘り調査を行い、調査終了。
10月6日　埋め戻し作業。

（6）Cb区の調査経過

10月8日～29日　表土掘削。
10月13日　1面遺構検出と掘削を開始。
10月16日　北東部で竪穴状遺構の調査。
11月6日　南東部の竪穴状遺構のベルト外し。耕作に伴うと思われる溝を検出し掘削。その後、耕作による畝溝が深く入り込んでいる様子を観察し、畝溝などの遺構を1面遺構として図化など記録しつつさらに掘り下げることとした。
11月16日　記録作業を終了した1面遺構を掘り下げ2面遺構検出と掘削を開始。
11月27日　ラジヘリによる2面遺構撮影（A区2面とBb区2面と同時に）。空撮としては1面目となる。
12月1日～10日　2面遺構の補足調査。
12月11日　埋め戻し作業開始。

（7）Cc区の調査経過

9月24日～29日　表土掘削。
10月2日　遺構検出と遺構掘削を開始。
10月13日　1面遺構撮影。
10月14～15日　北壁深掘り調査。
10月19日　埋め戻し作業開始。

3 調査の概要と基本層序

（1）調査成果の概要

笹平遺跡の発掘調査で確認された遺構は近代以降の可能性もあるものを含めて3404基を数える。また、この発掘調査で遺物は27リットル入りコンテナで459箱が出土した。出土遺物から推定される遺構の時期は、概ね5期に区分される（第9図）。

縄文時代中期後半　遺構としては竪穴建物跡1棟、柱列1ピット2基がある。

縄文時代後期初頭から後期中葉　遺構としては竪穴建物跡26棟、竪穴建物との関係が不明の炉5基、貯蔵穴などの土坑14基、土器埋設遺構5基（炉の中に埋納されたものを除く）、集石遺構10基、柱列2列ピット2基と3基、掘立柱建物跡1棟、大型石棒および立石を伴うピット4基、礫群1基、その他土坑および柱穴多数。

縄文時代後期後葉～中葉　竪穴建物跡と思われるもの2棟、土器棺墓1基。

弥生時代前期　土器棺墓1基

古代　土坑1基

なお、笹平遺跡では竪穴建物跡が29棟（作り直しも含めると34棟）確認されているが、ここでいう竪穴建物跡は20㎡～50㎡の規模を持つ円形または隅丸方形の平面プランの竪穴のうち、その中央付近に炉跡を有するものを指している。多くの場合、柱穴や壁溝または壁穴列などの付属施設を伴っている。これら以外に炉跡や付属施設を持たない同規模の竪穴については土坑（大型落ち込み）などと称することとする。

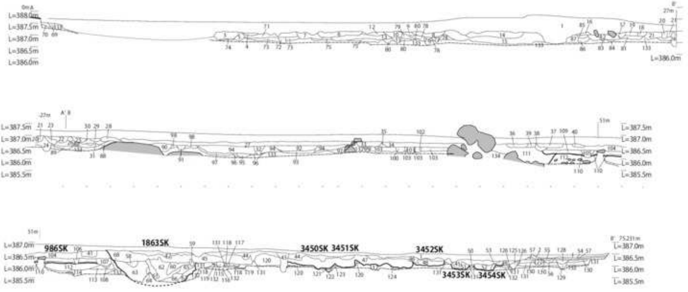
（2）笹平遺跡の地形と堆積の概況

笹平遺跡は境川の東側左岸の川に対して西に張り出す段丘上に立地する。段丘の地盤形成層は古い河川堆積層で、山側東側ではシルト層が、谷側西側では砂層が主体となっており、A区とB区の境とB区とC区の境では巨礫が多く認められた。特に、B区・C区の巨礫群は旧河道由来の黒色土の中に存在しており、段丘の中心にある巨岩（『年報平成27年度』で「笹平岩」と命名）もこの黒色土に伴うものである。堆積状況はA区とB・C区では大きく異なっているので、以下に個別に説明する。

（3）B・C区の基本層序

B・C区は地表面の標高は大部分が387mから388mを測り、南に向かって緩やかに下がっている。B・C区が立地する平坦面は、平面形が山麓に面す

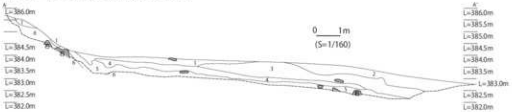
4トレンチ土層断面図



1 10YR2/1 黒色 細粒砂多く含むシルト層 表土＋撹乱
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層
黄褐色シルトの小Blockを非常に多く含む。
3 10YR2/2 黒褐色 シルト層
4 10YR2/2 黒褐色 シルト層
5 10YR2/1 黒色 シルト層
6 10YR2/3 黒褐色 シルト層
7 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層
8 10YR2/3 黒褐色 シルト層
9 10YR2/2 黒褐色 シルト層
10 10YR2/2 黒褐色 シルト層
11 10YR2/1 黒色 極細粒砂層
12 10YR3/2 黒褐色 シルト層
13 10YR2/2 黒褐色 シルト層
14 10YR2/3 黒褐色 シルト層
15 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層
16 10YR3/2 黒褐色 シルト層
17 10YR2/2 黒褐色 シルト層
18 10YR2/2 黒褐色 シルト層
19 10YR2/1 黒色 シルト層
20 10YR3/2 黒褐色 シルト層
21 10YR2/2 黒褐色 シルト層
22 撹乱
23 10YR2/3 黒褐色 シルト層
24 10YR2/2 黒褐色 シルト層
25 表土
26 10YR2/2 黒褐色 シルト層
27 10YR2/2 黒褐色 シルト層
28 10YR2/2 黒褐色 シルト層
29 表土
30 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層
31 10YR3/2 黒褐色 シルト層
32 10YR2/2 黒褐色 シルト層
10YR4/4褐色極細粒砂の小Blockを含む。
33 10YR2/1 黒色 シルト層
34 10YR2/1 黒色 シルト層
35 10YR2/1 黒色 シルト層
36 10YR1.7/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層
炭化物を少量含む。
37 10YR2/1 黒色 細粒砂少量含むシルト層
38 10YR2/1～2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
39 10YR2/1 黒色 細粒砂少量含むシルト層
40 10YR2/1 黒色 細粒砂少量含むシルト層
41 10YR1.7/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層
42 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂少量含むシルト層。
褐色極細粒砂の小Blockを少量含む
43 10YR2/2 黒褐色 シルト少量含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小Blockを含み、
黒色シルトの小Blockを少量含む。
44 10YR2/2 黒褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層
暗褐色極細粒砂の大Blockを非常に多く含み、
褐色極細粒砂の小Blockを含む。
45 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂含むシルト層
黒色シルトBlockを多量に含み、
褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。
46 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂含むシルト層
黒色シルトBlockを多量に含み、
褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。
47 10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層
暗褐色極細粒砂Blockを非常に多く含み、
褐色極細粒砂の小Blockを含む。
48 10YR2/1 黒色 極細粒砂含むシルト層
褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。
49 10YR2/1 黒色 極細粒砂含むシルト層
褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。
50 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小Blockと炭化物を少量含む。
51 10YR2/1 黒色 極細粒砂含むシルト層
褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。
52 10YR2/1 黒色 極細粒砂含むシルト層
褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。
53 10YR2/1 黒色 極細粒砂含むシルト層
褐色極細粒砂の小Blockを含む。
54 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層
黒色シルトの大Blockを非常に多く含み、
黄褐色シルトの小Blockを少量含む。
55 10YR2/2 黒褐色 シルト含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。
炭化物を極少量含む。鉄分少量沈着。
56 10YR4/4 褐色 細粒砂含む極細粒砂層
黒褐色極細粒砂Brを含む。
57 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
黒色シルトの大Brを含む。鉄分沈着。
58 10YR1.7/1 黒色 極細粒砂含むシルト層
59 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層
褐色極細粒砂の小Brを非常に多く含む。
60 10YR4/3 にぶい黄褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層
61 10YR1.7/1 黒色 極細粒砂含むシルト層
62 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂含むシルト層
63 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
細礫を多量に含む。中礫の亜角礫を含む。
64 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小ブロックを少量含む。
65 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂含むシルト層
66 10YR3/4 暗褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小ブロックを非常に多く含む。
67 10YR2～3/3 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層
細礫を含む。炭化物を少量含む。
68 10YR2/1 黒色 細粒砂含む極細粒砂層
69 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト層
10YR5/4 にぶい黄褐色極細粒砂の斑土。
70 10YR4/3 にぶい黄褐色 シルト層
10YR5/4 にぶい黄褐色極細粒砂の斑土。
71 10YR2/2 黒褐色 シルト層
72 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層
73 10YR1.7/1 黒色 極細粒砂～細粒砂層
74 10YR3/2 黒褐色 シルト層
75 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂層
10YR2/2 黒褐色 シルトとの斑土。
76 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂層
77 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂層
78 10YR2/2 黒褐色 シルト層
79 10YR2/2 黒褐色 シルト層
80 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂層
81 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層
82 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層
83 10YR2/2 黒褐色 シルト層
84 10YR2/2 黒褐色 シルト層
85 10YR3/2 黒褐色 シルト層
86 10YR2/1 黒色 シルト層
10YR4/3 にぶい黄褐色 細粒砂の大Brを含む。
87 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂層
88 10YR1.7/1 黒色 極細粒砂層
89 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂層
90 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層
91 10YR2/2 黒褐色 シルト層
92 10YR2/1 黒色 シルト層
細～中礫の亜角礫を多量に含む。
93 10YR2/1 黒色 シルト層 細礫を多量に含む。
94 10YR2/1 黒色 シルト層 細礫を多量に含む。
95 10YR2/2 黒褐色 細粒砂層 下部に10YR3/2 黒褐色 細粒砂ブロックを含む。
96 10YR2/1 黒色 極細粒砂層 10YR3/2 褐色 細粒砂との斑土。
97 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂～細粒砂層
98 10YR2/3 黒褐色 シルト層 10YR4/4 褐色 極細粒砂の小ブロックを含む。
99 10YR2/1～2 黒褐色 極細粒砂層
100 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層 10YR4/4 褐色 極細粒砂の小ブロックを少量含む。
101 10YR2/1 黒色 極細粒砂層 細～中礫の亜角礫を多量に含む。
102 10YR2/1～2 黒褐色 極細粒砂層 細～中礫の亜角礫を多量に含む。
103 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層 10YR4/4 褐色 極細粒砂の小ブロックを含む。
104 10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層 細礫を多量に含む。中礫の亜角礫を含む。
105 10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層 細礫を多量に含む。炭化物を少量含む。
106 10YR1.7/1 黒色 細粒砂含むシルト層
107 10YR2/1 黒色 極細粒砂含むシルト層
108 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小ブロックを少量含む。
109 10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂の小ブロックを含む。細礫を多量に含む。中礫の亜角礫を含む。
110 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂少量含むシルト層
111 10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層 細礫を多量に含む。大～巨礫の亜角礫・亜円礫を多量に含む。
112 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層 細礫を多量に含む。下位に大～巨礫の亜角礫・亜円礫を含む。
113 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小ブロックを少量含む。
114 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂の小ブロックを含む。
115 10YR2/2 黒褐色 中粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小ブロックを少量含む。
116 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小ブロックを非常に多く含む。
117 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小ブロックを少量含む。
118 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小ブロックを少量含む。
119 10YR3/3 暗褐色 細粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小ブロックを少量含む。
120 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層 暗褐色極細粒砂とラミナ堆積。
121 10YR3/4 暗褐色 中粒砂少量含む極細粒砂層 黒褐色シルトの小ブロックを少量含む。
122 10YR3/4 暗褐色 中粒砂含む極細粒砂層
123 10YR2/2 黒褐色 中粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小ブロックを含む。
124 10YR3/4 黒褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小ブロックを非常に多く含む。
125 10YR2/3 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小ブロックを多量に含む。炭化物を少量含む。
126 10YR3/4 暗褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層 黒褐色極細粒砂ブロックを含み、褐色極細粒砂の小ブロックを少量含む。
127 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂ブロックを非常に多く含む。
128 10YR2/2 黒褐色 中粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小ブロックを含む。
129 10YR2/3 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小ブロックを非常に多く含む。
130 10YR3/3～4 暗褐色 細粒砂含む極細粒砂層 黒褐色極細粒砂ブロックを多量に含む。(地山)
131 10YR4/4 褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層 黒褐色極細粒砂ブロックを含む。(地山)
132 10YR4/4 褐色 極細粒砂含む細粒砂層 黒褐色極細粒砂の小ブロックを少量含む。
133 10YR4/4 褐色 極細粒砂層(地山)
134 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 大～巨礫の亜角礫・亜円礫を多量に含む。(地山)

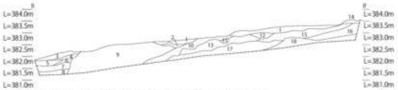
第 11 図 主要土層断面図（2）(S=1/50)

A区1トレンチ南壁 A-A'土層断面図

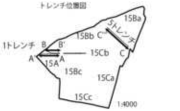


1 10YR2/1 黒色 極細粒砂含む細粒砂層
2 10YR7/4 にぶい黄橙色 極粗粒砂多く含む粗粒砂層 上位に中礫の亜角礫を非常に多く含み、下位に大礫の亜角礫を非常に多く含む。
3 10YR7/4 にぶい黄橙色 極細粒砂多く含む粗粒砂層 上位に中礫の亜角礫を非常に多く含み、下位に大礫の亜角礫を非常に多く含む。
4 10YR2/1 黒色 中粒砂少量含む細粒砂層 大礫の亜角礫を少量含む。縄文土器・剥片礫を含む。
5 10YR4/4 褐色 中粒砂多く含む細粒砂層 巨礫の亜角礫を含む。縄文土器・剥片礫を含む。
6 10YR5/6 黄褐色 粗粒砂含む中粒砂層 大礫の亜角礫を含む。巨礫0.6m以上の亜角礫と1.7m以上の角礫がある。

A区1トレンチ北壁 B-B'土層断面図

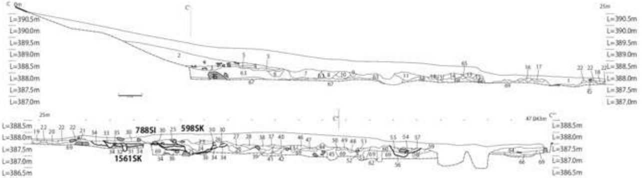


トレンチ位置図



1 10YR2/2 黒褐色 シルト層 10YR4/3 にぶい黄褐色細粒砂ラミナ堆積をなす。
2 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂含む細粒砂層 黄褐色極細粒砂の小ブロックを多量に含む。
3 10YR4/6 褐色 粗粒砂含む細粒砂層 黄褐色細粒砂ブロックを非常に多く含む。細礫を含む。
4 10YR5/4 にぶい黄褐色 極細粒砂含む細粒砂層 黄褐色極細粒砂の小ブロックを多量に含む。細礫を含む。
5 10YR5/4 にぶい黄褐色 極粗粒砂含む粗粒砂層 細礫を含む。中礫の亜角礫を多量に含む。
6 10YR5/4 にぶい黄褐色 粗粒砂多く含む中粒砂層 細礫を含む。
7 10YR5/4 にぶい黄褐色 極粗粒砂多く含む中粒砂層 粗粒砂～細礫を含む。中礫の亜角礫を多量に含む。
8 10YR5/4 にぶい黄褐色 極粗粒砂多く含む粗粒砂層 細～中粒砂を含む。細礫を含む。
9 10YR4/4 褐色 中粒砂含む細粒砂層 中～巨礫の角礫～亜角礫を多量に含む。
10 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂層 細～大礫の亜円礫・亜角礫を含む。
11 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂層
12 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂層 土器片を含む。
13 10YR5/4 にぶい黄褐色 細粒砂層 中礫の円礫～亜角礫を多量に含む。
14 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂層
15 10YR4/4 褐色 極細粒砂層 黄褐色極細粒砂の小ブロックを少量含む。
細～中礫の亜円礫・亜角礫を含む。
16 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂層 細～大礫の亜円礫・亜角礫を含む。
17 10YR5/6 黄褐色 中粒砂含む細粒砂層
細礫～中礫の亜円礫・亜角礫を含む。
18 10YR4/4 褐色 極細粒砂層 細～大礫の円礫～亜角礫を多量に含む。

1ベルト 5トレンチ C-C'''土層断面図



1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 中礫の角礫を多量に含む。
2 10YR2/1 黒褐色 シルト層 大～中礫の角礫を多量に含み、細礫の角礫を含む。
3 10YR4/2 灰黄褐色 シルト層 中礫の角礫を多量に含み、細礫の亜角礫を少量含む。炭化物を極少量含む。
4 10YR2/2 黒褐色 シルト層 中礫の角礫を含み、細礫の角礫を極少量含む。
5 10YR3/2 黒褐色 シルト層 灰黄褐色シルトブロックを含む。
6 10YR4/2 灰黄褐色 細砂含むシルト層 中礫の亜円礫を少量含む。
7 10YR4/2 灰黄褐色 細砂含むシルト層 中礫の亜円礫を少量含む。
8 10YR4/2 灰黄褐色 シルト層 暗褐色シルトブロックを少量含み、細礫の亜角礫を少量含む。
9 10YR3/2 黒褐色 シルト層
10 10YR4/2 灰黄褐色 シルト層 細礫の亜円礫を少量含む。
11 10YR3/2 黒褐色 シルト層 中礫の亜角礫を少量含む。
12 10YR3/2 黒褐色 細砂含むシルト層 灰黄褐色シルトブロックを少量含む。
13 10YR3/1 黒褐色 細砂含むシルト層 細礫の亜円礫を少量含む。
14 10YR4/2 灰黄褐色 シルト層 暗褐色シルトブロックと細礫の亜円礫を少量含む。
15 10YR4/2 灰黄褐色 シルト層 暗褐色シルトブロックと細礫の亜円礫を少量含む。
16 10YR4/2 灰黄褐色 シルト層 黄褐色シルトブロックを多量に含み、細礫の亜円礫を少量含む。
17 10YR4/2 灰黄褐色 シルト層 黄褐色シルトブロックを多量に含み、細礫の亜円礫を少量含む。
18 10YR3/2 黒褐色 細砂少量含むシルト層 黄褐色シルトブロックを少量含み、細礫の亜角礫を含む。
19 10YR3/2 黒褐色 細砂少量含むシルト層 黄褐色シルトブロックを少量含み、細礫の亜角礫を含む。
20 10YR3/2 黒褐色 細砂少量含むシルト層 黄褐色シルトブロックを少量含み、細礫の亜角礫を含む。
21 10YR3/2 黒褐色 シルト層 黄褐色シルトブロックを少量含む。
22 10YR4/2 灰黄褐色 細砂含むシルト層 黄褐色シルトブロックを少量含む。
23 10YR2/1 黒色 シルト層 中礫の亜角礫・細礫の亜円礫を少量含む。
24 10YR2/2 黒褐色 シルト層 中礫の亜角礫を含み、細礫の亜円礫を少量含む。
25 10YR3/2 シルト層 中礫の亜角礫を極少量含み、細礫の亜円礫を少量含む。
26 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫の亜円礫を少量含む。
27 10YR2/2 黒褐色 シルト層 細礫の亜円礫を少量含む。
28 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 中礫の亜角礫を含む。
29 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂多量に含むシルト層 中礫の亜角礫を多量に含む。
30 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 巨礫の円礫を含み、中礫の円礫と細礫の亜円礫を少量含む。
31 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫の亜円礫を少量含む。（1561SK1層）
32 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 中礫の亜円礫を極少量含む。（1561SK2層）
33 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
34 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 黄褐色シルトブロックと中礫の円礫と細礫の亜円礫を少量含む。
35 10YR3/1 黒褐色 細粒砂含むシルト層
36 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂多量に含むシルト層 黄褐色シルトブロックを含む。（788SI最下層）
37 10YR2/2 黒褐色 シルト層 細礫の亜角礫を少量含む。
38 10YR2/2 黒褐色 シルト層 細礫の亜角礫を含む。
39 10YR2/2 黒褐色 シルト層 黄褐色シルトブロックを少量含み、細礫の亜角礫を多量に含む。
40 10YR3/2 黒褐色 シルト層 中礫の円礫を少量含む。
41 10YR3/2 黒褐色 シルト層 中礫の円礫・細礫の亜角礫を少量含む。
42 10YR3/2 黒褐色 シルト層 黄褐色シルトブロックを少量含み、中礫の円礫・細礫の亜角礫を少量含む。
43 10YR4/2 灰黄褐色 シルト層 にぶい黄褐色シルトブロックを含み、中礫の亜角礫を少量含む。
44 10YR3/1 黒褐色 シルト層 中礫の亜角礫を少量含む。
45 10YR2/3 暗褐色 シルト層 灰黄褐色シルトブロックを多量に含み、中礫の亜角礫を含む。
46 10YR3/2 黒褐色 シルト層 中礫の円礫を極少量含む。
47 10YR3/2 黒褐色 シルト層 黄褐色シルトブロックを含み、中礫の円礫を極少量含む。
48 10YR3/2 黒褐色 シルト層 黄褐色シルトブロックを含む。
49 10YR3/2 黒褐色 シルト層 暗褐色シルトブロックを含む。
50 10YR3/2 黒褐色 シルト層 灰黄褐色シルトブロックを少量含む。
51 10YR3/2 黒褐色 シルト層
52 10YR3/2 黒褐色 シルト層 灰黄褐色シルトブロックを多量に含む。
53 10YR3/1 黒褐色 シルト層 黄褐色シルトブロックを含み、
細礫の亜円礫を含む。
54 10YR2/2 黒褐色 シルト層 中礫の亜円礫を極少量含み、
大礫の亜円礫を含む。（765SK）
55 10YR3/3 暗褐色 シルト層 中礫の亜円礫を極少量含む。（765SK）
56 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
灰黄褐色シルトブロックを含む。（765SK）
57 10YR3/3 暗褐色 シルト層 中礫の亜円礫を少量含む。
58 10YR2/1 黒褐色 シルト層 黄褐色シルトブロックを少量含む。
59 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
灰黄褐色シルトブロック・黄褐色シルトブロックを含む。
60 10YR3/1 黒褐色 シルト層 灰黄褐色シルトブロックを含む。
61 10YR3/1 黒褐色 シルト層 灰黄褐色シルトブロックを多量に含む。
62 10YR2/1 黒褐色 シルト層 黄褐色シルトブロックを少量含む。
63 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂少量含むシルト層
大礫の角礫を極少量含む。
64 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
灰黄褐色シルトブロックを含む。
65 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 細礫の亜円礫を少量含む。
66 10YR3/2 黒褐色 シルト層 黄褐色シルトブロックを少量含む。
67 10YR4/2 灰黄褐色 細砂含むシルト層
黄褐色シルトブロックを含み、中礫の亜円礫を少量含む。（地山）
68 10YR3/1 黒褐色 シルト層 灰黄褐色シルトブロックを多量に含む。
69 10YR5/4 黄褐色 細粒砂含むシルト層
灰黄褐色・暗褐色シルトブロックを上部に含む。（地山）

第12図 主要土層断面図（3）(S=1/160)

る部分を底辺とする台形状を呈しており、その中央部がやや高くなり山麓付近は南北方向に長く伸びる微低地となっている。

Ｂ区北側での基本層序は、第10図Ｂａ区北壁B-B'土層断面図でみると、Ⅰ層：黒色シルト含む極細粒砂（1層）、Ⅱ層：黒褐色シルト（6層）、Ⅲ層：褐色中粒砂を含む細粒砂（7層）で構成されており、多くの遺構はⅡ層（黒褐色シルト）上面から掘削されていた。Ⅱ層は縄文時代から古代までの複数層の遺物包含層を形成していたと推定される堆積であるが、現代までの耕作や宅地開発により複雑に攪乱されたとみられ、詳細に区分することはできない。遺構に伴わない遺物の多くは検出Ⅰで取り上げている。

Ｂａ区とＢｂ区の境界に設置されたⅠベルトの北側に掘削された5トレンチでの基本層序は、第12図5トレンチC-C''土層断面図でみると、山側でⅠ層：黒褐色細粒砂多くシルト（1層）、Ⅱ層：黒褐色シルト（2層など）、Ⅲ層：灰黄褐色細粒砂含むシルト（63層と67層：地山）の順で堆積していた。トレンチ中央部ではⅠ層直下で788SI、598SK、1561SKなどの遺構が存在し、地山の黄褐色細粒砂含むシルト（69層）に至る。

調査区北東部の山際に相当するＢａ区東壁での基本層序は、第10図Ｂａ区東壁A-A'土層断面図でみると、Ⅰ層：黒褐色細粒砂含むシルト（1層）、Ⅱ層：灰黄褐色シルト（2層）、Ⅲ層：黒褐色シルト（3,4層）、Ⅳ層：灰黄褐色シルト（5層）、Ⅴ層：黄褐色細粒砂含むシルト（6層）、Ⅵ層：黄褐色細粒砂含む礫（7層）で構成されている。Ｂａ区東端部やＣａ区では、Ⅲ層中で遺構検出を試み、若干の土坑などの遺構を確認した。

Ｃａ区北部にある東西トレンチでの基本層序は、第10図13トレンチC-C'土層断面図でみると、表土下（遺構検出面：標高約386.5m）からⅠ層：黒褐色シルト（1層）、Ⅱ層：黒褐色細粒砂含むシルト（3層）、Ⅲ層：灰黄褐色細粒砂含むシルト（4層）、Ⅳ層：にぶい黄褐色細粒砂（5層）の順で堆積していた。Ｃｂ区中央の東西トレンチでの基本層序は、第10図16トレンチD-D'土層断面図でみると、表土下（遺構検出面：標高約387.0m）からⅠ層：黒色極細粒砂少量含むシルト（6層）、Ⅱ層：黒褐色極細粒砂含むシルト（10層）、Ⅲ層：褐色細粒砂含む極細粒砂（11層）の順で堆積していた。

Ｂｂ区とＣｂ区の境界に掘削されたトレンチでの基本層序は、第11図4トレンチ土層断面図でみると、Ⅰ層：黒褐色細粒砂多く含むシルト（1層）、Ⅱ層：黒褐色シルト（27層など）、Ⅲ層：褐色極細粒砂含むシルト（133層など：地山）の順で堆積していた。トレンチ南西部では黒色極細粒砂少量含むシルト（47層）を埋土とする畝状溝（3450SK～3454SK）が確認され、その下位にある黒褐色細粒砂含む極細粒砂（120層）で縄文時代の遺構が検出された。

（4）Ａ区の基本層序

東西方向に設定された1トレンチでの基本層序は、第12図Ａ区1トレンチ南壁A-A'土層断面図でみると、Ⅰ層：黒褐色極細粒砂含む細粒砂（1層）、Ⅱ層：黒色中粒砂少量含む細粒砂（4層）、Ⅲ層：褐色中粒砂多く含む細粒砂（5層）、Ⅳ層：黄褐色粗粒砂含む中粒砂（6層：地山）の順で堆積していた。西側（境川側）でⅠ層とⅡ層の間には、にぶい黄褐色粗粒砂（2層と3層）が厚く堆積しており、比較的新しい堆積物と見られる。Ⅱ層（4層）とⅢ層（5層）の上面で1面遺構を検出し059SXとしてⅡ層（4層）黒色細粒砂を掘削した。さらにその下位では崖近くにある深い落ち込み2256SXなどが存在する。

第2節　縄文時代中期後半の遺構

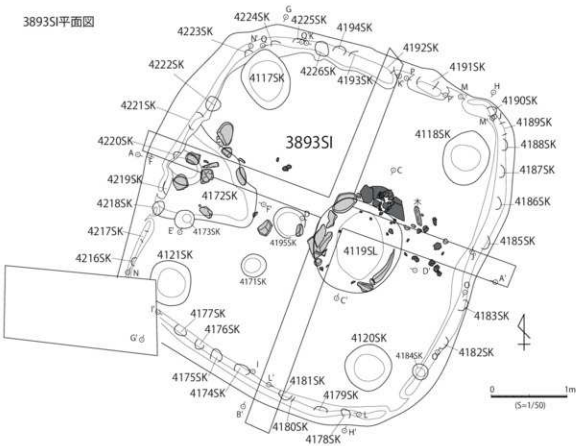
縄文時代中期後半の遺構としては竪穴建物跡が1棟、柱穴列1基、不定形土坑1基がある。

1竪穴建物跡

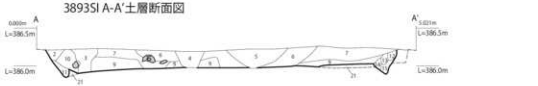
（1）3893SI（第13図～第16図）

調査区北西端4247グリッドで検出された竪穴建物跡である。長軸5.68m、短軸5.49mの隅丸正方形の平面プランで深さは0.43mを測る。表土（黒褐色細粒砂含むシルト）と畝状溝で撹拌された堆積（黒色極細粒砂少量含むシルト）を除去すると、褐色細粒砂を地山とする形で明瞭に検出された。

主柱穴は4117SK、4118SK、4120SK、4121SKが該当する。4117SKは長軸0.72m、短軸0.61m、3893SI床面からの深さ0.45m、4118SKは長軸0.62m、短軸0.55m、深さ0.54m、4120SKは長軸0.72m、短軸0.58m、深さ0.57m、4121SKは長軸0.70m、短軸0.66m、深さ0.53mで、いずれも平面形は隅丸正方形から円形を呈し規模が大きい（第13



3893SI A-A'土層断面図



3893SI B-B'土層断面図

1 植生層
2 10YR2/3 黒褐色 中粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小ブロックを含む。
中礫の亜角礫を含む。炭化物を極少量含む。
3 10YR2/1〜2 黒褐色 中粒砂少量含むシルト層 中礫の亜角礫を含む。
4 10YR2/1〜2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫を含む。炭化物を少量含む。
5 10YR2/1 黒色 細粒砂少量含むシルト層 細礫を含む。
中〜大礫の亜角礫を含む。炭化物を極少量含む。
6 10YR2/1〜2 黒褐色 極細粒砂混むシルト層
中礫の亜角礫を含む。炭化物を少量含む。
7 7.5YR2/2 黒褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層
中粒砂〜細礫を含む。中礫の亜角礫を含む。
8 10YR2/2〜3 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小ブロックを非常に多く含む。中礫の亜角礫を含む。
9 8.75YR2/2 黒褐色 中粒砂多く含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小ブロックを少量含む。
10 10YR3/2 黒褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小ブロックを少量含む。細礫を含む。炭化物を少量含む。
11 10YR2/2 黒褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小ブロックを少量含む。中粒砂〜細礫を含む。炭化物を少量含む。
12 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層 細礫を含む。
13 10YR2/2 黒褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層 中粒砂〜細礫を含む。
14 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小ブロックを含む。
15 10YR3/2 黒褐色 中粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小ブロックを少量含む。
16 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小ブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。
17 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小ブロックを少量含む。細礫を含む。
18 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小ブロックを多量に含む。細礫を含む
19 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小ブロックを含む。
20 10YR2/2 黒褐色 中粒砂含む極細粒砂層 細礫を含む。中礫の亜角礫を含む。
21 10YR4/4 褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層 黒褐色極細粒砂ブロックを多量に含む。

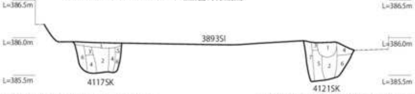
4172SK E-E'土層断面図

4172SK F-F'土層断面図

1 10YR4/3 にぶい黄褐色 細粒砂多量に含むシルト層 暗褐色シルトBrを含む。
2 10YR4/3 にぶい黄褐色 細粒砂多量に含むシルト層 暗褐色シルトBrを少量含む。(壁柱痕)
3 10YR3/1 黒褐色 細粒砂含むシルト層 細礫の亜円礫を極少量含む。(壁柱掘り方)
4 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトBrを含み、黄褐色シルトBrを少量含む。大礫の亜円礫を少量含む。

第 13 図　3893SI 遺構図（1）(S=1/50)

4117SK・4121SK G-G'土層断面図

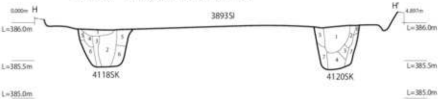


1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を少量含む。
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 (柱痕)
　黒褐色シルトBRを少量含み、細礫を少量含む。
3 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトブロックを含み、細礫を少量含む。
4 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小Brを少量含む。
5 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小Brと褐色極細粒砂の小Brを少量含む。(掘り方)
6 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層
　褐色極細粒砂の小Brを含み、細礫を含む。(掘り方)

1 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　細礫を含み、中礫の亜円礫を少量含む。(柱痕)
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　細礫を少量含み、中礫の亜円礫を少量含む。(柱痕)
3 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫を少量含む。
4 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小Brを含み、中礫の亜円礫を少量含む。(掘り方)
5 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫を少量含む。
6 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　褐色極細粒砂Brを含み、中礫の亜円礫を少量含む。(掘り方)
7 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　褐色極細粒砂の小Brを少量含む。(掘り方)

0　　1m
(S=1/50)

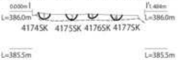
4118SK・4120SK H-H'土層断面図



1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を極少量含む。
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫を少量含む。(柱痕)
3 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小Brを少量含み、細礫を多く含む。(柱痕)
4 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　褐色極細粒砂の小Brを少量含み、細礫を含む。(掘り方)
5 10YR3/4 暗褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層
　黒褐色シルトBrを多く含み、細礫を少量含む。(掘り方)
6 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層
　褐色極細粒砂の小Brを含み、細礫を含む。(掘り方)

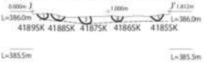
1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　細礫を含む。炭化物を極少量含む。焼土を多く含む。(柱痕)
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小Brを少量含み、細礫を少量含む。(柱痕)
3 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小Brを少量含み、中礫の亜円礫を少量含む。(柱痕)
4 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫を含み、中礫を少量含む。(柱痕)
5 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小Brを少量含み、細礫を含む。(掘り方)
6 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂Brを少量含む。(掘り方)
7 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　褐色極細粒砂の小Brを少量含み、中礫の亜円礫を含む。(掘り方)

4174SK～4177SK I-I'土層断面図



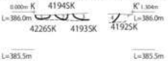
1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトBrを含む。
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトBrを含む。
3 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトBrを含む。
4 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトBrを含む。

4185SK～4189SK J-J'土層断面図



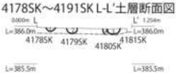
1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小Brを含む。
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小Brを少量含む。
3 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトBrを少量含む。
4 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小Brを少量含む。
5 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小Brを少量含む。

4192SK～4194SK K-K'土層断面図



1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小Brを少量含む。
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトBrを少量含む。
3 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小Brを含む。
4 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小Brを少量含む。

4178SK～4191SK L-L'土層断面図



1 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小Brを少量含む。
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小Brを少量含む。
3 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小Brを少量含み、細礫を少量含む。
4 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトBrを少量含み、細礫を少量含む。

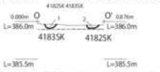
4190SK M-M'土層断面図

1 10YR2/2 黒褐色
　細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトBrを少量含む。

4216SK～4223SK N-N'土層断面図

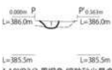
1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトブロックを少量含む。
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトの小ブロックを含む。
3 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトの小ブロックを含む。
4 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトの小ブロックを少量含む。
5 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトの小ブロックを少量含む。
6 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトの小ブロックを少量含む。
7 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトの小ブロックを少量含む。
8 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトブロックを少量含む。

4182SK・4183SK O-O'土層断面図



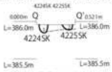
1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小Brを含む。
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小Brを少量含む。

4191SK P-P'土層断面図



1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小ブロックを含む。

4224SK・4225SK Q-Q'土層断面図

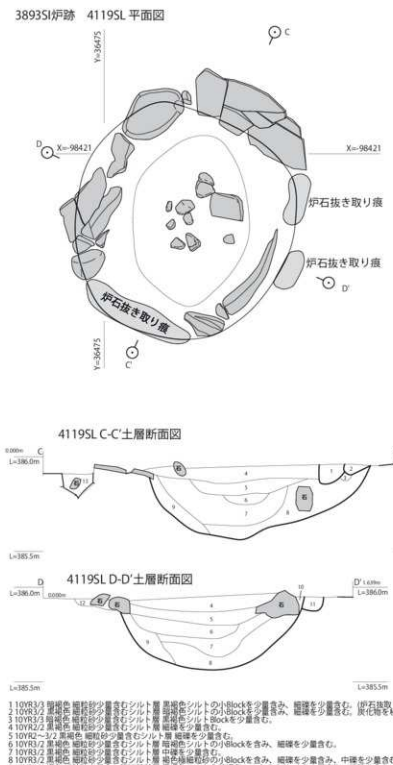


1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトの小ブロックを含む。
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
　暗褐色シルトブロックを含む。

第14図　3893SI 遺構図（2）(S=1/50)

図）。

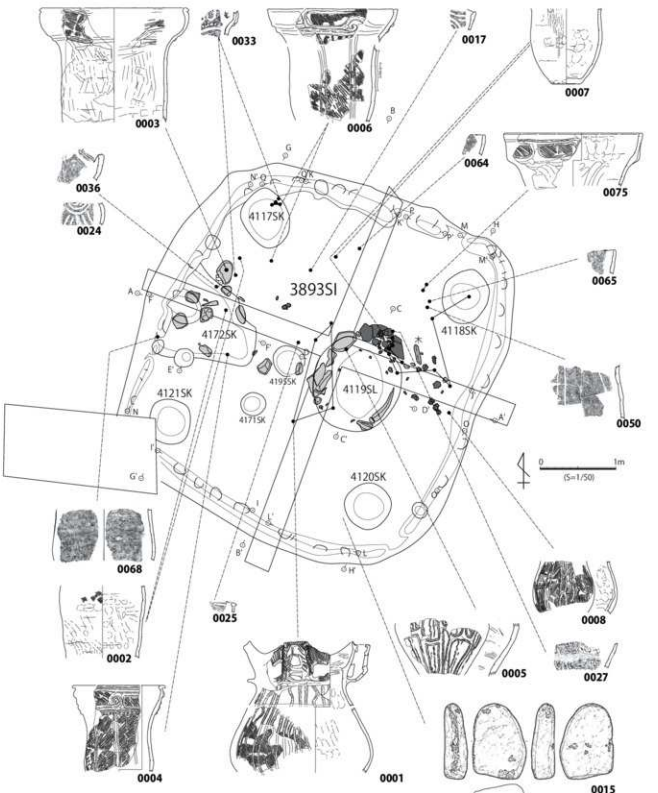
竪穴の外縁部には幅 0.20m 前後、深さ 0.15m 前後の壁溝がほぼ全周を巡るが、北辺で２か所、南東隅部で１か所途切れていた。この壁溝を溝と平行方向に半截掘削したところ、埋土内に柱様の痕跡を等間隔で確認することができた。この結果、壁溝に重複する形で柱穴列（4174SK ～ 4194SK、4216SK ～ 4226SK）が確認され、この柱穴は直径 0.06m ～ 0.26m の円形を呈し、深さは 0.04m ～ 0.12m と浅い（第 14 図）。



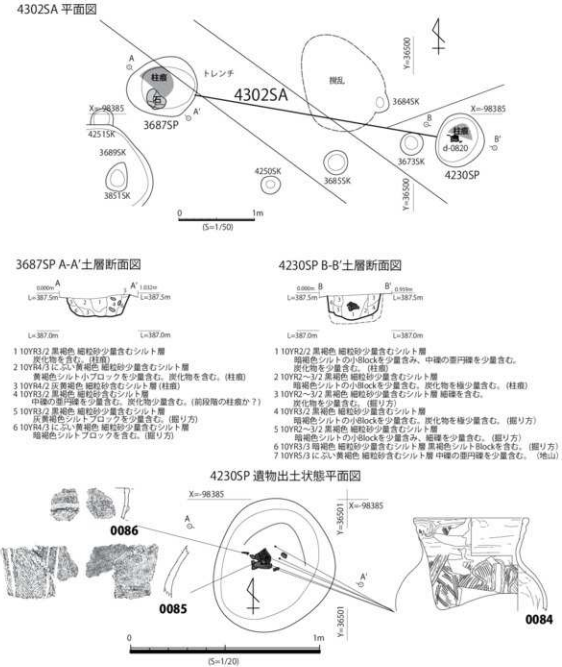
第 15 図　3893SI 遺構図（３）(S=1/20)

西辺中央部から平面形が舌状に不定形に伸びる浅い落ち込み 4172SK は内部で亜角礫が散乱しており、規模は長軸 1.42m、短軸 0.98m、深さ 0.16m を測る。出入り口施設に伴うものの可能性が考えられる。竪穴建物の壁溝はこの 4172SK 形成後に構築されていた。

石囲炉跡 4119SL は 3893SI の中央東寄りの床面に構築され、長軸 1.27m、短軸 0.12m、深さ 0.16m を測る（第 15 図）。石囲炉の石材は東辺で 2 か所と南辺が抜き取られており、残存する部分も石材は 1 段のみで積み重ねられていない。石材は上面を 3893SI の床面の高さに合わせるように概ね水平に配



第 16 図　3893SI 遺構図（4）(S=1/50)



第 17 図　4302SA 遺構図 (S=1/50)

置され、その石材の内側端部から中央部は擂鉢状に窪んでいた（第 1 機能面）。内部には暗褐色シルトブロックを含まない黒褐色シルト層（4119SL C-C' および D-D' 土層断面図の 4 層 .5 層 .6 層）堆積し、掘削段階で南側ではやや浅くなっていた。掘り方底面は擂鉢状を呈しており、その底面より若干高いレベルで緩斜面の中程度の位置で、中期後半の土器片を伴って石材が検出され（下層遺物）、これが第 2 機能面を形成していた可能性が高い。4119SL 北端には方形の区画の外に、立位で埋設された板状礫が 1 枚存在し被熱していた。

深掘り調査で掘り方周囲を掘削したところ、ピットのような落ち込みが周囲を巡るように確認されたが、これは植生痕であった。

遺物は石囲炉跡 4119SL 周辺、落ち込み 4172SK、主柱穴 4117SK と 4118SK 周辺などでまとまって出土しており、比較的北半部に多く認められる（第 16 図）。4119SL の北辺石材直上には深鉢底部片（0007）が、4119SL の西側で深鉢 0001 が、落ち込み 4172SK 東部周辺で深鉢 0002 ～ 0004 が出土した。また、主柱穴 4117SK 周辺では深鉢 0006 が、4118SK 西側では深鉢 0075 などがある。これらの遺物から竪穴建物跡 3893SI は縄文時代中期後半（神明式期）に位置づけられる。

２柱穴列

（１）4302SA（第 17 図）

3849,3850 グリッドで検出された 3687SP、4230SP で構成される柱穴列である。柱間は 1 間分で距離は約 4.0m を測る。柱穴 3687SP は長軸 0 .93m、短軸 0.81m、深さ 0.36m、柱穴 4230SP は長軸 0 .84m、短軸 0.80m、深さ 0.44m を測り、共に柱痕が確認された。3687SP の掘り方に石材が、4230SP の柱痕の部分に土器片が出土した。この土器から時期は縄文時代中期後半（神明式期）に位置づけられる。

３その他の遺構

（１）2256SX

A 区 3943 グリッドの A 区から B 区に至る崖面際で発見された落ち込みで、長軸 3.79m、短軸 0.68m、深さ 0.35m を測る。A 区は Ⅰ 層：黒褐色極細粒砂含む細粒砂、Ⅱ 層：黒色中粒砂少量含む細粒砂、Ⅲ 層：褐色中粒砂多く含む細粒砂、Ⅳ 層：黄褐色粗粒砂含む中粒砂（地山）の順で堆積しているが、Ⅲ 層を除去した面で検出された。2256SX 内には黒褐色中粒砂多く含む細粒砂、暗褐色中粒砂多く含む細粒砂、褐色中粒砂非常に多く含む細粒砂、褐色中粒砂非常に多く含む細粒砂の順に堆積していた。出土遺物から埋没した時期は縄文時代中期後半と推定される。

第３節　縄文時代後期初頭から後期中葉までの遺構

縄文時代後期初頭から後期中葉までの遺構としては竪穴建物跡 26 棟、竪穴建物との関係が不明の炉 5 基、貯蔵穴などの土坑 14 基、土器埋設遺構 5 基（炉の中に埋納されたものを除く）、集石遺構 10 基、柱列 2 列ピット 2 基と 3 基、掘立柱建物跡 1 棟、大型石棒および立石を伴うピット 4 基、礫群 1 基、その他土坑および柱穴多数がある。

１竪穴建物跡

（１）788SI（第 18 図・第 19 図）

3749,3849 グリッドで検出された竪穴建物跡である。第 12 図 5 トレンチ C-C' 土層断面図でみると、Ⅰ 層：黒褐色細粒砂多く含むシルト（1 層）と Ⅲ 層：灰黄褐色細粒砂含むシルト（地山）の間で掘削されていることが確認できる。遺構検出段階から礫と遺構が多数検出され、サブトレンチの断面観察から複数の床面（機能面）が確認された。残念ながら明瞭な主柱穴を検出することはできなかったが、炉跡は 906SL と 907SL が確認され、焼土を伴う土坑として 1480SK も検出された。全体として長軸 7.86m、短軸 6.25m の楕円形の平面プランで検出されたが、南半部は幅広く弧状に一段下がる形で落ち込み 1487SK と 1500SK が掘削されていた。炉跡の他に 1480SK の存在などからみて複数の竪穴建物が重複したもの可能性も考えられ、炉跡 906SL と 907SL に伴うプランが落ち込み 1487SK と 1500SK に、焼土を伴う土坑として 1480SK に伴うプランが 788SI の北半部にそれぞれ対応するかもしれない。深さは最大で 0.70m を測る。

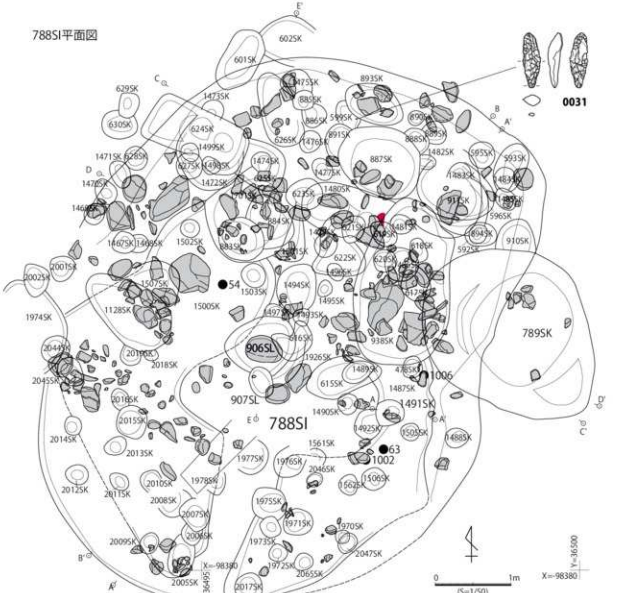
1 層目（第 1 検出面）では、炉跡 906SL と 907SL や礫を伴う土坑 887SK や 893SK などが検出された。この段階で検出された礫の多くは上面を平坦な面に配置したものが多く確認された。2 層目（第 2 検出面）では、焼土を伴う 1480SK など多くの土坑と礫が検出された。3 層目（第 3 検出面）は主に南側は一段下がる 1487SK と 1500SK の底部で検出され多くの土坑が検出された。これらの遺構検出面が概ね機能面に対応するものと推定されるものの、確実に帰属するとはいえない。

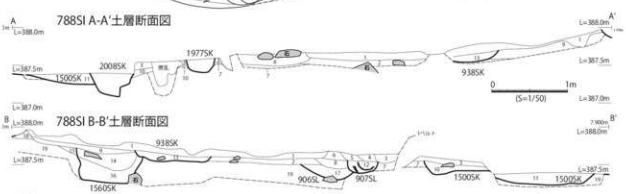
炉跡 906SL は長軸 0.94m、短軸 0.79m、深さ 0.17m を測る。炉跡 907SL 設置以前に構築され、長さ 34cm の円礫をはじめ多くの礫が埋設されていた。暗赤褐色細粒砂を含むシルトが埋積しているが、明確に焼けた面は確認できなかった。炉跡 907SL は長軸 0.42m、短軸 0.31m、深さ 0.11m を測り、土坑南半部に土器片が土坑壁面に沿うように埋設されており、土器敷炉の可能性が考えられる。1480SK は長軸 1.12m 以上、短軸 0.72m 以上、深さ 0.29m を測る土坑で、さらに 1480SKa と 1480SKb に細分される。焼土は 1480Ska の上層に広がっている。土器や石材を伴わず地床炉の可能性がある。

遺構の時期は埋設された土器から縄文時代後期前葉から後期中葉まで（堀之内 2 式併行から八王子式期）と位置づけられる。

（２）790SI（第 20 図～第 22 図）

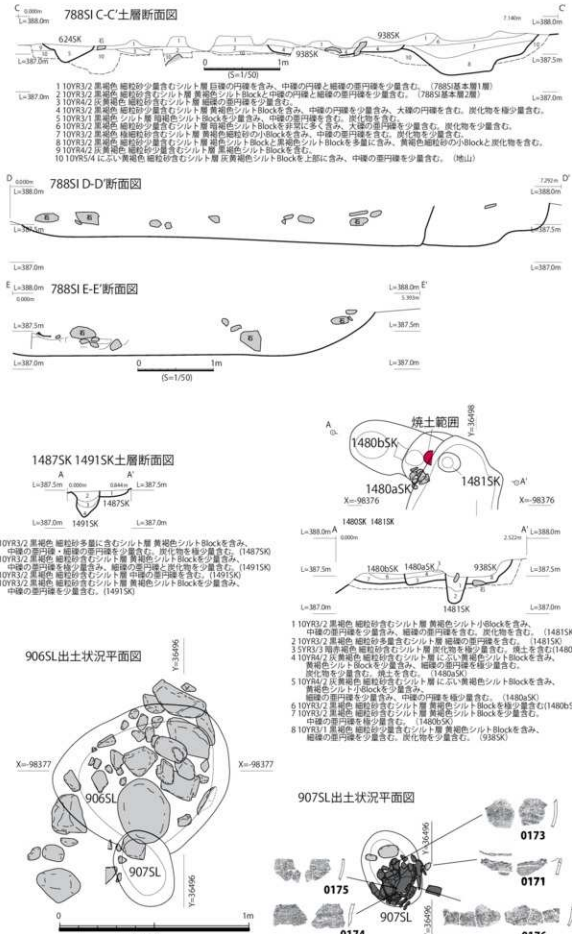
3648,3649 グリッドで検出された竪穴建物跡である。遺構の重複が激しく正確な形状は把握し難いが、長軸 5.67m、短軸 4.89m の概略円形の平面プランと思われ、深さは 0.48m を測る。788SI と同様に第





1 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 巨礫の円礫を含み、中礫の円礫を少量含み、細礫の亜円礫を少量含む。(788SI基本層1層)
2 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 黄褐色シルトBlockを少量含む。中礫の円礫を少量含み、細礫の亜円礫を少量含む。(788SI基本層2層)
3 10YR3/1 黒褐色 細粒砂含むシルト層 灰黄褐色シルトBlockを含み、中礫の亜角礫を含む。
4 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫の亜円礫を少量含む。炭化物を含む。
5 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 細礫の亜円礫を極少量含む。炭化物を少量含む。
6 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 細礫の亜円礫を含む。(788SI基本層2層)
7 10YR4/3 にぶい黄褐色 細粒砂含むシルト層 細礫シルトBlockを少量含む。
8 5YR3/2 暗赤褐色 細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトBlock少量含み、細礫の亜円礫を少量含む。
9 10YR3/3 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトBlockを含む。中礫の亜角礫・細礫の亜円礫を少量含む。
10 10YR3/2 黒褐色 細粒砂多量に含むシルト層 黄褐色シルトBlockを含み、中礫の亜円礫・細礫の亜円礫を少量含む。炭化物を極少量含む。(15005K)
11 10YR3/2 黒褐色 細粒砂多量に含むシルト層 黄褐色シルトBlockを含み、中礫の亜円礫・細礫の亜円礫を少量含む。炭化物を極少量含む。(15005K)
12 10YR3/3 暗褐色 細粒砂含むシルト層 灰黄褐色シルトBlockを極少量含み、中礫の亜円礫を極少量含む。炭化物を極少量含む。(907SL)
13 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトBlockを含み、中礫の円礫を少量含み、大礫の円礫を含む。炭化物を極少量含む。(938SK)
14 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 細礫の亜円礫を少量含み、中礫の亜角礫を極少量含む。(15605K1層)
15 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 灰黄褐色シルトBlockを含み、細礫の亜円礫を少量含む。(15605K2層)
16 10YR3/1 黒褐色 細粒砂含むシルト層 細礫の亜円礫を少量含む。(15605K3層)
17 5YR3/2 暗赤褐色 細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトBlockを少量含み、中礫の亜円礫を含み、細礫の亜円礫を少量含む。(906SL)
18 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂少量含むシルト層 黒褐色シルトBlockを含む。
19 10YR5/4 にぶい黄褐色 細粒砂含むシルト層 灰黄褐色シルトBlockを上部に含み、中礫の亜円礫を少量含む。(地山)

第18図　788SI 遺構図（1）(S=1/50)

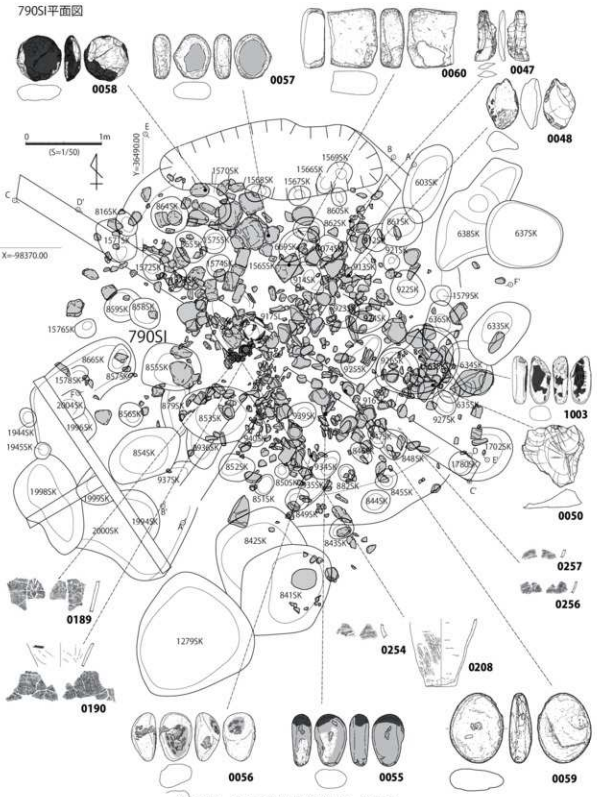


1 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 巨礫の円礫を含み、中礫の円礫と細礫の亜円礫を少量含む。（788SI基本層1層）
2 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 黄褐色シルトBlockと中礫の円礫と細礫の亜円礫を少量含む。（788SI基本層2層）
3 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂含むシルト層 細礫の亜円礫を少量含む。
4 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 黄褐色シルトBlockを含み、中礫の円礫を少量含み、大礫の円礫を含む。炭化物を極少量含む。
5 10YR3/1 黒褐色 シルト層 暗褐色シルトBlockを少量含み、中礫の亜円礫を含む。炭化物を含む。
6 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトBlockを非常に多く含み、大礫の亜円礫を少量含む。炭化物を少量含む。
7 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 黄褐色細粒砂のトルBlockを含み、中礫の亜円礫を含む。炭化物を少量含む。
8 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫シルトBlockと黒褐色シルトBlockを多量に含み、黄褐色細粒砂の小Blockと炭化物を含む。
9 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂少量含むシルト層 黒褐色シルトBlockを含む。
10 10YR5/4 にぶい黄褐色 細粒砂含むシルト層 灰黄褐色シルトBlockを上部に含み、中礫の亜円礫を少量含む。（地山）

1 10YR3/2 黒褐色 細粒砂多量に含むシルト層 黄褐色シルトBlockを含み、
中礫の亜円礫・細礫の亜円礫を少量含む。炭化物を極少量含む。（1487SK）
2 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 黄褐色シルトBlockを少量含み、
中礫の亜円礫を極少量含み、細礫の亜円礫と炭化物を少量含む。（1491SK）
3 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 中礫の亜円礫を含む。（1491SK）
4 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 黄褐色シルトBlockを少量含み、
中礫の亜円礫を少量含む。（1491SK）

1 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 黄褐色シルト小Blockを含み、
中礫の亜円礫を少量含み、細礫の亜円礫を含む。炭化物を含む。（1481SK）
2 10YR3/2 黒褐色 細粒砂多量含むシルト層 細礫の亜円礫を含む。（1481SK）
3 5YR3/1 暗赤褐色 細粒砂含むシルト層 炭化物を極少量含む。焼土を含む(1480aSK)
4 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂含むシルト層 にぶい黄褐色シルトBlockを含み、
黄褐色シルトBlockを少量含み、細礫の亜円礫を極少量含む。
炭化物を少量含む。焼土を含む。（1480aSK）
5 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂含むシルト層 にぶい黄褐色シルトBlockを含み、
黄褐色シルトBlockを少量含み、
細礫の亜円礫を少量含み、中礫の円礫を極少量含む。（1480aSK）
6 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 黄褐色シルトBlockを極少量含む(1480bSK)
7 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 黄褐色シルトBlockを少量含む。
中礫の亜円礫を極少量含む。（1480bSK）
8 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトBlockを含み、
細礫の亜円礫を少量含む。炭化物を少量含む。（938SK）

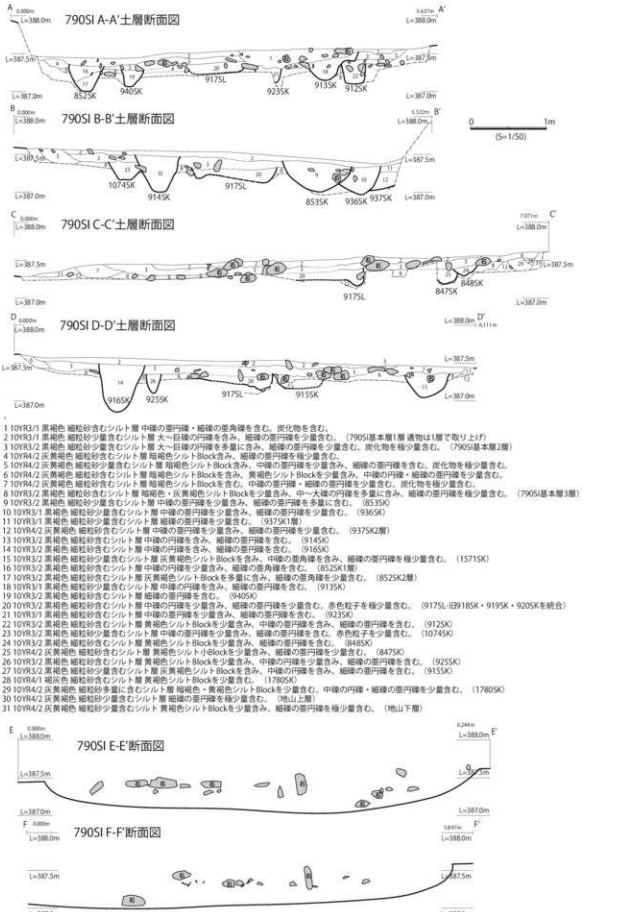
第 19 図　788SI 遺構図（2）(S=1/50)



第 20 図　790SI 遺構図（1）(S=1/50)

12 図 5 トレンチ C-C" 土層断面図の I 層（黒褐色細粒砂多く含むシルト）と III 層（灰黄褐色細粒砂含むシルト＝地山）の間で掘削されていた。遺構検出段階から礫と遺構が多数検出され、サブトレンチの断面観察から複数の床面（機能面）が確認された。残念ながら明瞭な主柱穴を検出することはできなかったが、炉跡 917SL が確認されている。

1 層目（第 21 図土層断面図の 2 層黒褐色細粒砂少量含むシルト）では礫を伴う土坑 853SK や 864SK などが検出され、礫の多くは上面を平坦な面に配置されていた（第 21 図 790SI E-E' 断面図および F-F' 断面図を参照）。2 層目（第 21 図土層断面図の 3 層

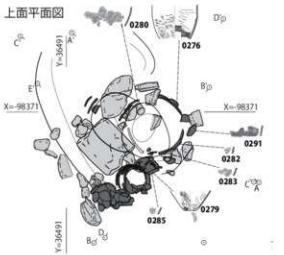


1 10YR3/1 黒褐色 細粒砂含むシルト層 中礫の亜円礫・細礫の亜角礫を含む。炭化物を含む。
2 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 大～巨礫の円礫を含み、細礫の亜円礫を少量含む。（790SI基本層1層 遺物は1層で取り上げ）
3 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 大～巨礫の円礫を多量に含み、細礫の亜円礫を少量含む。炭化物を極少量含む。（790SI基本層2層）
4 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂含むシルト層 暗褐色シルトBlock含み、細礫の亜円礫を極少量含む。
5 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトBlock含み、中礫の亜円礫を少量含み、細礫の亜円礫を含む。炭化物を極少量含む。
6 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂含むシルト層 暗褐色シルトBlockを含み、黄褐色シルトBlockを少量含み、中礫の円礫・細礫の亜円礫を少量含む。
7 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂含むシルト層 暗褐色シルトBlockを含む。中礫の亜円礫・細礫の亜円礫を少量含む。炭化物を極少量含む。
8 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 暗褐色・灰黄褐色シルトBlockを少量含み、中～大礫の円礫を多量に含み、細礫の亜円礫を極少量含む。（790SI基本層3層）
9 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 中礫の亜円礫を少量含み、細礫の亜円礫を多量に含む。（8535K）
10 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 中礫の亜円礫を少量含み、細礫の亜円礫を少量含む。（9365K）
11 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫の亜円礫を少量含む。（9375K1層）
12 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂含むシルト層 中礫の亜円礫を少量含み、細礫の亜円礫を少量含む。（9375K2層）
13 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 中礫の円礫を含み、細礫の亜円礫を含む。（9145K）
14 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 中礫の円礫を含み、細礫の亜円礫を含む。（9165K）
15 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 灰黄褐色シルトBlockを含み、中礫の亜角礫を含み、細礫の亜円礫を極少量含む。（1571SK）
16 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 中礫の円礫を少量含み、細礫の亜角礫を含む。（8525K1層）
17 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 灰黄褐色シルトBlockを多量に含み、細礫の亜角礫を少量含む。（8525K2層）
18 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 中礫の円礫を含み、細礫の亜円礫を含む。（9135K）
19 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 細礫の亜円礫を含む。（9405K）
20 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 中礫の円礫を少量含み、細礫の亜円礫を少量含む。赤色粒子を極少量含む。（9175L-旧9185K・9195K・9205Kを統合）
21 10YR3/1 黒褐色 細粒砂含むシルト層 中礫の亜円礫を少量含み、細礫の亜円礫を含む。（9235K）
22 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 黄褐色シルトBlockを少量含み、中礫の亜円礫を含み、細礫の亜円礫を含む。（9125K）
23 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 中礫の亜円礫を少量含み、細礫の亜円礫を含む。赤色粒子を少量含む。（10745K）
24 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 黄褐色シルトBlockを少量含み、細礫の亜円礫を含む。（8485K）
25 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂含むシルト層 黄褐色シルト小Blockを少量含み、細礫の亜円礫を少量含む。（8475K）
26 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 黄褐色シルトBlockを少量含み、中礫の円礫を少量含み、細礫の亜円礫を含む。（9255K）
27 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 灰黄褐色シルトBlockを含み、中礫の円礫を含み、細礫の亜円礫を含む。（9155K）
28 10YR4/1 褐灰色 細粒砂含むシルト層 黄褐色シルトBlockを少量含む。（1780SK）
29 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂多量に含むシルト層 暗褐色・黄褐色シルトBlock多く少量含む。中礫の円礫・細礫の亜円礫を少量含む。（1780SK）
30 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫の亜円礫を極少量含む。（地山上層）
31 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトBlockを少量含み、細礫の亜円礫を極少量含む。（地山下層）

第 21 図　790SI 遺構図（2）(S=1/50)

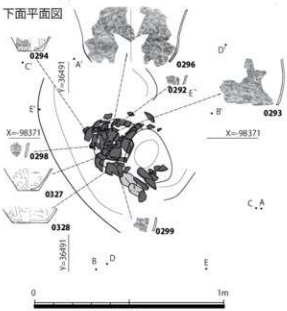
790SI炉跡 917SL

上面平面図



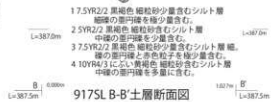
上面土器底部平面図

下面平面図



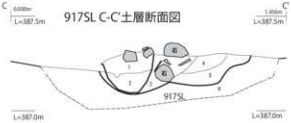
917SL A-A'土層断面図

1 7.5YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
細礫の面円礫を極少量含む。
2 5YR2/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 中礫の面円礫を少量含む。
3 7.5YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫の面円礫を少量含む。
4 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 灰黄褐色シルトBlockを少量含み、
細礫の面円礫を極少量含む。
5 7.5YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 赤色粒子極少量含む。細礫の面円礫を極少量含む。
6 7.5YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 中礫の面円礫を少量含む。赤色粒子極少量含む。



917SL B-B'土層断面図

1 10YR2/2 黒褐色 シルト層 中礫の面円礫を極少量含む。
2 7.5YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 中礫の面円礫を極少量含む。赤色粒子極少量含む。
3 7.5YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫の面円礫を少量含む。
4 10YR3/1 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 灰黄褐色シルトBlockを少量含み、
細礫の面円礫を極少量含む。赤色粒子極少量含む。
5 7.5YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 赤色粒子極少量含む。細礫の面円礫を極少量含む。
6 7.5YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 中礫の面円礫を少量含む。赤色粒子極少量含む。



917SL C-C'土層断面図

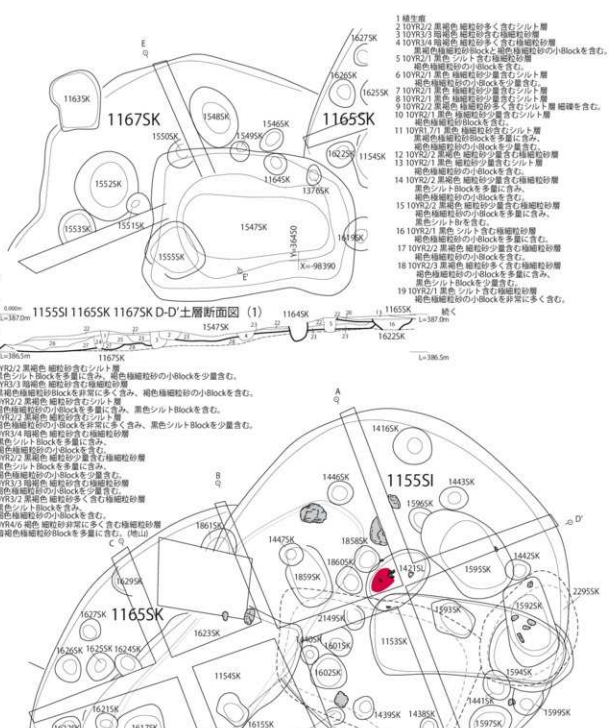
1 7.5YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫の面円礫を少量含む。
2 7.5YR3/3 暗褐色 細粒砂含むシルト層 黒色シルトBlockを少量含み、
中礫の亜角礫を少量含み、細礫の面円礫を含む。締まりが有る。
3 7.5YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
細礫の面円礫を極少量含む。赤色粒子極少量含む。(土器埋設の掘り方か)
4 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層
灰黄褐色シルトBlockを少量含み、細礫の面円礫を少量含む。
5 10YR4/3 にぶい黄褐色 細粒砂含むシルト層
黄褐色シルトBlockを少量含み、細礫の面円礫を少量含む。
6 10YR4/3 にぶい黄褐色 細粒砂含むシルト層 中礫の面円礫を多量に含む。(地山)

917SL D-D'土層断面図

917SL E-E'断面図

1 10YR2/2 黒褐色 シルト層 中礫の面円礫を極少量含む。
2 7.5YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 中礫の面円礫を極少量含む。赤色粒子極少量含む。
3 7.5YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 中礫の面円礫を少量含む。赤色粒子極少量含む。
4 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 灰黄褐色シルトBlockを少量含み、細礫の面円礫を極少量含む。

第 22 図　790SI 遺構図（3）(S=1/20)



第 23 図　1155SI 遺構図（1）(S=1/50)

黒褐色細粒砂少量含むシルト）では、炉跡 917SL や 922SK など多くの土坑が検出された。３層目（第 21 図土層断面図の８層黒褐色細粒砂含むシルト）は地山直上近くまで下がり 1565SK などの遺構が検出された。これらの遺構検出面が概ね機能面に対応するものと推定されるが、確実ではない。

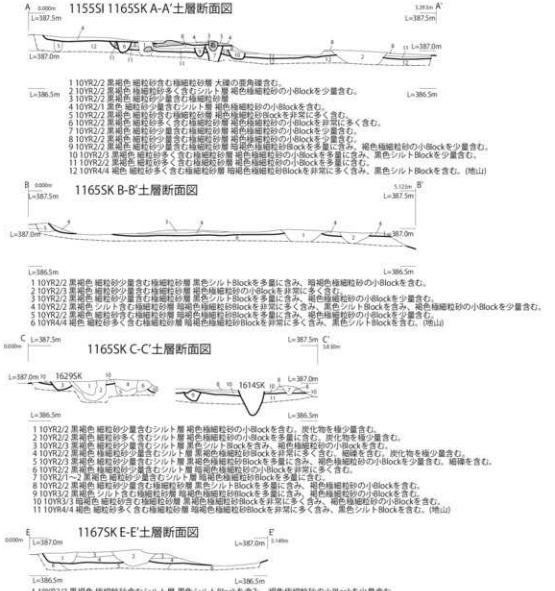
炉跡 917SL は長軸 0.94m、短軸 0.77m、深さ 0.25m を測る。917SL は土器が２回以上埋設されていた。下面では西部と南部に 0296 などの土器片が埋設されていた。上面では南部から北東部に向けて深鉢が立位に３個体一列に並んで埋設されており、その西側に接する形で大型石棒が横位に設置されていた、

遺構の時期は埋設された土器から縄文時代後期前葉から後期中葉まで（堀之内２式併行から八王子式期）と位置づけられる。

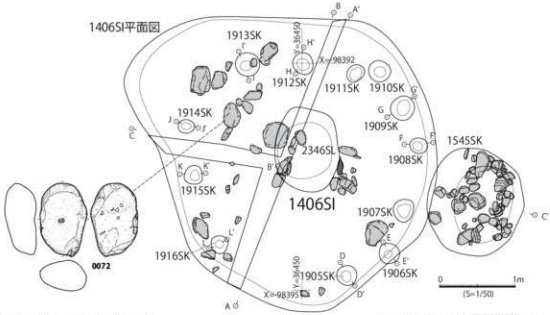
（3）1155SI（第 23 図・第 24 図）

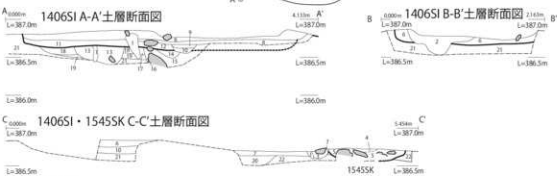
3845 グリッドで検出された竪穴建物跡である。長軸 4.97m 以上、短軸 4.52m 以上の楕円形の平面プランで深さは 0.26m を測る。黒色極細粒砂少量含むシルトを埋土とする畝状溝の下位（２面遺構）で検出され、1154SK に切られ、1165SK を切る。中央に炉跡 1421SK があり、主柱穴として 1438SK ～ 1444SK、1446SK、1447SK が候補としてあげられる。

1438SK は長軸 0.29m、短軸 0.23m、深さ 0.08m、1439SK は長軸 0.32m、短軸 0.28m、深さ 0.08m、1440SK は長軸 0.26m、短軸 0.24m、深さ 0.07m、



第 24 図　1155SI 遺構図（２）(S=1/50)





1 植生層
2 10YR2/1 黒色 砂質シルト 中粒砂、細粒砂主体。極粗粒砂若干含む。径5cm程度の角礫を含む。植物の根含む。
3 10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルト 中粒砂、細粒砂主体。10YR6/4に近い黄橙色中粒砂を斑状に含む。
4 10YR3/1 黒褐色 砂質シルト 中粒砂、細粒砂主体。径10cm程度の角礫を含む。
5 10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルト 中粒砂、細粒砂主体。径10cm以上の礫、石器（台石、石錘）を含む。
6 10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルト 中粒砂、細粒砂を多量に含む。細礫、極粗粒砂を若干含む。粘性ややあり。
7 10YR3/1 黒褐色 10YR3/2 黒褐色 砂質シルト 中粒砂、細粒砂主体。極粗粒砂を若干混じる。炭化物粒を含む。しまりやや強い。
8 10YR3/1 黒褐色 砂質シルト 中粒砂含む。極粗粒砂を若干含む。
9 10YR3/1 黒褐色 砂質シルト 中粒砂主体。極粗粒砂若干混じる。焼土・炭化物粒を多量に含む。しまりきわめて強い。
10 10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルト 中粒砂主体。極粗粒砂若干含む。しまりやや強い。
11 10YR4/1 褐灰色 砂質シルト 中粒砂主体。極粗粒砂、粗粒砂を含む。
12 10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルト 中粒砂、細粒砂主体。極粗粒砂を若干含む。炭化物粒を若干含む。
13 10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルト 中粒砂主体。細礫、極粗粒砂若干含む。
14 10YR3/2 黒褐色 砂質シルト 中粒砂主体。極粗粒砂、粗粒砂を若干含む。炭化物粒を若干含む。
15 10YR4/1 褐灰色 砂質シルト 中粒砂主体。極粗粒砂、細粒砂を含む。炭化物粒を含む。
16 10YR3/1 黒褐色 砂質シルト 中粒砂、細粒砂を含む。極粗粒砂を若干含む。炭化物粒を若干含む。
17 10YR4/4 にぶい黄褐色 砂 中粒砂、細粒砂主体。
18 10YR4/1 褐灰色 砂質シルト 中粒砂、細粒砂主体。極粗粒砂を若干含む。
19 10YR6/2 灰黄褐色 砂 中粒砂、細粒砂主体。極粗粒砂を若干含む。炭粒粒含む。炭化物粒含む。
20 10YR4/1 褐灰色 砂質シルト 中粒砂、細粒砂主体。細礫、極粗粒砂若干混じる。炭化物粒を多量に含む。
21 10YR3/3 黒褐色 砂質シルト 中粒砂、細粒砂主体。
22 10YR5/3 にぶい黄褐色 砂 中粒砂、細粒砂主体。極粗粒砂を若干含む。

1905SK D-D'土層断面図

1 10YR2/2 黒褐色 極粗粒砂少量含むシルト層 褐色極粗粒砂の小Blockを少量含む。炭化物を少量含む。
2 10YR2/1 黒色 極粗粒砂多く含むシルト層 褐色極粗粒砂の小Blockを多量に含む。

1906SK E-E'土層断面図

1 10YR2/1～2 黒褐色 極粗粒砂含むシルト層 褐色極粗粒砂の小Blockを含む。炭化物を少量含む。

1908SK F-F'土層断面図

1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極粗粒砂の小Blockを少量含む。
2 10YR2/2 黒褐色 極粗粒砂含むシルト層 褐色極粗粒砂の小Blockを多量に含む。

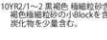
1909SK G-G'土層断面図

1 10YR2/1～2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 褐色極粗粒砂の小Blockを含む。炭化物を極少量含む。

1912SK H-H'土層断面図

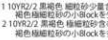
1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含む極粗粒砂層 褐色極粗粒砂の小Blockを含む。炭化物を少量含む。
2 10YR2/2 黒褐色 シルト含む極粗粒砂層 褐色極粗粒砂の小Blockを含む。

1913SK I-I'土層断面図



1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含む極粗粒砂層 褐褐色極粗粒砂の小Blockを含む。炭化物を少量含む。
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含む極粗粒砂層 褐褐色極粗粒砂の小Blockを含む。
　より色調やや明るい。
3 10YR2/1 黒色 極粗粒砂層 より色調やや明るい。

1914SK J-J'土層断面図



1 10YR2/2 黒褐色 極粗粒砂多く含む極粗粒砂層 褐褐色極粗粒砂の小Blockを含む。炭化物を少量含む。

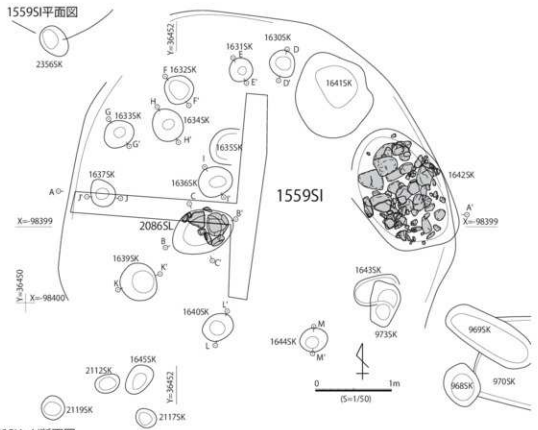
1915SK K-K'土層断面図

1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含む極粗粒砂層 褐褐色極粗粒砂の小Blockを含む。

1916SK L-L'土層断面図

1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含む極粗粒砂層 褐色極粗粒砂の小Blockを含む。
2 10YR2/3 黒褐色 細粒砂少量含む極粗粒砂層 褐色極粗粒砂の小Blockを多量に含む。

第25図　1406SI 遺構図 (S=1/50)

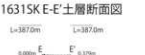


1559SIA-A'断面図

1630SK D-D'土層断面図

1 10YR4/2 灰黄褐色 極細粒砂層

1631SK E-E'土層断面図



1 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂層

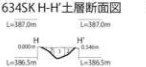
1632SK F-F'土層断面図

1 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂層
暗褐色極細粒砂blockを非常に多く含む。
2 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂層

1633SK G-G'土層断面図

1 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂層
2 10YR4/3 にぶい黄褐色 極細粒砂層

1634SK H-H'土層断面図

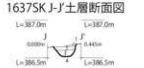


1 10YR2/2 黒褐色 シルト層 (柱痕)
2 10YR2/3 黒褐色 シルト層 (掘り方)

1636SK I-I'土層断面図

1 10YR2/1 黒色 シルト層
大礫の亜角礫を含む。

1637SK J-J'土層断面図

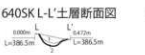


1 10YR2/3 黒褐色 シルト層
2 10YR3/3 暗褐色 シルト層
3 10YR3/3 暗褐色 シルト層
暗色極細粒砂小blockを多く含む。
4 10YR5/3 にぶい黄褐色中粒砂と細粒砂

1639SK K-K'土層断面図

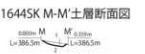
1 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層
2 10YR2/3 黒褐色 シルト層
暗褐色極細粒砂blockを含む。
3 10YR5/3 にぶい黄褐色中粒砂と細粒砂

1640SK L-L'土層断面図



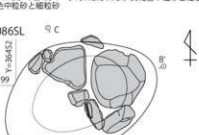
1 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層
2 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂層

1644SK M-M'土層断面図

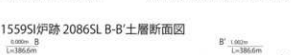


1 10YR2/3 暗褐色 極細粒砂層
2 10YR5/3 にぶい黄褐色中粒砂と細粒砂

1559SI炉跡 2086SL



1559SI炉跡 2086SL B-B'土層断面図



1 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト 中粒砂、粗粒砂含む。炭化物粒含む。
2 2.5Y4/2 暗灰黄色 砂質シルト 中粒砂、粗粒砂含む。
3 10YR5/3 にぶい黄褐色 砂 中粒砂、細粒砂主体。

1559SI炉跡 2086SL C-C'土層断面図

第 26 図　1559SI 遺構図 (S=1/50)

1441SK は長軸 0.31m、短軸 0.29m、深さ 0.08m、1442SK は長軸 0.34m、短軸 0.27m、深さ 0.11m、1443SK は長軸 0.38m、短軸 0.27m、深さ 0.09m、1446SK は長軸 0.34m、短軸 0.31m、深さ 0.09m、1447SK は長軸 0.32m、短軸 0.30m、深さ 0.18m を測る。

炉跡 1421SL は長軸 0.96m、短軸 0.64m、深さ 0.05m を測り、土坑の北西部底面で若干の土器片を伴って焼土面が確認された。この他に若干の礫が出土したが、土器敷炉であった可能性が考えられる。時期は出土した土器から縄文時代中期末から後期中葉までと位置づけられる。

1155SI に切られた 1165SK は長軸 4.07m 以上、短軸 1.06m 以上、深さ 0.26m を、また、1165SK に切られた 1167SK は長軸 4.60m 以上、短軸 1.14m 以上、深さ 0.31m を測る浅い土坑であり、1155SI と同様に竪穴建物跡の可能性があるが、付属施設が確認されていない。

（4）1406SI（第 25 図）

3944 グリッドで検出された竪穴建物跡である。長軸 4.53m、短軸 3.92m の北東部がややはみ出す歪な円形の平面プランで深さは 0.27m を測る。黒色極細粒砂少量含むシルトを埋土とする畝状溝の下位（2 面遺構）で検出され、集石遺構 1545SK と接する。埋土は上位に灰黄褐色砂質シルト、下位に褐灰色砂質シルトなどが堆積し、下位の堆積上面で建物跡中央に炉跡 2346SL が設置されていた。

炉跡 2346SL は長軸 1.15m、短軸 0.86m、深さ 0.30m を測る浅い土坑であり、焼土と炭化物が確認された。西辺と東部に南北方向に石材が並んでいたが、石囲炉と呼べる状況ではない。柱穴には 1905SK、1906SK、1908SK ～ 1916SK が該当する。直径は長軸 0.22m ～ 0.32m、短軸 0.18 ～ 0.31m、深さ 0.11m ～ 0.19m の範囲の規模である。

建物内には磨石台石類などの石器が出土しており、時期は出土した土器から縄文時代後期初頭から後期中葉までと位置づけられる。

（5）1559SI（第 26 図）

3945,4045 グリッドで検出された竪穴建物跡で、南半部の形状は不明である。長軸 4.84m 以上、短軸 3.83m 以上の楕円形の平面プランと推定され、深さは 0.42m を測る。畝状溝群の下位（2 面遺構）で検出され、埋土は黒褐色粘土質シルトを埋土とする。建物跡中央に炉跡 2086SL が設置されていた。

炉跡 2086SL は長軸 0.85m、短軸 0.59m、深さ 0.11m を測る東西方向に長い楕円形土坑で、東半部では亜円礫が充填されていた。礫は若干被熱し埋土に炭化物が含まれていた。西半部は抜き取られた可能性も考えられ、石敷炉跡と思われる。柱穴には 1630SK ～ 1633SK、1637SK、1639SK、1640SK、1644SK が該当する。直径は長軸 0.37m ～ 0.63m、短軸 0.32 ～ 0.47m、深さ 0.03m ～ 0.18m の範囲の規模である。

時期は出土した土器から縄文時代後期初頭から後期中葉までと位置づけられる。

（6）1864SI（第 27 図）

4044,4144 グリッドで検出された竪穴建物跡である。2 面で検出された遺構で、東半部が 986SK で掘削され破壊されていた。長軸 4.23m 以上、短軸 2.18m 以上の規模を持ち、楕円形の平面プランと思われる。深さは 0.15m を測る。1864SI の中央に土坑 1870SK や 2280SK が存在するが、焼土などが確認されないため炉跡か否か確定できない。

柱穴には 1866SK、1869SK、1871SK、1872SK があるが、1681SK や 1687SK なども該当する可能性がある。直径は長軸 0.26m ～ 0.35m、短軸 0.25 ～ 0.34m、深さ 0.12m ～ 0.29m の範囲の規模である。1869SK、1871SK、1872SK には土層断面で柱痕が確認された。

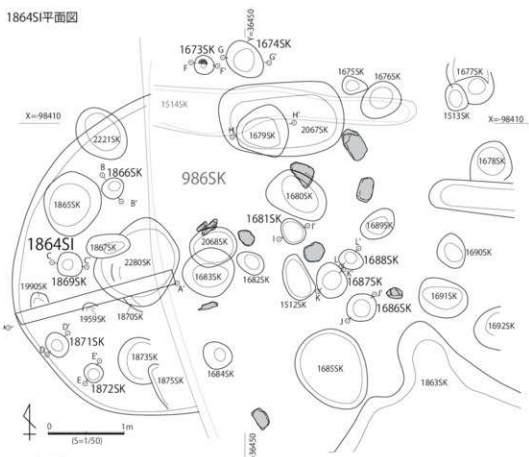
時期は出土した土器から縄文時代中期末から後期中葉までと位置づけられる。

（7）2215SI（第 28 図）

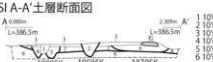
3848 グリッドで検出された竪穴建物跡である。2 面で検出された遺構で、北端部が 2216SI で、東端部は 3295SK により掘削されていた。長軸 5.51m 以上、短軸 4.61m 以上の隅丸正方形の平面プランで深さは 0.28m を測る。中央には炉跡は確認されなかった。

主柱穴は 2025SK、2231SK ～ 2233SK が該当すると思われ、2025K は長軸 0.38m、短軸 0.31m、2215SI 床面からの深さ 0.27m、2231SK は長軸 0.41m、短軸 0.34m、深さ 0.15m、2232SK は長軸 0.52m、短軸 0.41m、深さ 0.03m、2233SK は長軸 0.51m、短軸 0.44m、深さ 0.09m を測る。

2215SI 中央部北東寄りの区域に柱穴状の土坑が複数存在し、2328SK には柱状礫が立てられた状態で



1864SI A-A'土層断面図



1 10YR2/2 黒褐色 シルト少量含む極細粒砂層 黒色極細粒砂Brを非常に多く含む。
2 10YR2/2 黒褐色 シルト含む極細粒砂層 暗褐色極細粒砂Brを含む。
3 10YR2/2 黒褐色 極粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小Brを含む。炭化物を少量含む。
4 10YR2/2 黒褐色 シルト含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の大Brを非常に多く含む。
5 10YR2/2 黒褐色 極粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂Brを非常に多く含む。
6 10YR2/2 黒褐色 極粒砂少量含む極細粒砂層 暗褐色極細粒砂の小Brを非常に多く含む。炭化物を極少量含む。
7 10YR2/2 黒褐色 極粒砂多く含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小Brを非常に多く含む。
8 10YR2/2 黒褐色 極粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小Brを多量に含む。
9 10YR4/4 褐色 極粒砂多く含む極細粒砂層 (地山)

1866SK B-B'土層断面図

1 10YR2/2 黒褐色 シルト含む極細粒砂層
褐色極細粒砂のトプロックを含む。
2 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層
黒褐色 シルト少量含む
褐色極細粒砂の小Brを非常に多く含む。

1869SK C-C'土層断面図

1 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層
黒褐色 シルト少量含む
褐色極細粒砂の小Brを含む。(柱痕)
2 10YR2/2 黒褐色 極粒砂含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小Brを非常に多く含む。

1871SK D-D'土層断面図

1 10YR2/2 黒褐色 極粒砂含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小Brを含む。
炭化物を少量含む。
2 10YR2/2 黒褐色 シルト含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小Brを多量に含む。

1872SK E-E'土層断面図

1 10YR2/2 黒褐色粒砂含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小Br を少量含む(柱痕)
2 10YR2/2 黒褐色粒砂含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小Brを多量に含む。
3 10YR4/4 褐色 極粒砂多く含む極細粒砂層

1673SK F-F'土層断面図

1 10YR2/1 黒色 極細粒砂層 (柱痕)
2 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層 (撹り方)

1674SK G-G'土層断面図

1 10YR2/2 黒褐色 シルト層
2 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂層

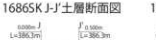
1679SK H-H'土層断面図

1 10YR2/1 黒色 極細粒砂層
2 10YR2/1 黒色 極細粒砂層
暗褐色極細粒砂の小Brを多量に含む

1681SK I-I'土層断面図

1 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂層
2 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂層

1686SK J-J'土層断面図



1 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層
2 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層
褐色極細粒砂の小Brを少量含む。
3 10YR2/3 黒褐色 極細粒砂層

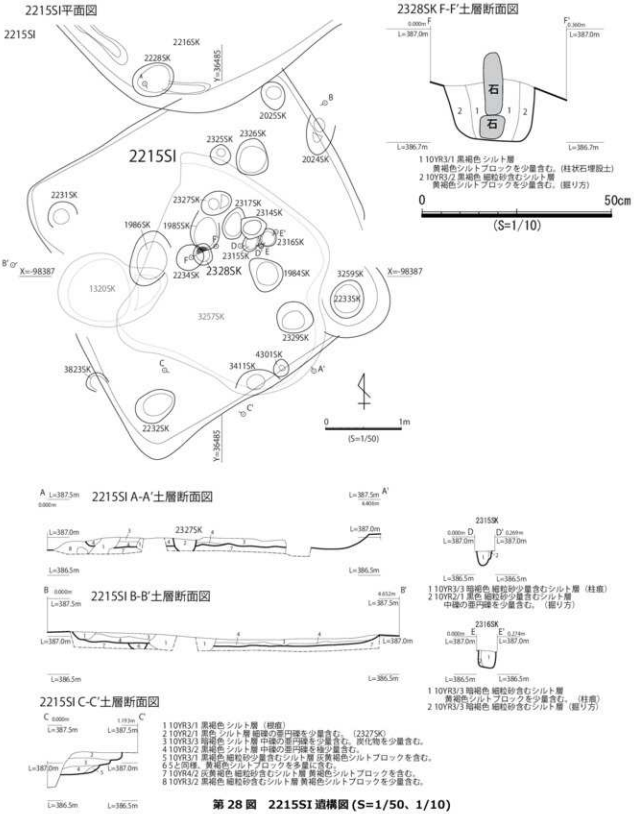
1687SK K-K'土層断面図

1 10YR1.7/1 黒色 極細粒砂層
2 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層
3 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層
4 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層

1688SK J-J'土層断面図

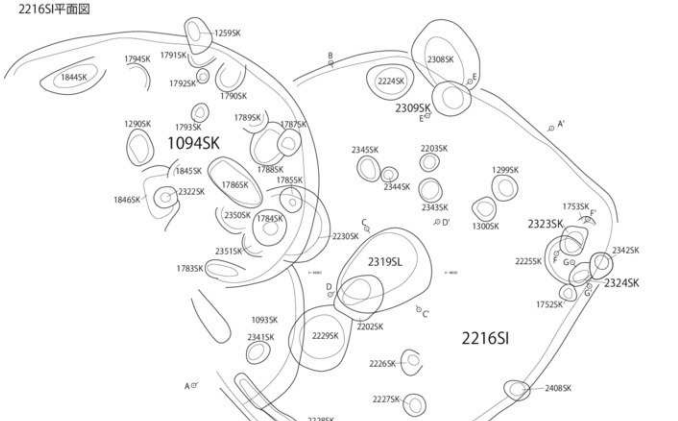
1 10YR2/1 黒色 シルト層
2 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層
3 10YR2/1 黒色 極細粒砂層

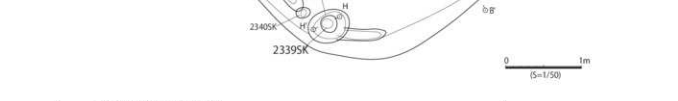
第 27 図　1864SI 遺構図 (S=1/50)



第 28 図　2215SI 遺構図 (S=1/50、1/10)

検出された。2328SK は長軸 0.29m、短軸 0.25m、深さ 0.18m で、土坑中央に下位に隅丸立方体状の礫（高さ約 7cm）が配置され、その上位に長さ約 16cm の棒状礫が立てた状態で据えられていた。2328SK の北東側に柱穴状の土坑があり、2314SK は長軸 0.34m、短軸 0.29m、788SI 床面からの深さ 0.17m、2315SK は長軸 0.22m、短軸 0.17m、深さ 0.19m、2316SK は長軸 0.24m、短軸 0.21m、深さ 0.23m、2317SK は長軸 0.43m、短軸 0.27m、深さ 0.14m をそれぞれ測る。





1 10YR3/1 黒褐色 細粒砂含むシルト層 灰黄褐色シルトブロックを少量含む。
2 10YR3/1 黒褐色 シルト層 中礫の亜円礫を極少量含む。
3 10YR3/2 黒褐色 シルト層 黄褐色シルトブロックを少量含む。
4 10YR3/3 暗褐色 シルト層 中礫の亜円礫を極少量含む。
5 10YR3/1 黒褐色 細粒砂含むシルト層 細礫の亜円礫を含む。
6 10YR3/2 黒褐色 シルト層 中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を少量含む。
7 10YR3/1 黒褐色 シルト層 中礫の亜円礫を少量含む。
8 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫の亜円礫を極少量含む。
9 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 (2319SL)
10 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂含むシルト層 黄褐色シルトブロックを含む。
11 10YR5/4 にぶい黄褐色 細粒砂含むシルト層 (地山)

2309SK E-E'土層断面図
1 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 灰黄褐色シルト粘を少量含む。(柱痕)
2 10YR3/1 黒褐色 細粒砂含むシルト層 灰黄褐色シルト粘を少量含む。(掘り方)
3 10YR3/1 黒褐色 細粒砂含むシルト層 灰黄褐色シルト粘を含む。(掘り方)

2323SK F-F'土層断面図
1 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 灰黄褐色シルト小粘を少量含む。(柱痕)
2 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 灰黄褐色シルト粘を含む。(柱痕)
3 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 灰黄褐色シルト粘を少量含む。(掘り方)
4 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルト粘を含む。(掘り方)
5 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 黄褐色シルト粘を含む。(掘り方)

2324SK G-G'土層断面図
1 10YR3/2 黒褐色 シルト層 黄褐色シルト小粘を少量含む。
2 10YR3/1 黒褐色 シルト層 灰黄褐色シルト小粘を少量含む。(柱痕)
3 10YR2/1 黒褐色 シルト層 黄褐色シルト粘を少量含む。(掘り方)

2339SK H-H'土層断面図
1 10YR2/1 黒色 細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルト粘を少量含む。

第 29 図　2216SI 遺構図（1）(S=1/50)

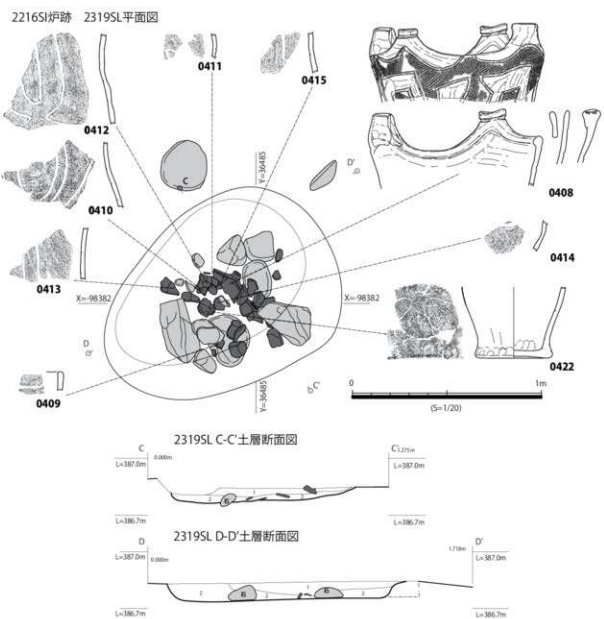
時期は出土した土器から縄文時代後期初頭から後期中葉までと位置づけられるが、後期後葉に下る可能性もある。

（8）2216SI（第 29 図・第 30 図）

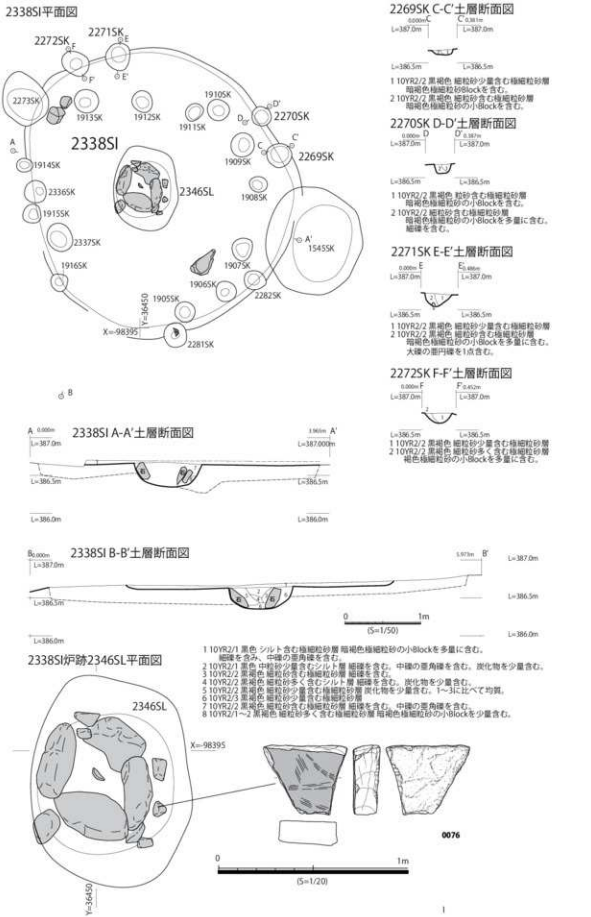
3748,3848 グリッドで検出された竪穴建物跡である。2 面で検出された遺構で、西部が 1094SK で掘削されており形状は不明である。長軸 5.90m 以上、短軸 5.46m 以上の隅丸正方形の平面プランで深さは 0.16m を測る。2216SI の中央部には炉跡 2319SL がある。

炉跡 2319SL は長軸 1.32m、短軸 0.99m、深さ 0.19m を測る歪な楕円形を呈している。中央西寄りに南北方向に長く角礫 1 個が、中央東寄りにややずれた状態であるが角礫 2 個が配置され、その内側には大小の礫と共に土器片が埋置されていた。調査時点では石囲炉を想定したが、欠落した部分が抜き取られた痕跡はなく確定できない。炉内には暗褐色細粒砂少量含むシルトが充填されていたが、出土土器には被熱されて表面が劣化した痕跡は認められるないため、土器敷炉ではないと考えられる。

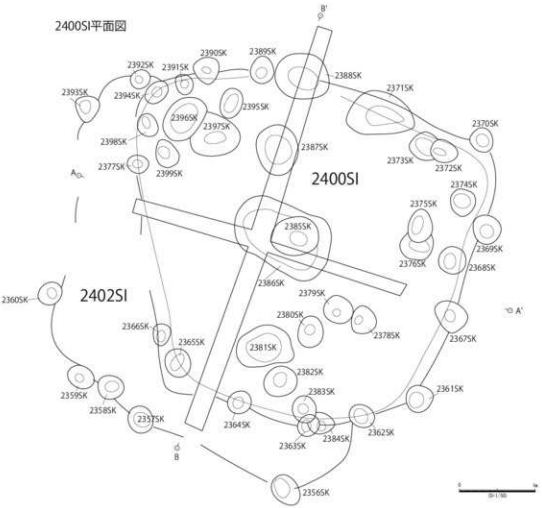
壁柱穴は 2309SK、2323SK、2408SK、2339SK が該当すると思われ、2323SK は長軸 0.44m、短軸 0.36m、深さ 0.34m、2339SK は長軸 0.23m、短軸 0.22m、深さ 0.17m を測る。2309SK では内部に土



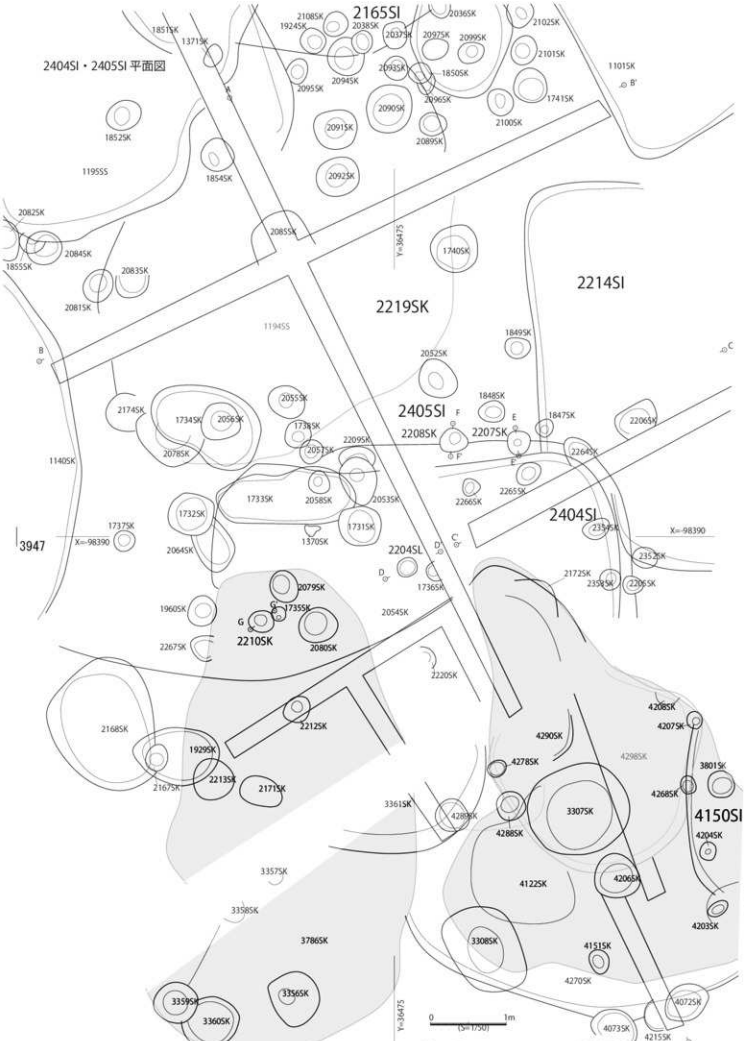
第 30 図　2216SI 遺構図（2）(S=1/20)



第 31 図　2338SI 遺構図 (S=1/50,1/20)

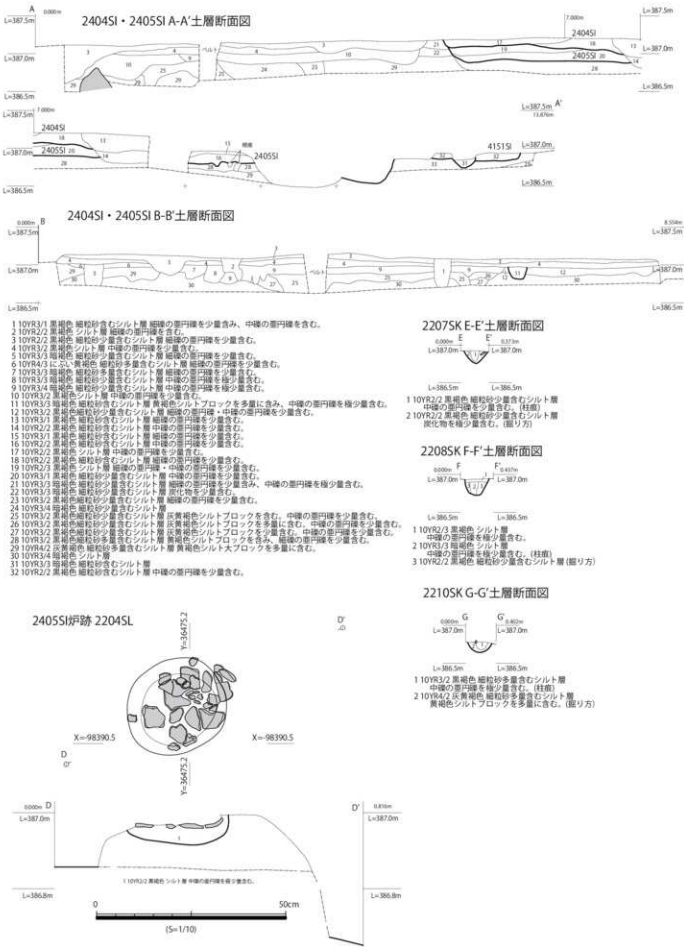


第 32 図　2400SI 遺構図 (S=1/50)

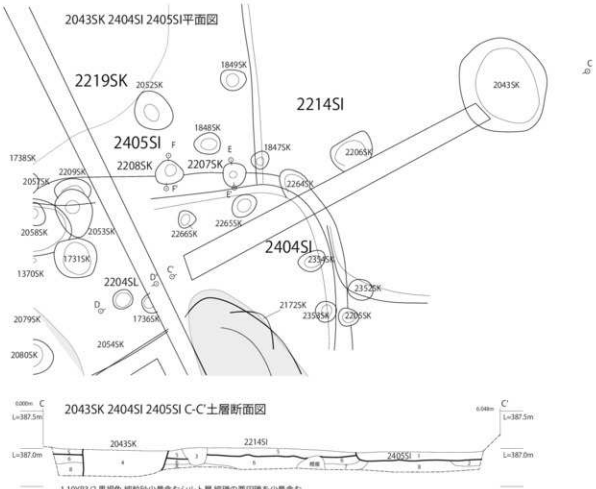


39

第 33 図　2404SI・2405SI 遺構図（1）(S=1/50)



第 34 図　2404SI・2405SI 遺構図（2）(S=1/50)



第 35 図　2404SI・2405SI 遺構図（3）(S=1/50)

器 0405 ～ 0407 が埋設されていた。

時期は出土した土器から縄文時代後期初頭（中津・称名寺式期）と位置づけられる。

（9）2338SI（第 31 図）

3944,3945 グリッドで検出された竪穴建物跡である。現状で長軸 3.93m、短軸 3.60m の円形の平面プランで、最大の深さは 0.19m を測る。中央部には石囲炉跡 2346SL が設置されている。2338SI は 405SK などの下位で検出されており、床面直上まで失われたとみられ本来の竪穴建物のプランはもう少し大きい可能性がある。このためか、掘り方外周部上に壁柱列が並んでいる状態で確認された。

炉跡 2346SL は長軸 1.15m、短軸 0.86m、深さ 0.30m を測る。扁平な石材が斜めに立てた状態で方形に埋設され石囲炉が構成される。東辺の身が 2 石で壁を作るが、残りは 1 石で構築された。石壁の裏側にも若干の石材が埋め込まれ、その中に礙石などが含まれている。底面は擂鉢状に少し窪み内部には黒褐色細粒砂少量含む極細粒砂などが埋積していた。

柱穴 1914SK ～ 1916SK、2069SK ～ 2072SK、2281SK、2282SK が壁柱列に該当すると思われ、1914SK ～ 1916SK は長軸 0.24m 前後、短軸 0.22m 前後、2338SI 床面からの深さ 0.12m 前後、2069SK ～ 2072SK は長軸 0.40m 前後、短軸 0.36m 前後、深さ 0.17m 前後、2281SK は長軸 0.32m、短軸 0.30m、深さ 0.10m、2282SK は長軸 0.30m、短軸 0.26m、深さ 0.11m を測る。

時期は出土した土器から縄文時代後期前葉から中葉に属するものと思われる。

（10）2400SI・2402SI（第 32 図）

2400SI は 3944,3945 グリッドで検出された竪穴建物跡である。平面形は現状で長軸 5.37m 以上、短軸 5.24m 以上の不定形を呈するが、南西部が滅失している可能性を考慮すると本来は約 5.4m 四方の隅

丸正方形の平面プランであったと推定される。深さは0.23mを測る。南西部で2402SIと重複しており、第32図2400SI B-B'土層断面図をみると2402SIより2400SIの方が新しいと理解される。中央部にやや大型の土坑がありこれが炉跡であった可能性が考えられる。

土坑2386SKは長軸1.36m、短軸0.91m、深さ0.22mを測り、内部には炭化物と黒色細粒砂少量含む極細粒砂などが埋積していた。2385SKなどが掘り返されており、石囲炉などの構造物が完全に抜き取られた可能性を考えておきたい。

2338SIと同様に、掘り方外周部上に壁柱列が並んでいる状態で確認された。柱穴2361SK～2370SK、2389SK～2391SK、2394SKが壁柱列に該当すると思われ、2361SK～2370SKは長軸0.29m～0.45m、短軸0.23m～0.38m、2400SI床面からの深さ0.10m～0.28m、2389SK～2391SKは長軸0.28m～0.38m、短軸0.23m～0.34m、深さ0.13m～0.33mを測る。

時期は出土した土器から縄文時代後期初頭から中葉に属するものと思われる。

一方、2402SIは同じ3944,3945グリッドで検出された竪穴建物跡で、2400SIよりも古い。平面形は現状で長軸5.94m以上、短軸3.36m以上の不定三角形状を呈するが、北東部の多くの部分が2400SIで滅失していることを考慮すると、本来は約6.0m四方の隅丸正方形の平面プランであったと推定される。深さは0.05mを測る。南西部で2402SIと重複しており、第32図2400SI B-B'土層断面図をみると2402SIより2400SIの方が新しいと理解される。2400SIの炉跡の可能性を考えた土坑2386SKが2402SIの炉跡である可能性も考えられるが、詳細は不明である。

時期は2400SIと同様に縄文時代後期初頭から中葉に属するものと思われる。

(11) 2204SI・2205SI（第33図～第35図）

2204SI・2205SIはともに3847,3947グリッドで検出された竪穴建物跡である。2204SIは南半部がこれ以降に掘削された遺構や撹乱によって失われており、現状で長軸5.39m以上、短軸1.94m以上の隅丸正方形の平面プランと推定される。深さは0.21mを測る。2205SIは2204SIの下位にほぼ平面形が重複する形で検出されており、長軸4.17m以上、短軸2.28m以上を測る。上部が滅失しており、深さは不明だが現状で0.10m残存する。2204SI・2205SIは北東部で2214SIを切る。2204SI・2205SIのほぼ中央と思われる位置に2204SLが存在する。

2204SLは長軸0.28m、短軸0.26m、深さ0.08mを測り、黒褐色シルトが埋積し上面に土器片が敷かれており、土器敷炉と考えられる。炉の周辺では大型石棒が出土した。また、北辺では掘り方外周部上に壁柱列が並んでいる状態が検出された。柱穴2207SKと2208SKが比較的明瞭に壁柱列に該当すると思われ、2207SKは長軸0.32m、短軸0.31m、2404SI床面からの深さ0.107m、2208SKは長軸0.37m、短軸0.32m、深さ0.22mを測る。

時期は2204SI・2205SIともに縄文時代後期初頭から後期前葉に属するものと思われる。

(12) 3258SI（第36図・第37図）

3848,3849グリッドで検出された竪穴建物跡である。北西部が2215SIにより滅失し、かつ北東部の形状は不明瞭となっており、平面形は南東部のみが検出された。その平面プランは長軸7.67m以上、短軸1.92m以上の不定形となるが、2215SI南隅部から南に伸びる掘り方が3258SIに伴うものと考えれば、短軸5.68m以上の楕円形状となる可能性もある。深さは0.17mを測る。下位には3429SIが概ね重複する形で存在しており、3258SIの方が新しい。中央部で炉跡は3294SLと4295SLが存在するが、3258SIに伴う炉跡は3294SLとみられる。

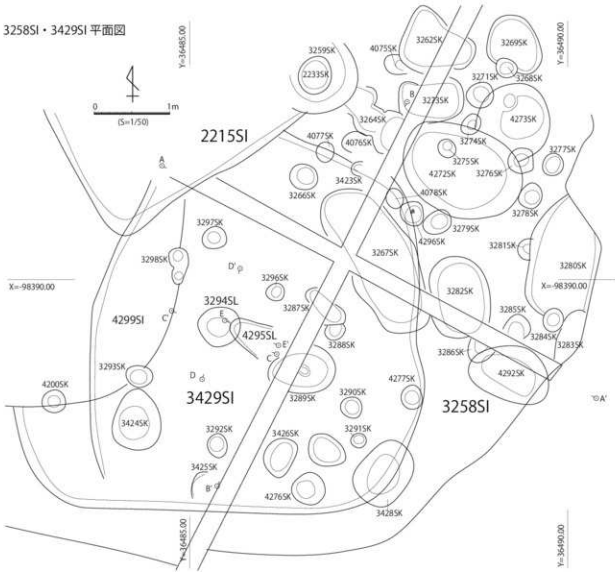
3294SLは長軸0.57m、短軸0.53mのほぼ円形プランで、深さ0.19mを測る。土坑のほぼ中央の位置に深鉢下半部が立位で埋設された状態で出土した。土器の内側と外側ともに黒褐色シルトが堆積している。

時期は縄文時代後期前葉から後期中葉に属する。

(13) 3429SI（第36図）

3848,3948グリッドで検出された竪穴建物跡である。北西部が2215SIと4299SIにより滅失するが、長軸5.11m以上、短軸4.26m以上の隅丸正方形の平面プランと推定される。深さは0.11mを測る。3429SIに伴う炉跡は重複関係などからみて4295SLと考えられ、壁柱穴は4276SK、4277SK、4296SKなどが該当するものとみられる。

4295SLは長軸0.51m、短軸0.47m、深さ0.04mを測る。3429SIの地山（第36図A-A'、B-B'土層断面図22層）と覆土（第36図A-A'、B-B'土層断面図8層など）はともに黒褐色細粒砂含むシルト


3258SI・3429SI 平面図
Y=-36485.00
Y=-36490.00
X=-98390.00
X=-98390.00
0
1m
(5=1/50)
2215SI
4299SI
3429SI
3258SI
3294SL
4295SL
32595K
40755K
32625K
32695K
22335K
32715K
32685K
32735K
32645K
42735K
40775K
40765K
32745K
32775K
32755K
42725K
32765K
3423SK
32665K
40785K
32785K
32795K
42965K
32815K
32675K
32805K
32975K
32985K
32965K
32825K
32875K
32855K
32885K
32845K
32835K
32865K
42925K
32935K
42005K
42775K
32895K
32905K
34245K
32925K
34265K
32915K
34259K
42765K
34285K
3258SI 3429SI A-A'土層断面図
3258SI 3429SI B-B'土層断面図
4295SL E-E'土層断面図
1 10YR3/3 暗褐色 シルト層 中礫の亜円礫を少量含む。
2 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 中礫の亜円礫を少量含む。炭化物を少量含む。
3 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 中礫の亜円礫を極少量含む。
4 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫の亜円礫を少量含む。
5 10YR3/1 黒褐色 シルト層
6 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫の亜円礫を少量含む。
7 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫の亜円礫を少量含む。
8 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 中礫の亜円礫を少量含む。
9 10YR3/1 黒褐色 シルト層
10 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 灰黄褐色のシルトブロックを含み、細礫の亜円礫を少量含む。
11 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 中礫の亜円礫を少量含む。
12 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫の亜円礫を少量含む。
13 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
14 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫の亜円礫を少量含む。
15 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
16 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 中～大礫を多量に含む。(4292SK)
17 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 中礫の亜円礫を少量含む。
18 10YR4/3 にぶい黄褐色 細粒砂含むシルト層 黄褐色シルトブロックを多量に含む。
19 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 灰黄褐色シルトブロックを少量含む。
20 10YR4/3 にぶい黄褐色 細粒砂多量含むシルト層 黄褐色シルトブロックを多量に含む。
21 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層
22 10YR2/1 黒褐色 細粒砂含むシルト層 中礫の亜円礫を極少量含む。白色粒子を含む。
23 10YR2/1 黒褐色 細粒砂多量に含むシルト層 中礫の亜円礫を極少量含む。白色粒子を含む。
1 10YR3/4 暗褐色 細粒砂含むシルト層 中礫の亜円礫を少量含む。

第 36 図　3258SI・3429SI 遺構図 (S=1/50)

であるが、4295SL は暗褐色細粒砂含むシルト（第36図 E-E' 土層断面図 1 層）が堆積していた。壁柱穴 4276SK は長軸 0.48m、短軸 0.41m、3429SI 床面からの深さ 0.13m、4277SK は長軸 0.32m、短軸 0.28m、深さ 0.10m、4296SK は長軸 0.35m、短軸 0.31m、深さ 0.10m を測る。

時期は縄文時代後期初頭から後期中葉に属するものと思われる。

(14) 3947SI（第 38 図）

4147 グリッドで検出された竪穴建物跡である。当初は炉跡 3948SL がまず検出され、その後平面プランが確認された遺構である。南東部の堀方は元々地山に含まれていた巨礫をそのまま活用されていた。平面形は長軸 3.83m、短軸 3.78m のほぼ円形となり、深さは 0.15m を測る。ほぼ中央の位置に炉跡 3948SL があり、主柱穴は 4103SK ～ 4105SK、4108SK、4109SK、4113SK、4114SK が該当する可能性がある。また、壁柱穴には 3945SK、4101SK、4110SK ～ 4112SK、4115SK、4116SK などがある。

3948SL は長軸 0.67m、短軸 0.63m、深さ 0.14m の土坑に厚手の扁平な石材を立てて石囲炉を構成している。西辺は長さ約 30cm、高さ約 18cm、厚さ約 7cm、東辺は長さ約 34cm、高さ約 13cm、最大厚約 11cm の直方体状の石材をそれぞれ一石用いて直立させており、東辺の石材は中央で割れていた。一方、北辺は長さ約 21cm で高さ約 30cm の石材を中心に丸みを持つ石材 3 石を、南辺は長さ 13cm 前後の不定形な石材 3 石をそれぞれ用いて直立した壁を形成していた。石材の内側は一部被熱し赤変していた。

主柱穴の規模は、長軸 0.22m ～ 0.52m、短軸 0.16m ～ 0.32m、3947SI 床面からの深さ 0.09m ～ 0.15m を測る。また、壁柱穴の規模は、長軸 0.20m ～ 0.33m、短軸 0.19m ～ 0.28m、深さ 0.11m ～ 0.18m を測る。

時期は縄文時代後期初頭から後期中葉に属するものと思われる。

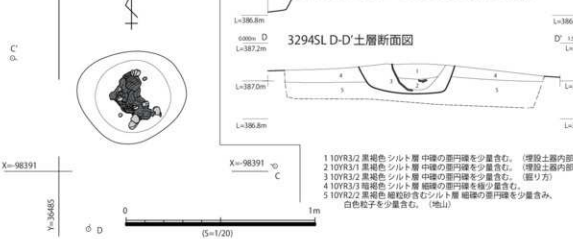
(15) 4240SI（第 39 図・第 40 図）

3949,3950 グリッドで検出された竪穴建物跡である。当初は炉跡 4152SL が検出され、その後周辺部を精査した結果、壁柱穴 4155SK ～ 4160SK、4162SK ～ 4166SK が確認された。この結果、平面プランは直径約 5.3m の円形が想定される。掘り方が緩い擂鉢状に窪むとするならば、4248SK が掘り方の一部である可能性があり、4248SK は長軸 4.80m 以上、短軸 3.54m 以上の楕円形状を呈する。

炉跡 4152SL は石囲炉であったとみられ、石材は大部分が抜き取られたものと思われる。北辺中央部のみが花崗岩の風化礫が残存していた。長軸 1.30m、短軸 1.16m を測る概略方形を呈する。深さ 0.14m を測るが、抜き取り穴は概ね深さが 0.10m 以下であり、残存状況は極めて不良で後世の開発により滅失した可能性が高い。壁柱穴は長軸 0.26m ～ 0.43m、短軸 0.19m ～ 0.41m、深さ 0.12m ～ 0.39m を測り、大部分は土層断面で柱痕が観察される。

この他に 4240SI 南部には土器埋設遺構 4153SK が存在する。4153SK 長軸 0.38m、短軸 0.35m、深さ 0.19m を測り、深鉢の下半部が立位で埋設されていた。

時期は縄文時代後期初頭から後期中葉に属するも



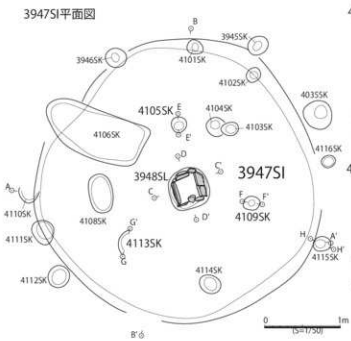
第 37 図　3258SI 遺構図 (S=1/50)

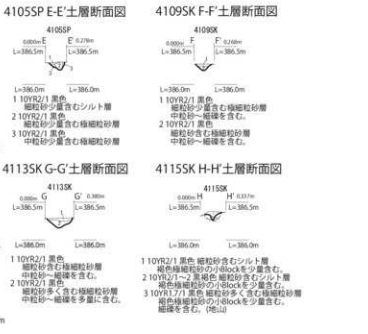
のと思われる。

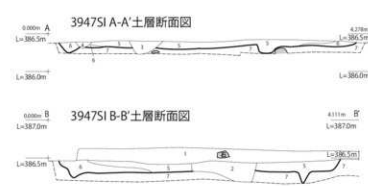
(16) 4241SI（第 39 図・第 40 図）

3949,3950 グリッドで検出された竪穴建物跡である。炉跡 4244SL が検出され、その後周辺部を精査した結果、壁柱穴 4231SK ～ 4237SK が 4244SL を取り囲むように検出された。この結果、平面プランは直径約 4.7m の円形が想定される。

炉跡 4244SL は長軸 4.80m、短軸 .78m を測る長楕円形土坑で 4243SK と重複する。上層には黒褐色細粒砂含む極細粒砂が堆積し炭化物を含み、下層には暗褐色中粒砂含む極細粒砂が堆積し焼土粒を含む。壁柱穴は長軸 0.28m ～ 0.41m、短軸 0.25m ～ 0.31m、深さ 0.08m ～ 0.27m を測り、4236SK と 4237SK は土層断面で柱痕が観察される。

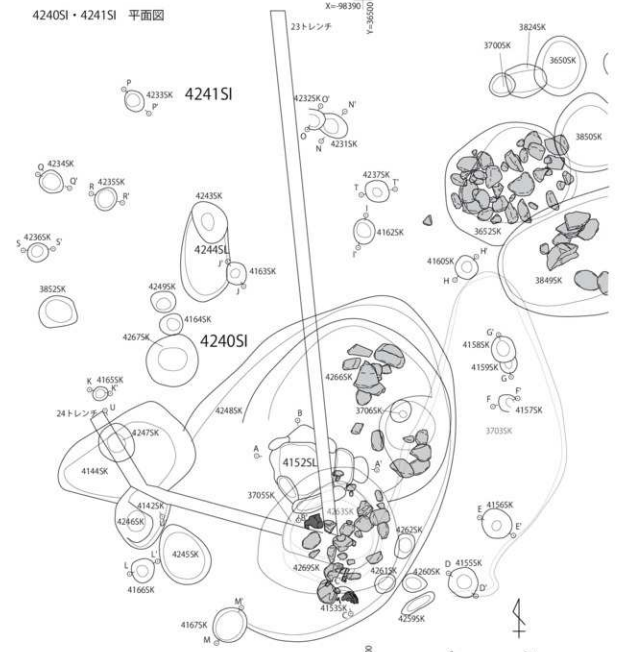


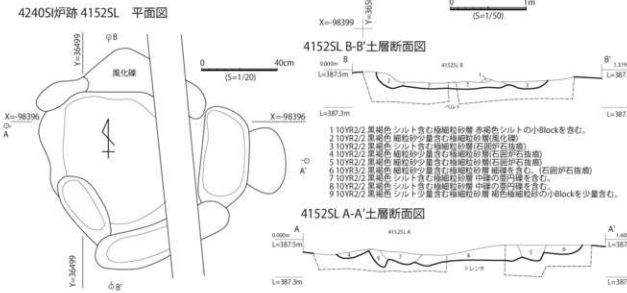




1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層
2 10YR2/1 黒色 細粒砂多量含むシルト層 中礫の戸礫を極少量含む。
3 10YR3/3 黒褐色 細粒砂含むシルト層 中礫の混入礫を少量含む。
4 10YR3/3 黒褐色 細粒砂含むシルト層
5 10YR3/3 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
6 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層(掘り方)

第 38 図　3947SI 遺構図 (S=1/50,1/20)





第 39 図　4240SI・4241SI 遺　構　図（　1）

4155SP D-D'土層断面図

1 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫を少量含む。
2 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂blockを含む。(柱痕)
3 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂の大blockを含む。(掘り方)

4156SK E-E'土層断面図

1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂の小blockを含む。(柱痕)
2 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂blockを含む。(柱痕)
3 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂blockを含む。(掘り方)

4157SK F-F'土層断面図

1 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂の小blockを少量含む。
2 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂の小blockを少量含む。
3 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂の小blockを含む。
4 10YR6/4 にぶい黄橙色 シルト層 細粒砂少量含む

4158SK G-G'土層断面図

1 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂含むシルト層 褐色極細粒砂の小blockを少量含む。
2 10YR3/4 暗褐色 極細粒砂含むシルト層 褐色極細粒砂の小blockを含む。

4160SK H-H'土層断面図

1 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂の小blockを少量含む。炭化物を極少量含む。
2 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂含むシルト層 褐色極細粒砂の小blockを少量含む。中央の黒色帯を含む。(柱痕)
3 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂含むシルト層
4 10YR4/4 褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層 暗褐色極細粒砂blockを少量含む。

4162SK I-I'土層断面図

1 10YR2/3 黒褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小blockを含む。炭化物を少量含む。
2 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小blockを含む。(柱痕)
3 10YR3/4 褐色 シルト含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小blockを非常に多く含む。(掘り方)

4163SK J-J'土層断面図

1 10YR3/3 暗褐色 シルト含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小blockを少量含む。
2 10YR3/4 暗褐色 中粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小blockを少量含む。(柱痕)
3 10YR3/3 暗褐色 細粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小blockを含む。(掘り方)

4165SK K-K'土層断面図

1 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂の小blockを少量含み、細礫を少量含む。

4166SK L-L'土層断面図

1 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂の小blockを少量含み、細礫を少量含む。(柱痕)
2 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂blockを少量含む。(掘り方)
3 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂の大blockを少量含む。(掘り方)

4167SK M-M'土層断面図

1 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂の小blockを少量含む。
2 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂の小blockを含む。
3 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂blockを少量含む。
4 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂の大blockを少量含む。

4231SK N-N'土層断面図

1 10YR2/3 黒褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小blockを少量含む。(柱痕)
2 10YR3/3 暗褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小blockを含む。(掘り方)

4232SK O-O'土層断面図

1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小blockと細礫を含む。
2 10YR2/2 黒褐色 中粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小blockを多量に含む。中央の黒色帯を含む。

4233SK P-OP'土層断面図

1 10YR3/3～4 暗褐色 シルト含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小blockを含む。中央の黒色帯を含む。

4234SK Q-Q'土層断面図

1 10YR3/3 暗褐色 シルト含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小blockを多量に含む。細礫を含む。

4235SK R-R'土層断面図

1 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小blockを含む。

4236SK S-S'土層断面図

1 10YR3/3 暗褐色 シルト多く含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小blockを少量含む。(柱痕)
2 10YR4/4 褐色 細粒砂含む極細粒砂層 (掘り方)
3 10YR4/4 褐色 細粒砂含む極細粒砂層 径3cm以上の礫を含む。(掘り方)

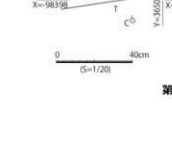
4237SK T-T'土層断面図

1 10YR3/3 暗褐色 細粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小blockを含む。(柱痕)
2 10YR3/3 暗褐色 中粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小blockを多量に含む。(掘り方)

4144SK・4246SK・4247SK U-U'土層断面図

1 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂含むシルト層 褐色極細粒砂の小blockを少量含む。細礫を含む。　炭化物を少量含む。
2 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂多く含むシルト層 褐色極細粒砂の小blockを少量含む。
3 10YR3/2 黒褐色 細粒砂多く含むシルト層 褐色極細粒砂の小blockを少量含む。(柱痕)
4 10YR3/2 黒褐色 シルト含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小blockを含む。(掘り方)

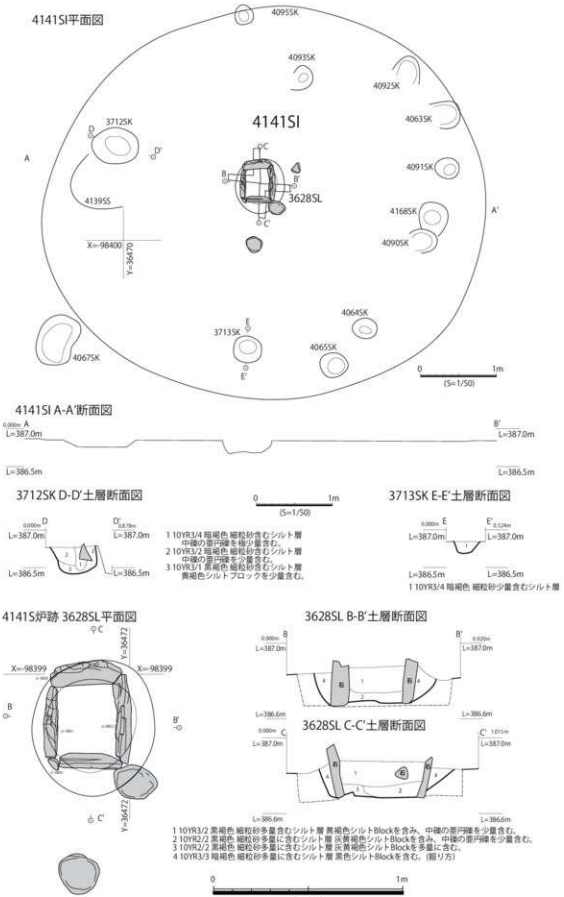
4153SK 平面図



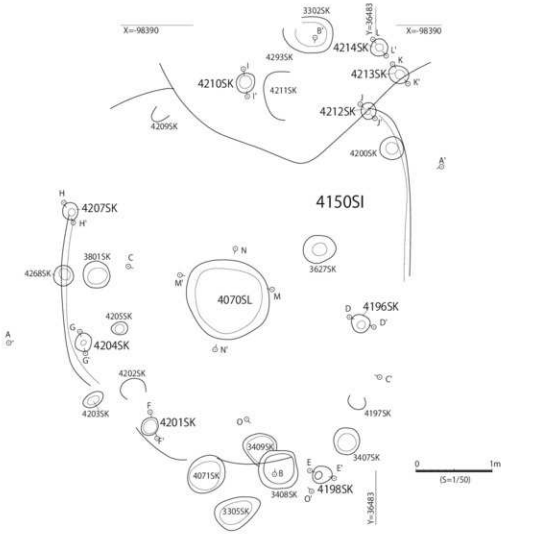
4153SK C-C'土層断面図

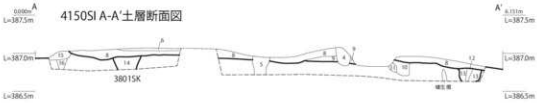
1 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂含むシルト層 細礫を含む。炭化物を少量含む。
2 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂の小ブロックを少量含む。

第 40 図　4240SI・4241SI 遺 構 図 (　2)



第 41 図　4141SI・遺構図 (S=1/50.1/20)





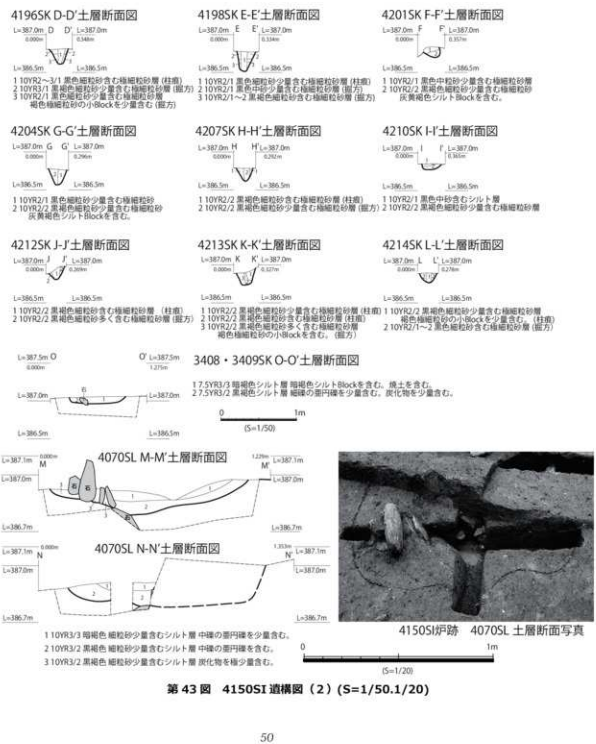
第 42 図　4150SI 遺構図（1）(S=1/50)

時期は縄文時代後期初頭から後期中葉に属するものと思われる。

(17) 4141SI（第 41 図）

3947,4047 グリッドで検出された竪穴建物跡である。当初は炉跡 3628SL が検出され、その後周辺部を精査した結果、壁柱穴 3712SK、3713SK、4063SK ～ 4065SK、4090SK ～ 4093SK などが確認され、長軸 5.83m、短軸 5.24m 楕円形の平面プランであることが判明した。遺構検出面で床面がほぼ露出した状態であり、堀方は存在しない状況であった。

炉跡 3628SL は長軸 0.71m、短軸 0.56m のやや歪な楕円形を呈し、内部に平面長方形の石囲炉が設置されていた。掘り方の深さ 0.24m を測る。石囲炉は南辺が長さ約 34cm、高さ約 23cm、厚さ約 4cm、北辺が長さ約 38cm、高さ約 28cm、厚さ約 7cm、西辺が長さ約 38cm、高さ約 23cm、厚さ約 10cm、東辺が長さ約 48cm、高さ約 24cm、厚さ約 7cm のそれぞれ一石用いてほぼ直立させているが、南北両辺はやや逆ハの字状に上に開く状態で配置されていた。南西隅部には小円礫が補填されており、南東隅の外側には上面を石囲炉上端部よりもやや低い位置で水平にした状態で円形の扁平な礫が設置されてい



第 43 図　4150SI 遺構図（2）(S=1/50.1/20)

た。石材は被熱により赤変し節理に沿って割れた状態のものもある。

壁柱穴 3712SK 長軸 0.62m、短軸 0.48m、深さ 0.46m で、土層断面にて柱痕が観察される。3713SK は長軸 0.45m、短軸 0.44m、深さ 0.20m、他の壁柱穴は長軸 0.32 m ～ 0.47m、短軸 0.27 m ～ 0.39m、深さ 0.29 m ～ 0.42m を測る。

時期は縄文時代後期初頭から後期中葉に属するものと思われる。

(18) 4150SI（第 42 図・第 43 図）

3948 グリッドで検出された竪穴建物跡である。北部を 4293SI により切られ正確な平面形は不明となっているが、長軸 5.34m 以上、短軸 4.92m の楕円形を呈していたと推定される。深さは 0.26m を測る。中央部に炉跡 4070SL があり、掘り方周囲に壁柱穴 4196SK ～ 4198SK、4201SK ～ 4205SK、4207SK、4209SK ～ 4212SK、4268SK などが巡っている。

4070SL は長軸 1.16m、短軸 1.06m のほぼ円形を呈する土坑で、深さ 0.26m を測る。上位では内部に焼土粒や炭化物が含まれており（第 42 図 4150SI4070SL C-C' 土層断面図）、堆積は大きく上下 2 層に区分できる。4070SL は 4150SI の堆積層から掘り込まれており複数の遺構面が形成されていた可能性が考えられる。さらに下部を精査すると、東側に複数の扁平な石材が立てられた状態で出土しており、本来は石囲炉跡だった可能性が高い（第 43 図 4070SL M-M' および N-N' 土層断面図）。

壁柱穴は土層断面にて柱痕が観察されるものが多く、長軸 0.22m ～ 0.33m、短軸 0.14m ～ 0.25m、深さ 0.08m ～ 0.29m を測る。

時期は縄文時代後期初頭から後期中葉に属するものと思われる。

(19) 4293SI（第 44 図・第 45 図）

3848,3948 グリッドで検出された竪穴建物跡である。北東部を 2215SI によって切られているが、長軸 5.30m、短軸 4.20m の隅丸長方形の平面プランと推定される。下位に 4299SI が重複しており、深さは 0.16m を測る。中央やや南寄りの位置に炉跡 3302SL と 3303SL が重複して存在しており、その前後関係からみて 4293SI に伴う炉跡 3303SL と考えられる。柱穴は 2217SK、2118SK、4210SK、4214SK などが該当すると思われる。

炉跡 3303SL は長軸 1.15m、短軸 0.57m、深さ 0.26m を測る。北東辺に長さ約 33cm、高さ約 29cm、厚さ約 10cm の扁平な石材が垂直に設置されていた。南西部にも立石が存在するが、これは基本的に 3302SL に伴うものと思われ、3303SL の主要な構成材ではないと考えられる。埋土には炭化物などが含まれていたため炉跡と推定したが、石囲炉か否かは後世の撹乱を受けており特定できない。

炉跡 3303SL の東部から深鉢が出土しており、時期は縄文時代後期前葉に属するものと思われる。

(20) 4299SI（第 44 図）

3848,3948 グリッドで検出された竪穴建物跡である。上位に 4203SI が存在しており、平面プランの北西部は不明であるが、長軸 4.03m 以上、短軸 1.39m 以上のほぼ円形の平面プランと推定される。炉跡は重複関係からみて 3302SL が該当すると考えられ、壁柱穴には 3293SK と 3298SK などがある。

3302SL は長軸 1.15m、短軸 0.57m の楕円形で、深さ 0.09m を測る。南辺には長さ約 26m、高さ約 25cm、厚さ約 12cm の扁平な石材（円礫）が垂直に設置されていた。西辺には長さ約 22cm、高さ約 15cm、厚さ約 8cm のやや小振りな石材があり、この他に若干の石材が伴っていた。3302SL は石囲炉である可能性が高い。

壁柱穴 3293SK は長軸 0.135m、短軸 0.34m、深さ 0.20m、3298SK は長軸 0.48m、短軸 0.26m、深さ 0.12m を測る。

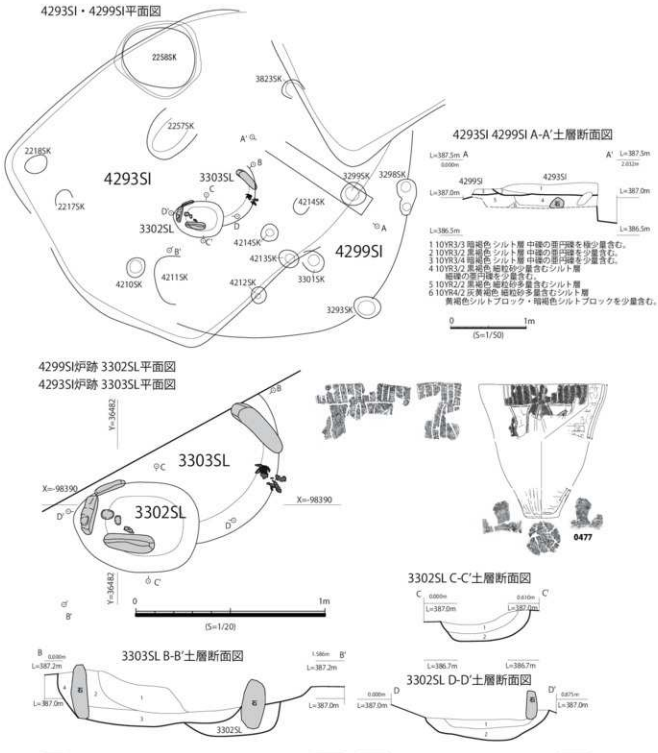
時期は縄文時代後期初頭から後期前葉に属するものと思われる。

(21) 4310SI（第 45 図）

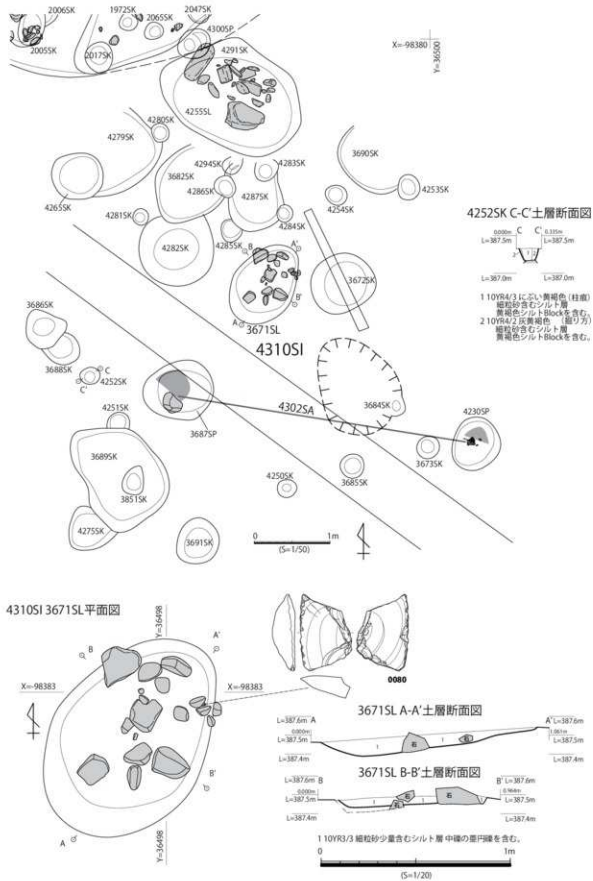
3849,3850 グリッドで検出された竪穴建物跡である。当初は炉跡 3671SL が検出され、その後周辺部を精査すると、柱穴 3684SK、3685SK、4250SK ～ 4252SK などが確認された。この結果、直径約 5.8m の円形の平面プランであると想定できるが。

炉跡 3671SL は長軸 1.16m、短軸 0.81m の楕円形を呈し、深さ 0.13m を測る。亜円礫が多数出土しており、多くは上面を平坦な面な状態に配置されていた。一部の石材が被熱しており石敷炉の可能性が考えられる。

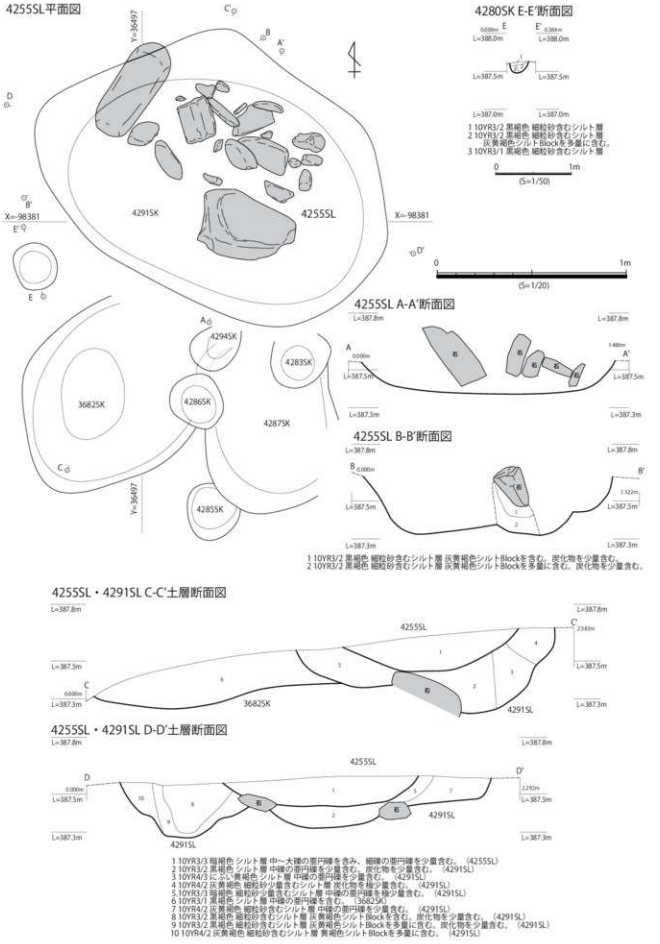
柱穴 3684SK は長軸 0.30m、短軸 0.25m、4310SI 床面からの深さ 0.26m、3685SK は長軸 0.32m、短軸 0.32m、深さ 0.14m、4250SK は長軸 0.26m、短軸 0.24m 以上、深さ 0.12m、4251SK は長軸 0.32m、短軸 0.31m、深さ 0.07m、4252SK は長軸 0.27m、短軸 0.22m、深さ 0.08m を測る。



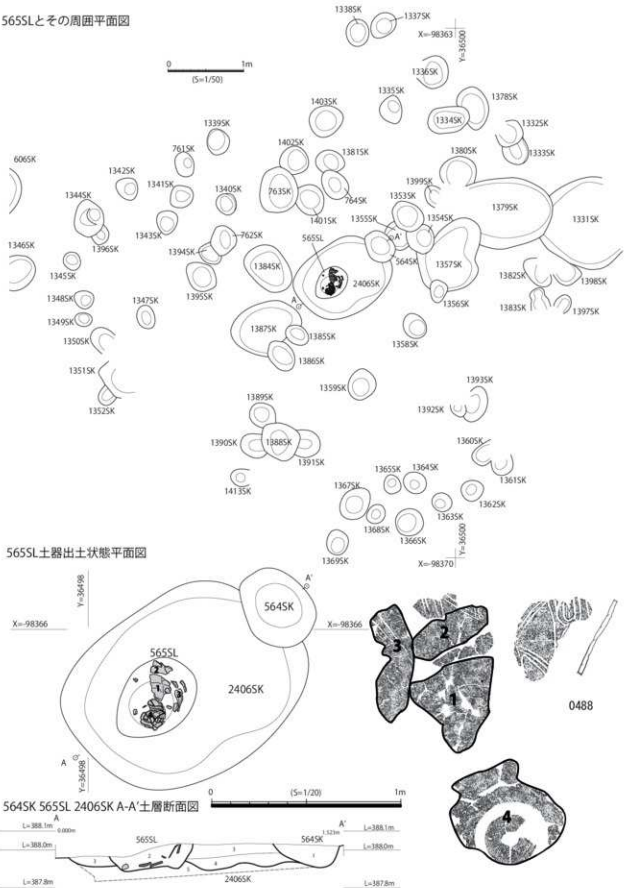
第 44 図　4293SI・4299SI 遺構図 (S=1/50.1/20)



第 45 図　4310SI 遺構図 (S=1/50.1/20)

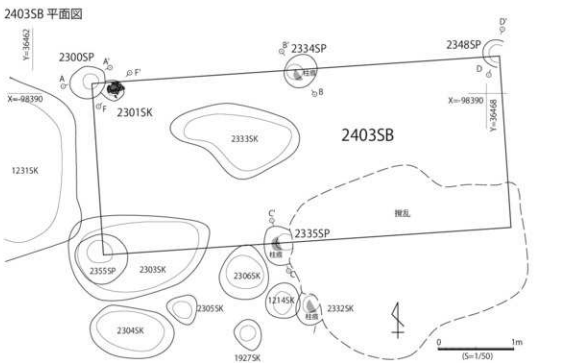


第 46 図　4255SL・4291SL 遺構図 (S=1/20)



1 10YR3/2 黒褐色 シルト層 暗褐色シルトBlockを少量含む。炭化物を少量含む。(5645K)
2 10YR3/2 黒褐色細粒砂含むシルト層 黄褐色シルトBlockを少量含む。炭化物を極少量含む。増設土器の掘り方。(565SL)
3 10YR4/2 細粒砂含むシルト層 灰黄褐色シルト小Blockを含む。(2406SK)
4 10YR4/2 細粒砂含むシルト層 灰黄褐色シルト小Blockを多量に含む。(2406SK)
5 10YR5/4 にぶい黄褐色 細粒砂含むシルト層 灰黄褐色シルトBlockを上部に含む。(地山)

第 47 図　565SL 周辺遺構図 (S=1/50.1/20)

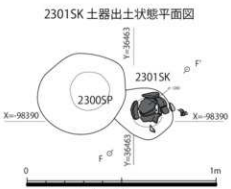


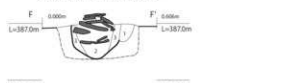
1 10YR2/1 黒色 シルト含む極細粒砂層 径10cm以上の円礫含む。(柱痕)
2 10YR2/1 黒色 細粒砂少量含む極細粒砂層
3 10YR2/1 黒色 シルト含む極細粒砂層 暗褐色極細粒砂blockを含む。 炭化物を微少量含む。(掘り方)
4 10YR2/1 黒色 細粒砂含む極細粒砂層 暗褐色極細粒砂blockを多量に含む。(掘り方)

1 10YR2/1 黒色 細粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。(柱痕)
2 10YR2/1 黒色 細粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。(掘り方)
3 10YR2/1 黒色 細粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小Blockを多量に含む。(掘り方)

1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。(柱痕)
2 10YR2/2 黒褐色 中粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小Blockを含む。 中礫の亜角礫を含む。(掘り方)

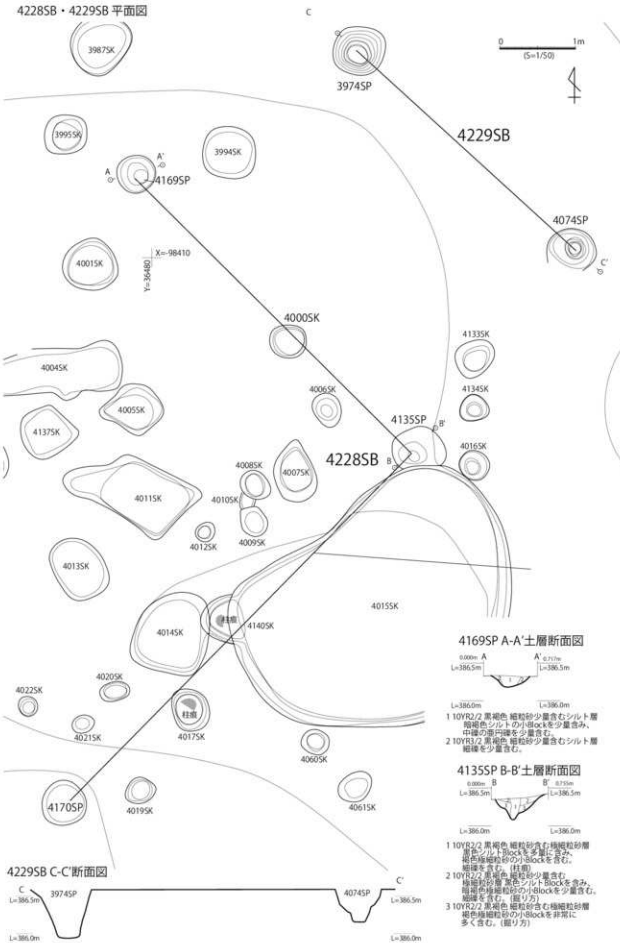
1 10YR2/1～2 黒褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。(柱痕)
2 10YR2/1 黒色 粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂の小Blockを含む。(柱痕)
3 10YR2/1～2 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。(掘り方)
4 10YR2/1 黒色 中粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小Blockを多量に含む。(掘り方)





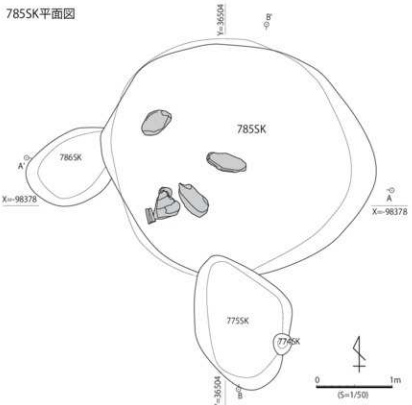
1 植生層
2 10YR2/3 黒褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小Blockを含む。 ※鉄片を多量に含む。
3 10YR2/3 黒褐色 細粒砂非常に多く含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。2より粗い。

第 48 図　2403SB 遺構図 (S=1/50,1/20)

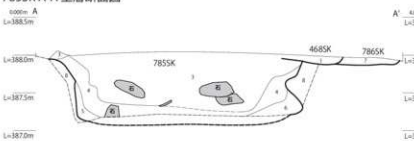


第 49 図　4228SB・4229SB 遺構図 (S=1/50)

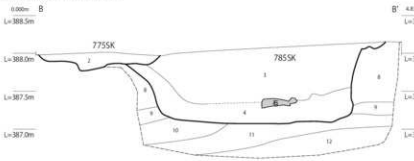
785SK平面図



785SK A-A'土層断面図



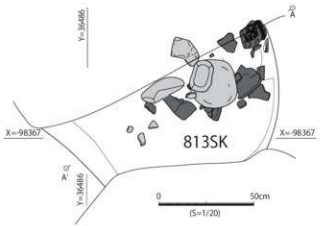
785SK B-B'土層断面図



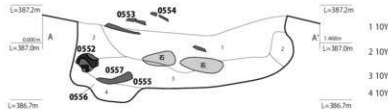
1 10YR3/2 黒褐色 シルト層 中礫の亜角礫を含む。炭化物を少量含む。白色粒子を含む。(468SK)
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層 暗褐色細粒砂Blockを多量に含み、
黄褐色細粒砂の小Blockを少量含む。炭化物を極少量含む。(775SK)
3 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂含むシルト層 黒褐色シルトBlockを非常に多く含み、
暗褐色シルトBlockを多量に含み、黄褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。
大～中礫の亜角礫を含む。炭化物を含む。(785SK)
4 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂含むシルト層 黄褐色極細粒砂Blockを多量に含む。炭化物を少量含む。(785SK)
5 10YR4/4 褐色 中粒砂少量含む極細粒砂層 暗褐色シルトBlockを非常に多く含み、
黄褐色極細粒砂Blockを非常に多く含む。炭化物を少量含む。(785SK)
6 10YR4/4 褐色 シルト含む極細粒砂層 暗褐色シルトBlockを非常に多く含み、
黄褐色極細粒砂の小Blockを含む。中礫の亜角礫を少量含む。炭化物を少量含む。(785SK)
7 10YR3/3 暗褐色 細粒砂含むシルト層 黒褐色シルトBlockを多量に含み、
黄褐色極細粒砂の小Blockを含む。炭化物を少量含む。(786SK)
8 10YR5/6 黄褐色 中粒砂少量含む極細粒砂層 暗褐色極細粒砂Blockを非常に多く含む。炭化物を少量含む。(地山)
9 10YR5/4 にぶい黄褐色 シルト含む中粒砂層 中礫の円礫を多量に含む。
10 2.5Y5/3 黄褐色 粗粒砂 中礫の円礫を含む。
11 2.5Y5/3 黄褐色 中粒砂 細礫の亜円礫を含む。
12 2.5Y5/3 黄褐色 粗粒砂 中礫の円礫を少量含み、細礫の亜円礫を含む。

第 50 図　785SK 遺構図 (S=1/50)

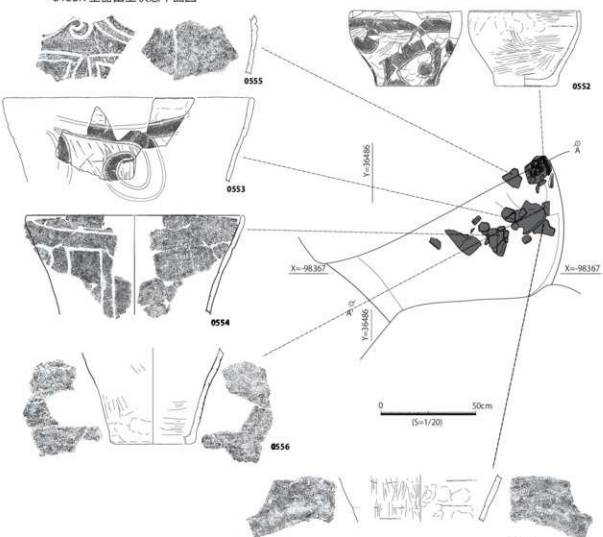
813SK 平面図



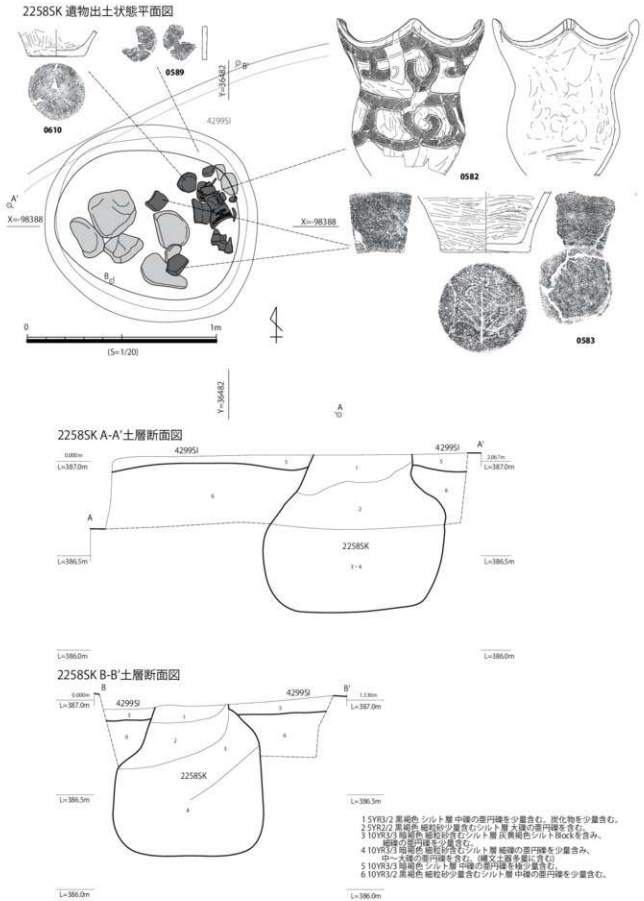
813SK A-A'土層断面図



813SK 土器出土状態平面図



第 51 図　813SK 遺構図 (S=1/50,1/20)



第 52 図　2258SK 遺構図 (S=1/20)

時期は縄文時代後期初頭から後期中葉に属するものと思われる。

(22) 4255SL・4291SL 周辺（第 45 図・第 46 図）

4255SL と 4291SL は 3849 グリッドで検出された炉跡であり、これを中心に竪穴建物跡が存在したとみられる。周辺部を精査したが、4255SL・4291SL 北側には 790SI が、南側に 4310SI があり、床面の平面プランを特定することができていない。それでも柱穴 4254SK、4284SK、4285SK、4281SK などが検出され。この結果、直径（一辺）約 4.4m 規模をもつ竪穴建物跡であると想定できる。

炉跡 4255SL は炉跡 4291SL の上位にあり、平面プランは長軸 1.08m、短軸 1.05m の円形を呈するとみられる。土坑の深さは 0.14m を測るが、検出面の上位から多く礫が発見されており、本来はもっと深い遺構と思われる。南辺に長さ約 52cm、厚さ約 34cm の規模を持つ石材が、これに直交する方位で西辺に長さ約 55cm、厚さ約 22cm の規模を持つ石材が配置され、その内側に多くの礫が水平に配置された状態で出土した。一部の石材が被熱しており石敷炉の可能性が考えられる。炉跡 4291SL は長軸 2.02m、短軸 1.50m の規模を持つ不定形の平面形で、深さは 0.28m を測る。埋土に炭化物が多く含まれている（第 46 図 C-C'、D-D' 土層断面図を参照）が、石材は伴っていないとみられる。

柱穴 4254SK は長軸 0.30m、短軸 0.26m、深さ 0.04m、4284SK は長軸 0.23m、短軸 0.21m、深さ 0.10m、4285SK は長軸 0.31m、短軸 0.28m、深さ 0.12m、4281SK は長軸 0.22m、短軸 0.21m、深さ 0.15m を測る。

炉跡出土遺物からみて、時期は縄文時代後期中葉以前に属するものと思われる。

(23) 565SL 周辺（第 47 図）

565SL は 3649 グリッドで検出された炉跡であり、これを中心に竪穴建物跡が存在したとみられるが、残念ながら竪穴建物の覆土や床面などは失われていた。周辺部には多数の柱穴となる可能性を持つ土坑が検出されているものの、竪穴建物の平面プランを特定することができない。

炉跡 565SL は長軸 0.49m、短軸 0.37m、深さ 0.37m を測る。2400SK を切る形で掘削され、黒褐色細粒砂含むシルトが埋積し炭化物を少量含んでいた。深鉢 488 の体部片と底部片が縦い擂鉢状に敷かれていた。

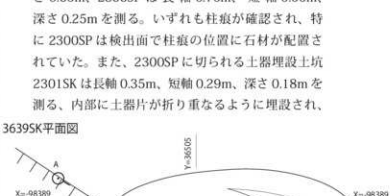
時期は縄文時代後期前葉に属するものと思われる。

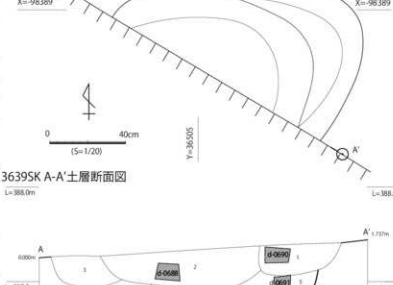
2 掘立柱建物跡

(1) 2403SB（第 48 図）

3846,3946 グリッドで検出された掘立柱建物跡で、2300SP、2334SP、2335SP、2348SP、2355SP で構成されており、南東隅の柱穴は撹乱により失われていた。形状は桁行 2 間 5.31m、梁行 1 間 2.30m の長方形である。北西部の柱穴 2300SP に接する形で 2301SK も存在する。

柱穴 2300SP は長軸 0.49m、短軸 0.42m、深さ 0.35m、2334SP は長軸 0.46m、短軸 0.41m、深さ 0.67m、2335SP は長軸 0.60m、短軸 0.50m、深さ 0.41m、2348SP は長軸 0.38m、短軸 0.24m、深さ 0.50m、2355SP は長軸 0.70m、短軸 0.66m、深さ 0.25m を測る。いずれも柱痕が確認され、特に 2300SP は検出面で柱痕の位置に石材が配置されていた。また、2300SP に切られる土器埋設土坑 2301SK は長軸 0.35m、短軸 0.29m、深さ 0.18m を測る、内部に土器片が折り重なるように埋設され、





第 53 図　3639SK 遺構図 (S=1/20)

黒褐色細粒砂含む極細粒砂が充填されていた。

時期は縄文時代中期末から後期中葉に属するものと思われる。

（2）4228SB（第 49 図）

4047,4147 グリッドで検出された掘立柱建物跡であるが、西半部は不明である。4135SP、4169SP、4170SP で構成され、桁行 1 間 6.44m、梁行 1 間 5.16m を測る。4135SP と 4169SP の間に 4000SK が、4135SP と 4170SP の間に 4140SK と 4017SK がある。4135SP は長軸 0.74m、短軸 0.59m、深さ 0.35m、4169SP は長軸 0.56m、短軸 0.55m、深さ 0.15m、4170SP は長軸 0.60m、短軸 0.59m、深さ 0.11m を測る。なお、4135SP と 4169SP の方向は、後述する 4229SB の方位とほぼ同一である。

時期は縄文時代中期末から後期中葉に属するものと思われる。

（3）4229SB（第 49 図）

4048,4148 グリッドで検出された柱穴列（掘立柱建物跡）である。柱穴 3974SP と 4074SP で構成され、長さ 3.93m を測る。4135SP と 4169SP の方位とほぼ共通し並走しているが、配置がズレており建物を構成しない。3974SP は長軸 0.75m、短軸 0.67m、深さ 0.60m、4074SP は長軸 0.68m、短軸 0.60m、深さ 0.51m を測る。

3 土坑

ここで土坑と総称したものは、大きく袋状土坑・集石土坑（遺構）・土器埋設土坑などを含んでいる。

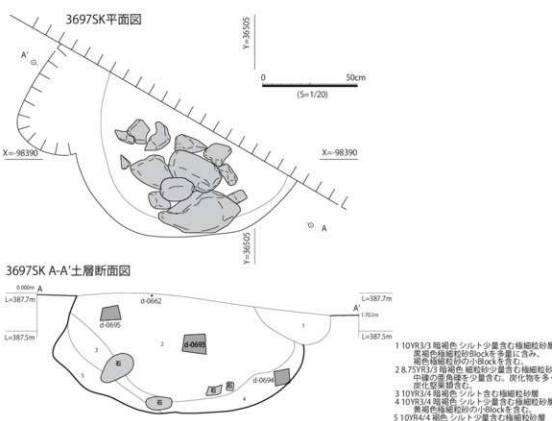
（1）785SK（第 50 図）

3750 グリッドで検出された袋状土坑である。長軸 3.61m、短軸 3.12m の楕略円形を呈しており、深さ 1.08m である。上端部を長軸 1.87m、短軸 1.32m、深さ 0.18m の土坑 775SK と、長軸 1.30m 以上、短軸 0.91m、深さ 0.25m の 786SK に切られる。堀方は概ね垂直となるが、西端部などで下部が外側に抉れている状態が観察され（第 50 図 785SK A-A' 土層断面図）。埋土は黒褐色細粒砂含む極細粒砂を主体とするが、炭化物を含んでいる。下半からはやや小さい円礫や亜円礫を伴って、多量の大礫や巨礫が出土した。

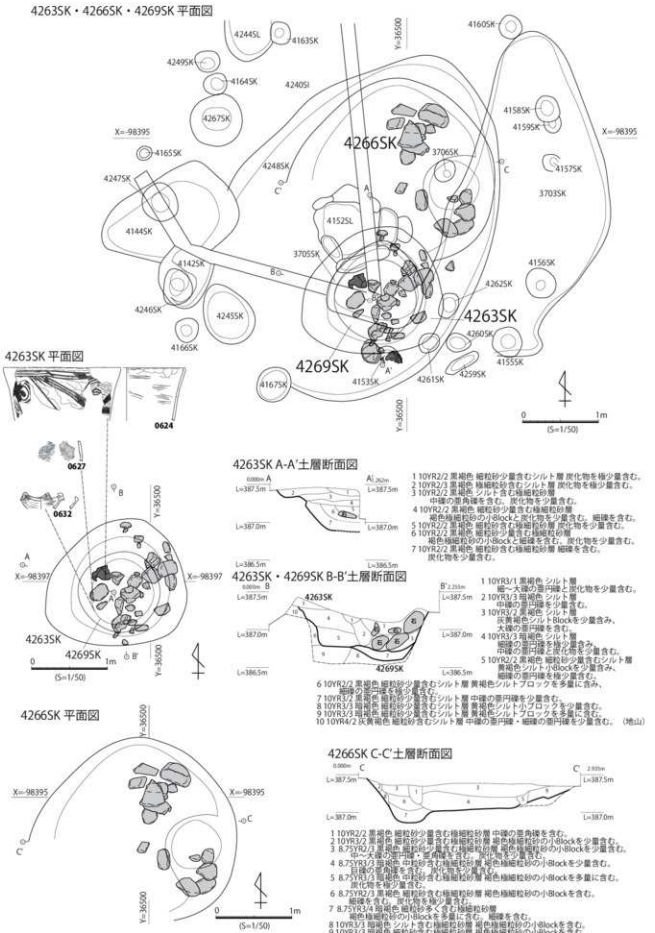
時期は縄文時代後期前葉（福田 K2 式期併行）に属するものと思われる。

（2）813SK（第 51 図）

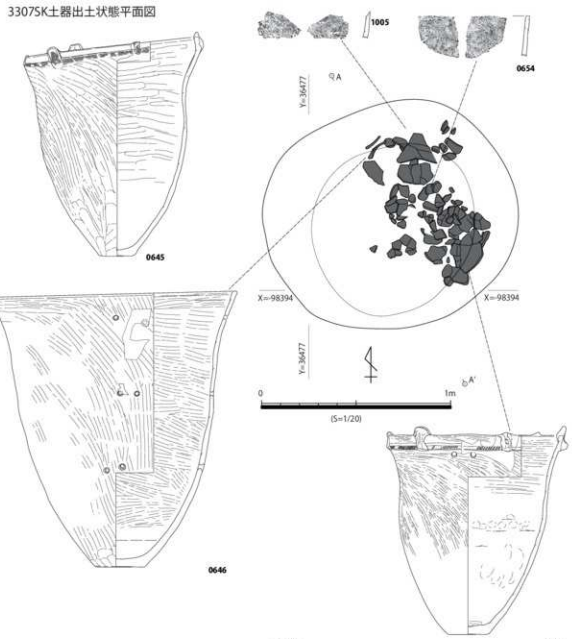
3648 グリッドで検出された袋状土坑である。北部と南部を撹乱によって破壊されており、平面形は不明である。現状で長軸 1.30m、短軸 0.57m、深さ



第 54 図　3697SK 遺構図 (S=1/20)



第 55 図　4263SK･4266SK･4269SK 遺構図 (S=1/50)



1 10YR3/1 黒褐色 シルト層（細疎）
2 5YR3/3 暗赤褐色 細粒砂多量に含むシルト層 中～大礫の亜円礫を含む。
3 5YR3/2 暗赤褐色細粒砂多量に含むシルト層 黄褐色シルトブロックを含む。
4 10YR3/2 黒褐色 細粒砂 黄褐色シルトブロックを多量に含む。

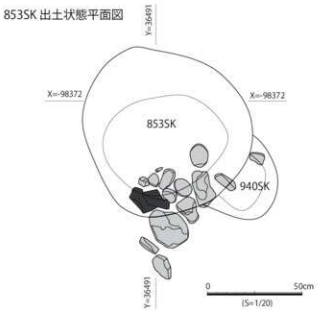
第 56 図　3307SK 遺構図 (S=1/20)

0.52m を測る。残存する土坑の壁面は下半で外側に抉れており、現状の東端部の抉れた部分で浅鉢が完形の状態で出土した、その付近の上下で深鉢の破片が多数出土した。

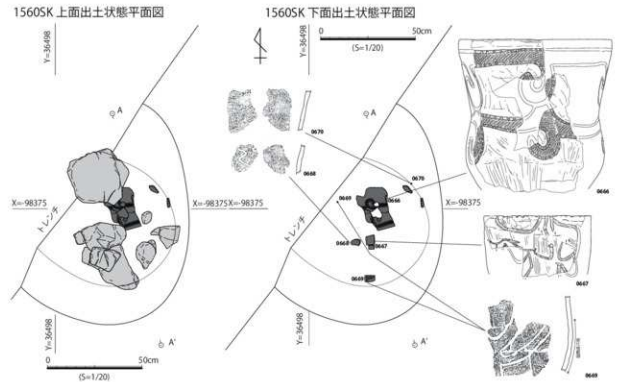
この出土土器から、時期は縄文時代後期初頭（中津・称名寺式期）に属するものと思われる。

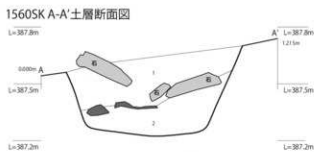
（3）2258SK（第 52 図）

3848 グリッドにて 2 面で検出された袋状土坑である。この位置は 3 面で 4293SI が検出されている。2258SK の検出面での平面形は長軸 0.97m、短軸 0.67m の楕円形であり、深さ 0.85m である。土坑の壁面は下方で外側に 0.10m 前後抉れており、土坑の規模は最大で長軸 1.16m、短軸 0.85m を測る。壁面の抉れ方は、検出面からすぐに外側へ断面ハの字状に広がり、中位で直立し下端で擂鉢状となる。底面の平坦面は広い。土坑の南西部は礫が、東端部は土器が多数出土しており、東壁の抉れ部付近で深鉢

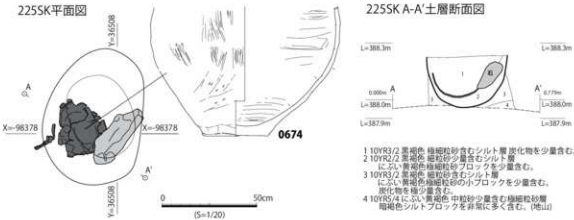


第 57 図　853SK 遺構図 (S=1/20)

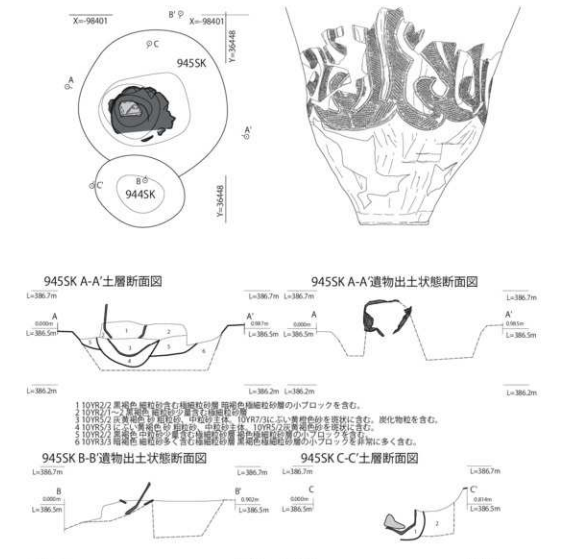




第 58 図　1560SK 遺構図 (S=1/20)



第 59 図　225SK 遺構図 (S=1/20)



第 60 図　945SK 遺構図 (S=1/20)

582 が出土した。

この出土土器から、時期は縄文時代後期初頭（中津・称名寺式期）に属するものと思われる。

（4）3639SK（第 53 図）

3850 グリッドで検出された袋状土坑である。5 トレンチを掘削した際に南半部が失われ全形を知ることができない。5 トレンチの南側に 3639SK と連続するかのような形状で 3697SK が確認されているが、ここでは別遺構として報告する。長軸 1.28m 以上、短軸 0.77m 以上の楕円形を呈すると推測され、深さ 0.53m である。上部は土坑の本来の形状を残していないとみられ、窄まった上部が崩落したものと推定しておく。第 53 図 3639SK A-A' 土層断面図でみると、東端部で若干壁面が抉れている部分が確認される。埋土は黒褐色または暗褐色シルトを含む極細粒砂が堆積しており、堅果類種子を含む炭化物が多く含まれていた。花粉分析用の土壌サンプルも採取した。

時期は縄文時代後期前葉（福田 K2 式期併行）に属するものと思われる。

（5）3697SK（第 54 図）

3950 グリッドで検出された袋状土坑である。5 トレンチを掘削した際に北半部が失われ全形を知ることができない。5 トレンチの北側に 3639SK があるが、ここでは別遺構として取り扱う。現状で長軸 1.19m 以上、短軸 0.51m 以上の規模を持つ円形の平面プランで、深さは 0.54m である。第 54 図 3697SK A-A' 土層断面図でみると、東西両端部で壁面が抉れていることが確認され、大量の礫を伴って黒褐色または暗褐色シルトを含む極細粒砂が堆積していた。

時期は縄文時代後期前葉から後期中葉に属するものと思われる。

（6）4263SK（第 55 図）

3950 グリッドの 4240SI（4152SL）の下位で検出された集石土坑である。4266SK を切っている。長軸 1.91m、短軸 1.70m の歪な円形プランを呈し、深さ 0.88m である。第 55 図 4263SK・4269SK B-B' 土層断面図でみると、複数回の掘り込みまたは埋め戻しが行われたとみられ、下位に 4269SK が存在する。内部には多量の礫が出土し北西部には土器片も確認できた。

時期は縄文時代後期前葉から後期中葉に属するものと思われる。

（7）4266SK（第 55 図）

3949,3950 グリッドの 4240SI（4152SL）の下位で検出された集石土坑である。4263SK に南端部を切られており、長軸 2.77m 以上、短軸 2.44m 以上の円形プランと思われる、東端部がやや深く掘り込まれており、深さ 0.39m である。内部からそれほど密集した状態ではないが多くの礫が出土した。

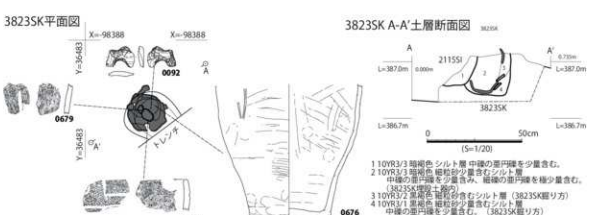
時期は縄文時代後期前葉から後期中葉に属するものと思われる。

（8）4269SK（第 55 図）

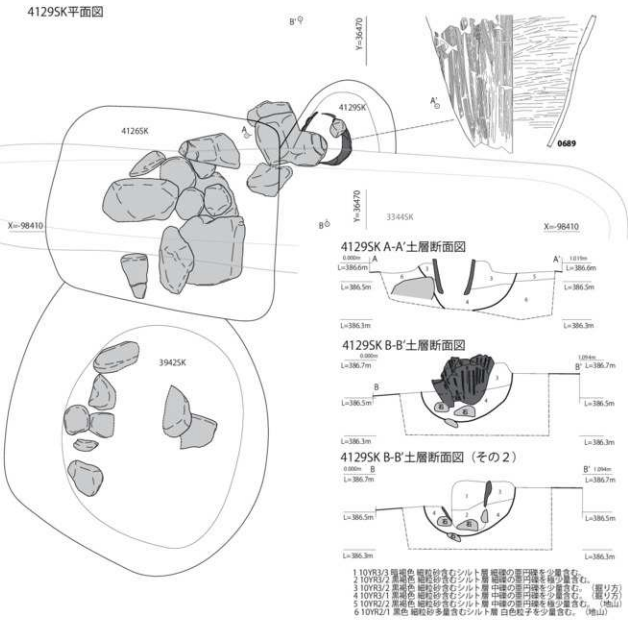
3949,3950 グリッドの 4263SK の下位で検出された土坑である。長軸 1.38m、短軸 1.31m、深さ 0.09m である。

（9）3307SK（第 56 図）

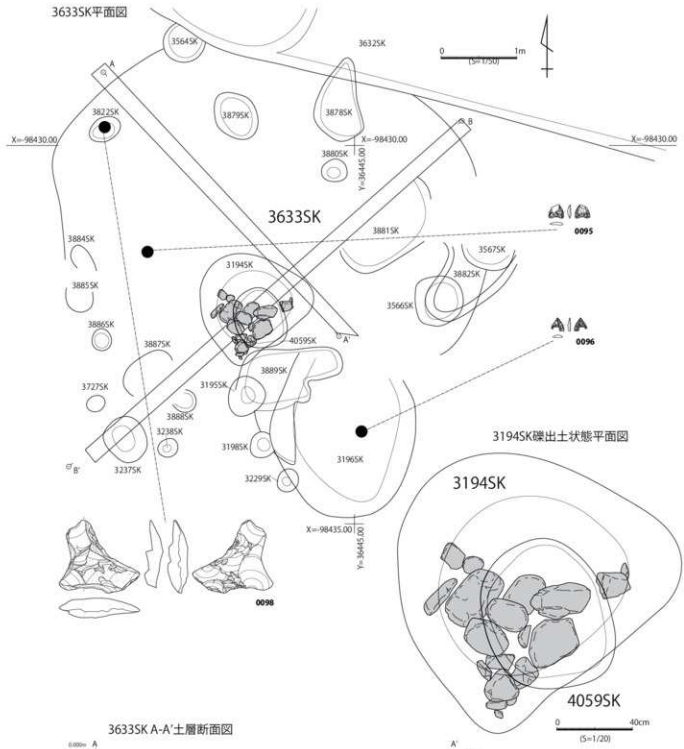
3947 グリッドで検出された集石土坑である。長軸 4.44m、短軸 2.78m の不定形な平面形を呈し、深さ 0.45m を測る。下半に多量の礫が充填されており、礫群の上面には深鉢 3 個体分の大型破片が出土した（写真図版 38 を参照）。また、埋土には焼土が含まれていた。



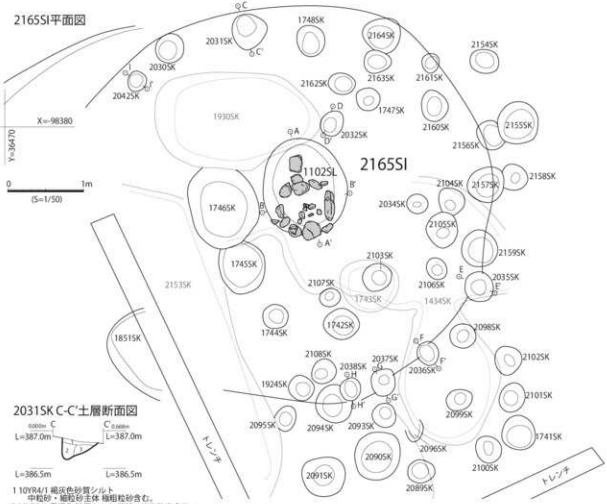
第 61 図　3823SK 遺構図 (S=1/20)



第 62 図　4129SK・4242SK 遺構図 (S=1/20)



第 63 図　3633SK 遺構図 (S=1/50,1/20)



第 64 図　2165SI 遺構図（1）(S=1/50)

時期は縄文時代後期中葉（堀之内Ⅱ式期）に属するものと思われる。

(10) 853SK（第 57 図）

3749 グリッドで 1 面遺構として 790SI を切る形で検出された集石土坑である。長軸 1.03m、短軸 0.73m の楕円形の平面プランをもち、深さ 0.33m である。集石に伴って土器も出土した。時期は縄文時代中期末から後期中葉に属するものと思われる。

(13) 1560SK（第 58 図）

3749 グリッドで 1 面遺構として 788SI を切る形で検出された集石土坑である。トレンチによって西半部が不明となっているが、長軸 1.16m 以上、短軸 0.68m 以上のやや歪な円形を呈し、深さ 0.55m を測る。上半部に礫が、下半部に深鉢の破片が出土している。時期は縄文時代中期末から後期中葉に属するものと思われる。

(14) 225SK（第 59 図）

3750 グリッドで検出された土器埋設土坑である。下位には 787SK が存在する。長軸 0.73m、短軸 0.52m の楕円形土坑で、深さ 0.20m である。土坑の南半部西側に深鉢の底部片が立位に埋設されており、土器片の東側延長線上に礫が配置されていた。時期は縄文時代中期末から後期中葉に属するものと思われる。

(15) 945SK（第 60 図）

4044 グリッドで検出された土坑である。表土掘削の際に埋設された土器が最初に発見された遺構で、その後の検出作業の結果、長軸 0.81m、短軸 0.79m の円形土坑であることが判明した。深さは検出面から 0.33m を測るが、本来はもう少し高いところから存在したと思われるで。土器（深鉢）は土坑底部ににぶい黄褐色砂を敷いた上に立位に置き、黒褐色細粒砂を含む極細粒砂を充填して固定されたとみられる。土器内部には下部に灰褐色砂が入っていた。時期は縄文時代中期末から後期中葉に属するものと思われる。

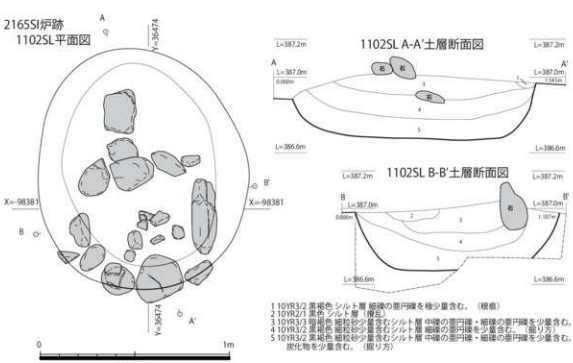
(16) 3823SK（第 61 図）

3848 グリッドで検出された土器埋設土坑である。4293SI の内部に位置し、2215SI によって東端部が破壊されていた。長軸 0.23m 以上、短軸 0.21m 以上の円形土坑と推定され、深さ 0.23m である。土坑全体に深鉢が立位に埋置されており、内部に土器片と異形石器が収められていた。時期は縄文時代中期末から後期中葉に属するものと思われる。

(17) 4129SK（第 62 図）

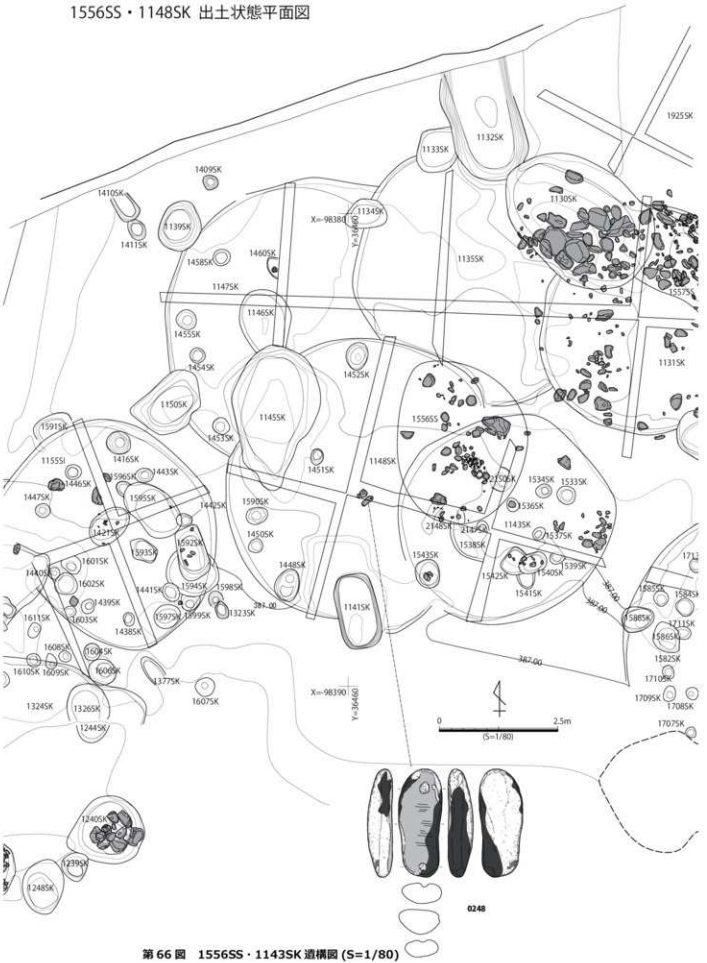
4046,4047 グリッドで検出された土器埋設土坑である。南半部の形状は不明だが、長軸 0.62m 以上、短軸 0.37m 以上の円形土坑と思われ、深さ 0.26m である。底部に若干の礫を伴う形で深鉢を立位に埋設したもので、内部に細礫の垂円礫、外部に中礫の垂円礫が含まれていた。時期は縄文時代中期末から後期中葉に属するものと思われる。

(18) 4242SK（第 62 図）

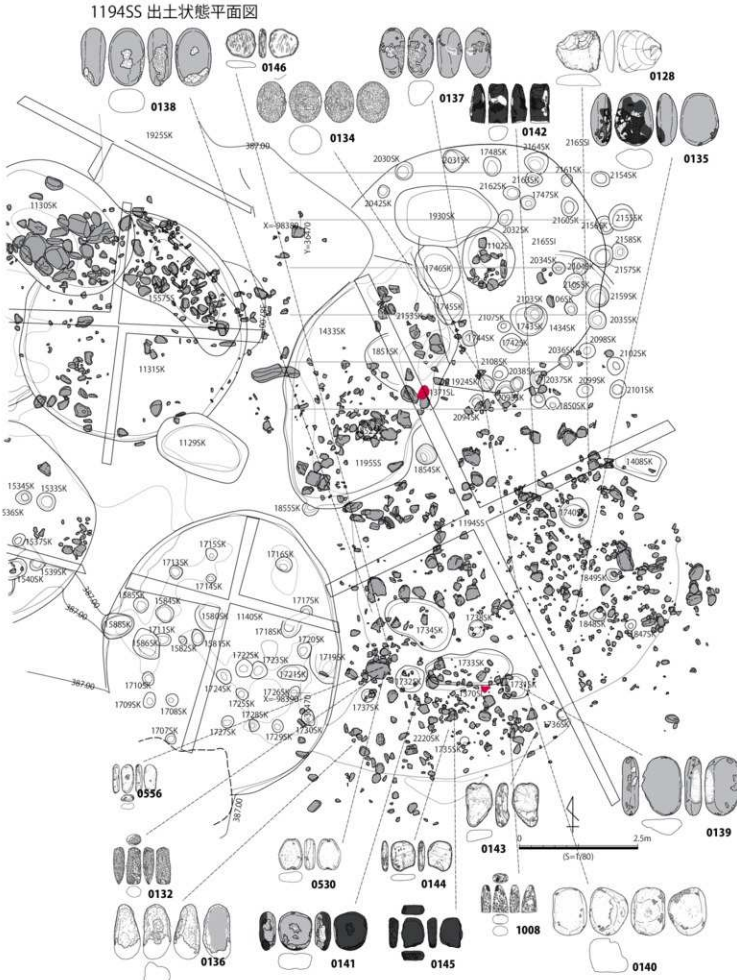


第 65 図　2165SI 遺構図（2）(S=1/20)

1556SS・1148SK 出土状態平面図



第 66 図　1556SS・1143SK 遺構図 (S=1/80)



第67図　1194SS 遺構図（1）(S=1/80)

3948 グリッドで検出された土坑である。長軸0.66m、短軸0.53m の歪な円形プランをもち、深さ0.06m を測る。深鉢の口縁部から体部片が破片の状態で出土しており、時期は縄文時代中期末から後期中葉に属するものと思われる。

(19) 3633SK（第 63 図）

4344 グリッドで検出された浅い大型土坑である。当初は竪穴建物跡の可能性があると考えた遺構で、長軸 5.92m 以上、短軸 2.36m 以上を測る不定形の平面形である。深さ 0.12m である。中央に集石土坑 3194SK があり、南半部を中心に多数の礫が出土した。時期は縄文時代中期末から後期中葉に属するものと思われる。

第 4 節　縄文時代後期後葉から晩期中葉までの遺構

縄文時代後期後葉から晩期中葉までの遺構としては竪穴建物跡 1 棟、集石遺構、土器棺墓、その他土坑および柱穴多数などがある。前節と同様に、ここでは集石遺構以下のさまざまな遺構を土坑と一括し、竪穴建物跡と土坑に項目を分け報告する。

1 竪穴建物跡

(1) 2165SI（第 64 図・第 65 図）

3747,3847 グリッドで検出された竪穴建物跡である。炉跡 1102SL が検出され、その後周辺部を精査した結果、壁柱穴 2030SK、2031SK、2035SK ～ 2038SK、2042SK、2056SK、2057SK、2061SK、2064SK が 1102SL を取り囲んでいることが判明し、床面が検出され平面プランは長軸 5.79m 以上、短軸 5.28m 以上の概略円形とみられる。

石敷き遺構（炉跡）1102SL は長軸 1.29m、短軸 1.13m の南北方向に長い楕円形の平面プランで、深さ 0.24m を測る。南部の東端部に扁平な亜円礫が垂直に立てられ、土坑中央部に北辺の石列状に 3 石が並んでいた。石囲炉状にみえるが、南辺と西辺は石材が存在するものの構造を持っておらず、特定できない。東端部の立石は被熱され赤変し割れていた。内部には下部に黒褐色細粒砂を含むシルト（第 65 図 1102SL A-A'、B-B' 土層断面図 4,5 層）が、上部に暗褐色細粒砂を含むシルト（同図 3 層）が堆積しており、その間が一時期の機能した面だったと推定される

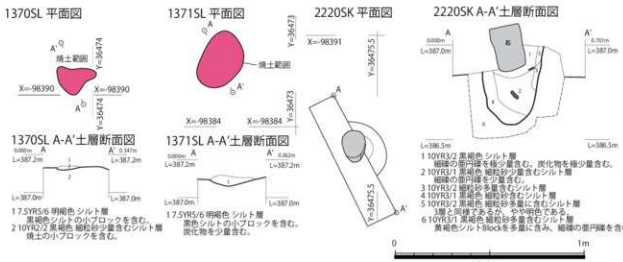
柱穴 2031SK は長軸 0.47m、短軸 0.46m、深さ 0.17m、2032SK は長軸 0.35m、短軸 0.29m、深さ 0.14m、2035SK は長軸 0.41m、短軸 0.39m、深さ 0.09m、2036SK は長軸 0.32m、短軸 0.29m、深さ 0.12m、2037SK は長軸 0.38m、短軸 0.34m、深さ 0.27m、2038SK は長軸 0.31m、短軸 0.28m、深さ 0.17m、2042SK は長軸 0.32m、短軸 0.28m、深さ 0.15m を測る。

時期は縄文時代後期後葉から晩期中葉に属する。

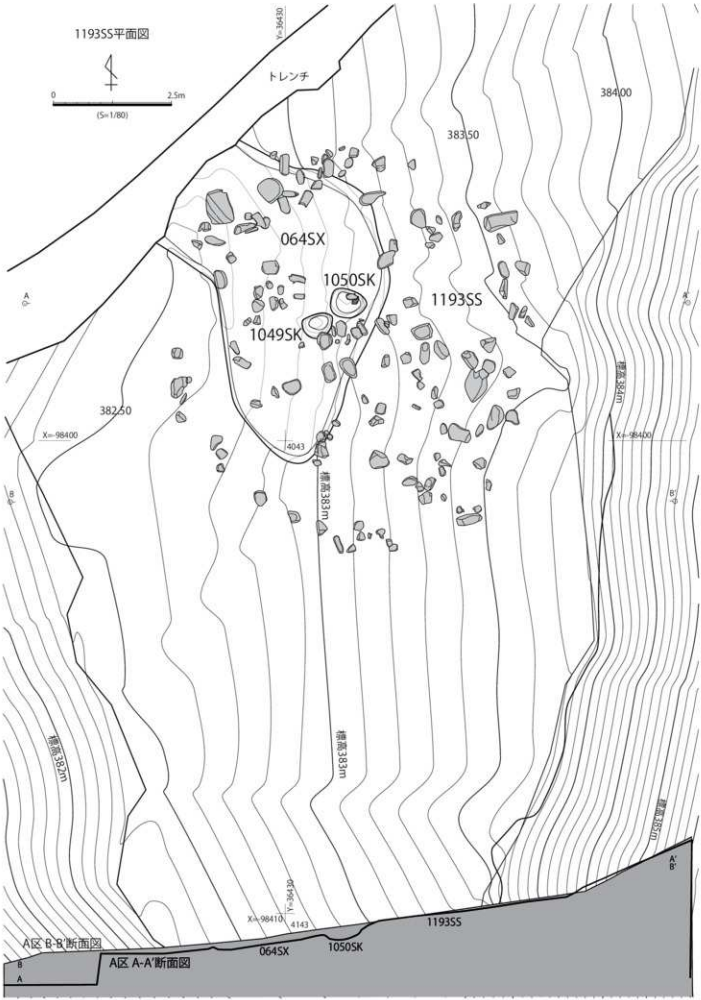
2 土坑

(1) 1194SS（第 67 図・第 68 図）

3747,3847 グリッドで 2 面遺構として検出された集石遺構である。長軸 10.20m 以上、短軸 9.20m 以上の概略円形の平面プランと見られ、深さ約 0.3m である。西部は 1140SK で破壊され、東端部の掘り方は不明瞭であった。中央が緩やかに窪む浅い落ち込みで内部に大量の礫が散在していた。床面で集石



第 68 図　1194SS 遺構図（2）(S=1/20)

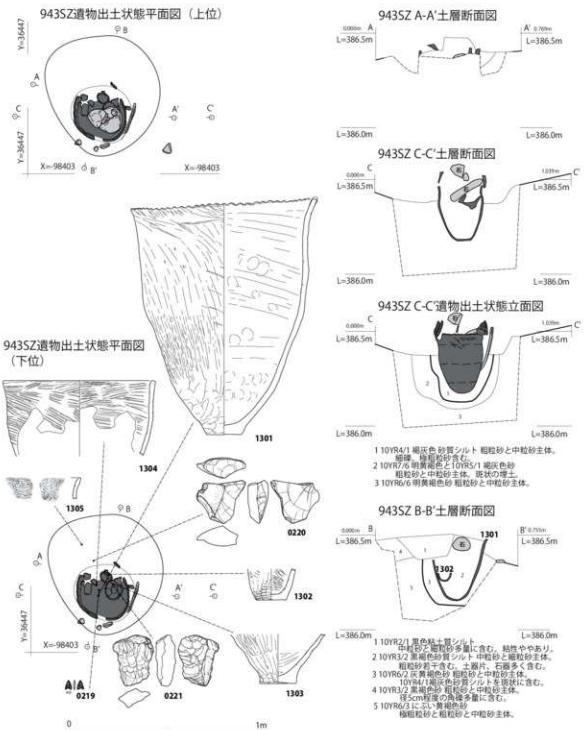


第 69 図　064SX・1193SS 遺構図 (S=1/80)

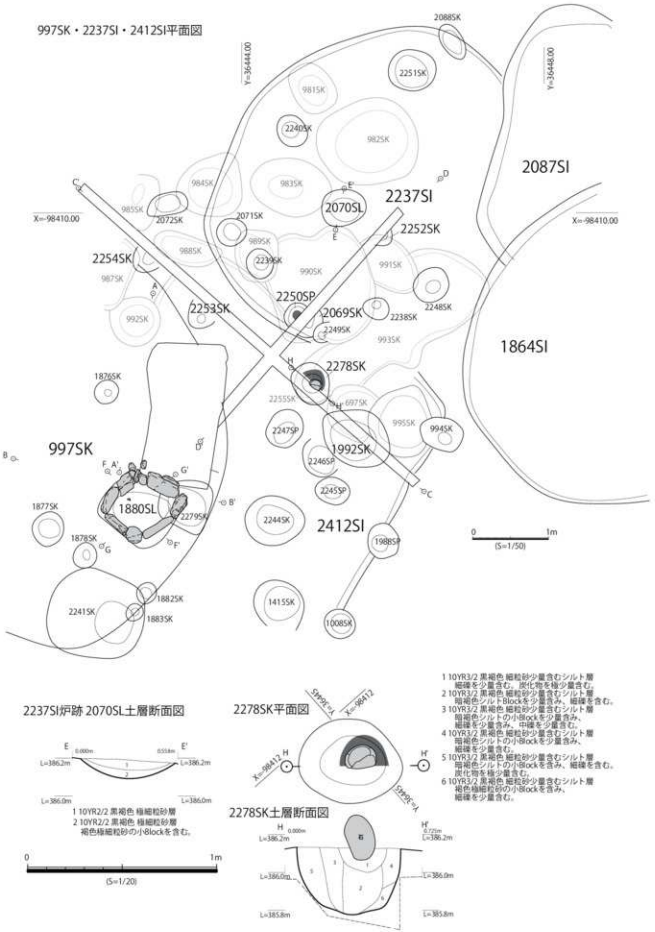
遺構 1195SS をはじめ小規模な土坑が複数確認されたが、1194SS に伴うか否かは判断が難しい。北東部では下位に竪穴建物跡 2165SI が存在する。また、床面近くで焼土面（炉跡）1370SL と 1371SL が検出された。

礫は大部分が亜円礫で、結果的に上面が平坦になる状態のものが多い。多数の石器が出土しているが、特に分布の偏りは観察されなかった。1194SS の南西部では石棒が立位に埋設された土坑 2220SK がある。2220SK は長軸 0.33m、短軸 0.15m 以上の円形の平面プランと思われ、深さは 0.45m を測る。下半は黒褐色細粒砂を含むシルトが堆積し、上位に石棒が据えられて黒褐色シルトで固定されていた。

1370SL は 1194SS 南部のやや西寄りで検出された炉跡である。長軸 0.17m、短軸 0.17m の歪な三角形状の平面プランで焼土が拡がっており、焼土面



第 70 図　943SZ 遺構図 (S=1/20)

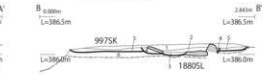


第 71 図　2237SI・2412SI 遺　構　図（　1）

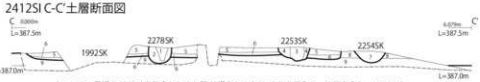
997SK A-A'土層断面図

1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小Blockを含む。
2 10YR2/2 黒褐色 シルト含む極細粒砂層 暗褐色極細粒砂の小Blockを含む。炭化物を少量含む。焼土粒を少量含む。
3 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層 暗褐色極細粒砂Blockを非常に多く含む。炭化物を少量含む。焼土粒を少量含む。
4 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小Blockを含む。
5 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小Blockを多量に含む。
6 10YR4/4 褐色 細粒砂含む極細粒砂層 (地山)

997SK B-B'土層断面図

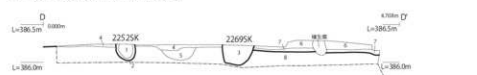


2412SI C-C'土層断面図



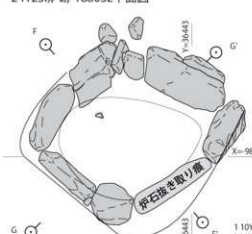
1 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトBlockを少量含み、細礫を含む。(2255SK)
2 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトBlockを多く含む。炭化物を極少量含む。(2255SK)
3 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトの小Blockを含み、細礫を含む。(2253SK)
4 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 黒褐色シルトの小Blockを含み、細礫を少量含む。(2253SK)
5 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトBlockを含み、細礫を少量含む。炭化物を極少量含む。(2414SI)
6 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 黒褐色シルトの小Blockを少量含む。(2414SI)
7 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトBlockを少量含み、細礫を少量含む。(2254SK)
8 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 黒褐色シルトBlockを少量含み、細礫を含む。
9 10YR3/4 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂Blockを含み、細礫を含む。(地山)

2412SI・2237SI D-D'土層断面図

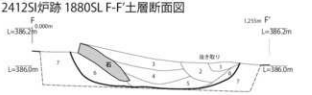


1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトの小Blockと細礫を少量含む。(2252SK)
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトBlockを含む。(2252SK)
3 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトの小Blockを少量含み、細礫を含む。(2249SK)
4 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトBlockを含む。(2237SI)
5 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 黒褐色シルトの小Blockを含む。炭化物を極少量含む。
6 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトBlockを含み、細礫を少量含む。炭化物を極少量含む。(2414SI埋土)
7 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 黒褐色シルトの小Blockを少量含む。(2414SI埋土)
8 10YR3/4 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂Blockを含み、細礫を含む。(地山)

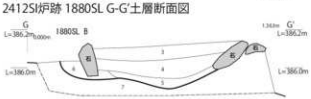
2412SI炉跡 1880SL平面図



2412SI炉跡 1880SL F-F'土層断面図

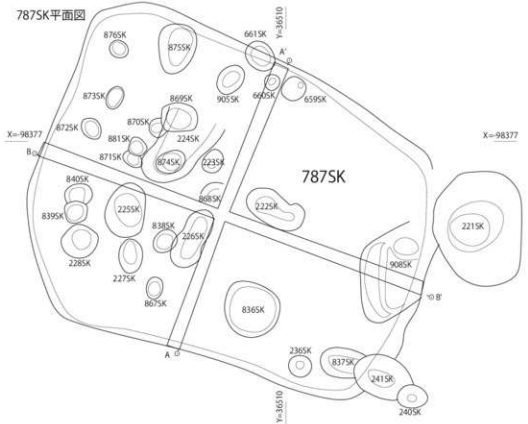


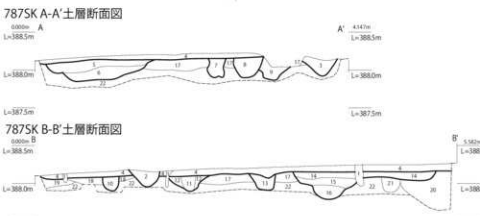
2412SI炉跡 1880SL G-G'土層断面図



1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂Bxと暗褐色シルトの小Bxを少量含む。(炉石痕)
2 10YR2/3 黒褐色 シルト含む極細粒砂層 暗褐色極細粒砂の小Blockを含む。炭化物と焼土粒少量含む。
3 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層 暗褐色極細粒砂Blockを非常に多く含む。炭化物と焼土粒少量含む。
4 10YR2/3 黒褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層 暗褐色極細粒砂Blockを含む。炭化物を少量含む。
5 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 黒褐色シルトBlockを少量含み、細礫を含む。(掘り方)
6 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトの小Blockを少量含み、細礫を含む。炭化物を極少量含む。
7 10YR3/4 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫を含む。(地山)

第 72 図　2237SI・2412SI 遺　構　図 (　2)



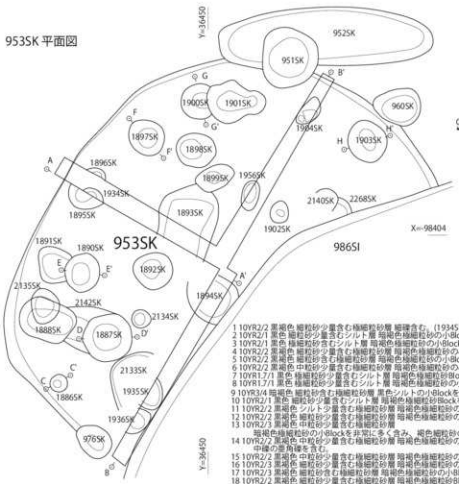


1 10YR2/1 黒色 極細粒砂含むシルト層 にぶい黄褐色極細粒砂の小Blockを多量に含む。
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 にぶい黄褐色極細粒砂Blockを少量含む。
3 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 にぶい黄褐色極細粒砂の小Blockを多量に含む。炭化物を少量含む。
4 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂含むシルト層 黒褐色極細粒砂Blockを含む。炭化物を少量含む。
5 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 にぶい黄褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。大礫の面平縦1点含む。炭化物を少量含む。
6 10YR3/2 黒褐色 中粒砂少量含むシルト層 にぶい黄褐色極細粒砂Blockを非常に多く含む。炭化物を少量含む。
7 10YR2/2 黒褐色 中粒砂少量含むシルト層 にぶい黄褐色極細粒砂Blockを非常に多く含む。炭化物を少量含む。
8 10YR2/2 黒褐色 中粒砂少量含むシルト層 にぶい黄褐色極細粒砂Blockを非常に多く含む。炭化物を少量含む。
9 10YR2/2 黒褐色 中粒砂含むシルト層 にぶい黄褐色極細粒砂Blockを非常に多く含む。炭化物を少量含む。
10 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂含むシルト層 にぶい黄褐色極細粒砂の小Blockを多量に含む。炭化物を少量含む。
11 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 にぶい黄褐色極細粒砂Blockを少量含む。炭化物を少量含む。
12 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色極細粒砂Blockを含む。炭化物を極少量含む。
13 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 にぶい黄褐色極細粒砂Blockを多量に含む。炭化物を極少量含む。
14 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 にぶい黄褐色極細粒砂Blockを少量含む。炭化物を極少量含む。
15 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 にぶい黄褐色極細粒砂Blockを含む。炭化物を少量含む。
16 10YR2/2 黒褐色 中粒砂少量含むシルト層 にぶい黄褐色極細粒砂Blockを非常に多く含む。炭化物を少量含む。
17 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 にぶい黄褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。炭化物を極少量含む。
18 10YR2/2 黒褐色 中粒砂少量含むシルト層 にぶい黄褐色極細粒砂Blockを含む。炭化物を極少量含む。
19 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂含むシルト層 にぶい黄褐色極細粒砂の小Blockを含む。炭化物を極少量含む。
20 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 にぶい黄褐色極細粒砂Blockを非常に多く含む。
21 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂含むシルト層 にぶい黄褐色極細粒砂Blockを含む。
22 10YR5/4 にぶい黄褐色 中粒砂少量含む極細粒砂層 暗褐色シルトBlockを非常に多く含む。(地山)

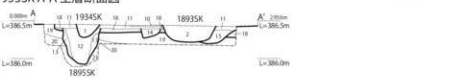
0 1m
(S=1/50)

第73図　787SK遺構図(S=1/50)

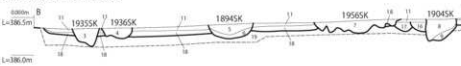
953SK 平面図



953SK A-A'土層断面図



953SK B-B'土層断面図



1886SK C-C'土層断面図

1 10YR2/1 黒色 シルト層
2 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂層

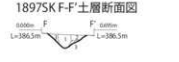
1887SK D-D'土層断面図

1 10YR2/1 黒色 極細粒砂含むシルト層
暗色極細粒砂の小blockを少量含む。
2 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂少量含むシルト層
暗色極細粒砂の小blockを含む。
3 10YR2/2 黒褐色 シルト含む極細粒砂層
暗色極細粒砂の小blockを多量に含む。

1890SK E-E'土層断面図

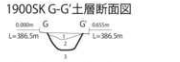
1 10YR2/1 黒色 細粒砂含む極細粒砂層
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層

1897SK F-F'土層断面図



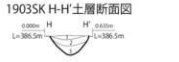
1 10YR3/3 暗褐色 細粒砂含む極細粒砂層 (柱痕)
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層
3 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層

1900SK G-G'土層断面図



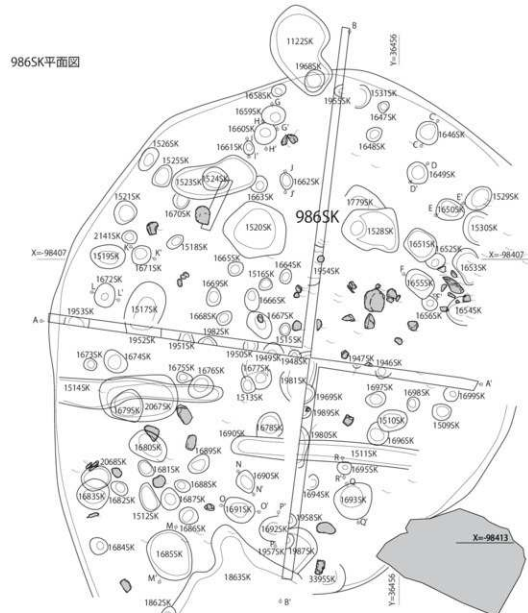
1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層
2 10YR3/2 黒褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層
3 10YR3/3 暗褐色 細粒砂含む極細粒砂層
黒褐色極細粒砂ブロックを含む。(地山)

1903SK H-H'土層断面図



1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層
暗色極細粒砂の小blockを少量含む。
3 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層
暗色極細粒砂の小blockを多量に含む。

第 74 図　953SK 遺構図 (S=1/50)



第 75 図　986SK 遺構図（1）(S=1/50)

の厚さは 0.02m であった。1371SL は 1194SS 北部西寄りで検出された炉跡である。長軸 0.31m、短軸 0.22m の歪な楕円形状の平面プランで焼土が拡がっており、焼土面の厚さは 0.06m であった。

時期は縄文時代後期後葉から晩期中葉に属する。

（2）1557SS（第 67 図）

3846 グリッドで 2 面遺構として検出された集石遺構である。1130SK と 1131SK の下位で検出され、西端部は 1130SK により大きく破壊されている。長軸 3.23m 以上、短軸 1.60m 以上の弧状に曲がる平面プランとなる。深さは 0.10m を測り、内部に多量の礫が含まれていた。時期は縄文時代後期後葉から晩期中葉に属する。

（3）059SX

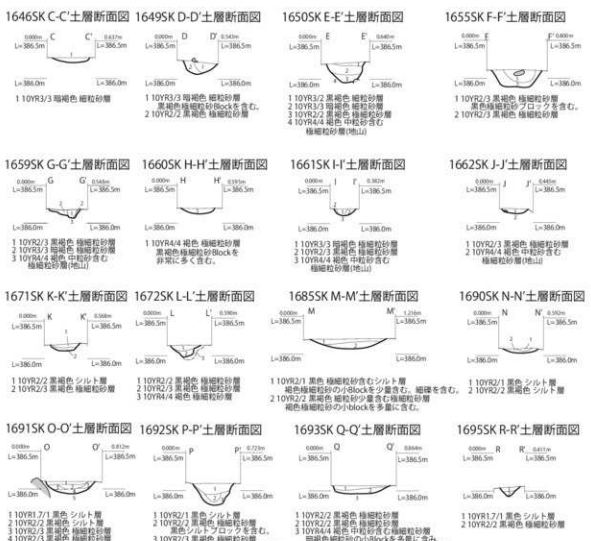
A 区 3942、3943 グリッドで検出された集石遺構である。B 区から崖面を経ていたる平坦面全体に礫が散財しており、この分布範囲を 059SX とした。長軸 31.72m 以上、短軸 14.62m 以上の不定形な落ち込みである。堆積層の最大の深さは 1.04m を測る。縄文時代後期後葉から晩期中葉に属する土器や石器が多数出土した。

（4）064SX（第 69 図）

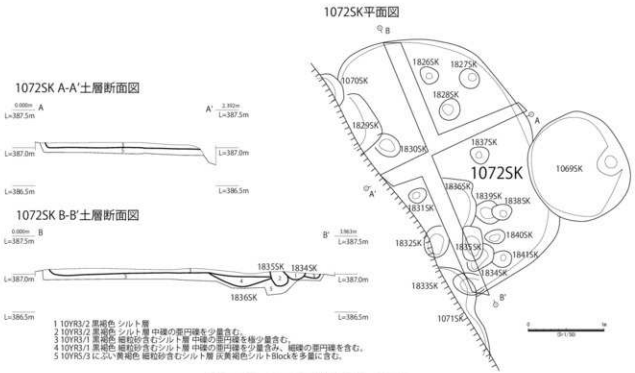
A 区 3942、3943 グリッドで検出された集石遺構である。059SX の中でも北西に位置する長軸 6.90m 以上、短軸 3.71m 以上の不定形な落ち込みを指し、最大の深さは 0.77m を測る。この床面で 1049SK と 1050SK が検出された。059SX と同様、縄文時代後期後葉から晩期中葉に属する土器や石器が出土した。

（5）1193SS（第 69 図）

A 区 3942、3943 グリッドで検出された集石遺構である。A 区北半の 059SX の下位で検出された遺構で、064SX の東側で崖面に接する部分に所在する。長軸 8.71m、短軸 8.00m の不定形な範囲で石材が分布していた。059SX と同様、縄文時代後期後葉から



第 76 図　986SK 遺構図（2）(S=1/50)



第 77 図　1072SK 遺構図 (S=1/50)

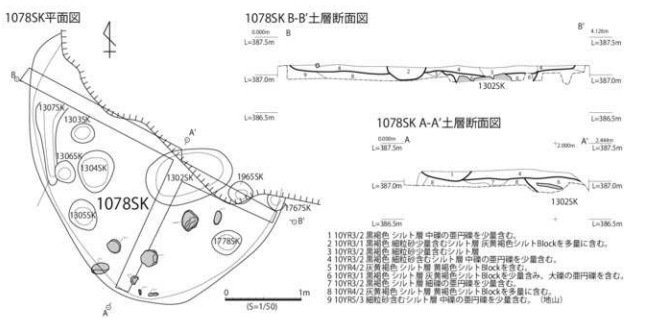
晩期中葉に属する土器や石器が出土した。

（6）943SZ（第 70 図）

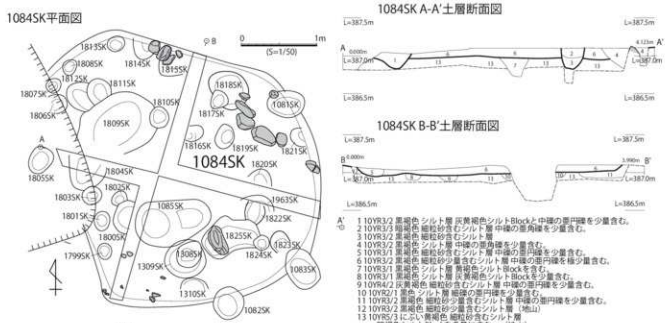
4044 グリッドで検出された土器棺墓である。表土掘削の段階から土器片が検出されて発見された遺構で、その後平面プランを確定した。長軸 0.64m、短軸 0.62m の歪な楕円形の平面プランで、深さは 0.49m を測る。土坑の南半部に深鉢 1301 が立位に据えられていた。

深鉢 1301 の内部には黒褐色砂質シルトが埋積しており、小型の土器底部片が 2 点立位で埋納されていた。土器 1302 は 1301 の北部で下半部の上位の位置に存在し、土器 1303 は 1301 の東部で上半部の下位の位置で発見された。深鉢 1301 の外側には中粒砂から粗粒砂からなる灰黄褐色砂で充填されて土器が固定されていた。深鉢 1301 の上位にも土器の口縁部片 1304 があり、合わせ口に配置されていた可能性が考えられる。

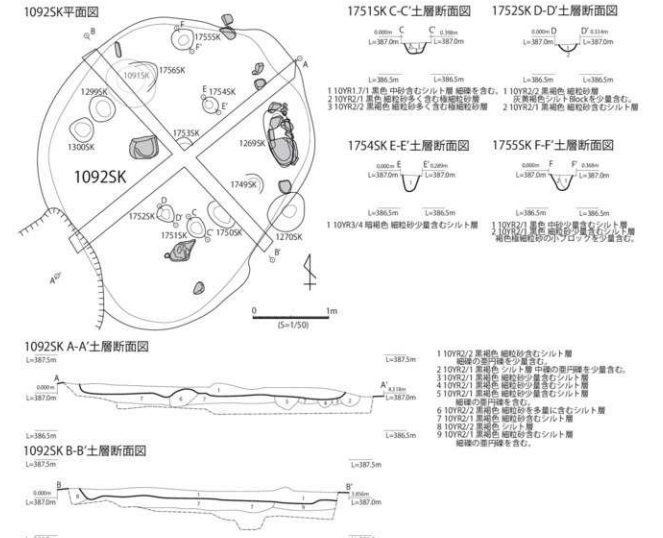
縄文時代後期後葉から晩期中葉に属する土器や石器が多数出土した。



第 78 図　1078SK 遺構図 (S=1/50)



第 79 図　1084SK 遺構図 (S=1/50)



第 80 図　1092SK 遺構図 (S=1/50)

第５節　縄文時代の詳細時期不明の遺構

弥生時代よりも前の遺構と推定されるものの、縄文時代のどの時期に相当するか不明な遺構が多数存在する。これらの遺構を本節で一括して紹介する。

１竪穴建物跡

（１）2237SI（第 71 図・第 72 図）

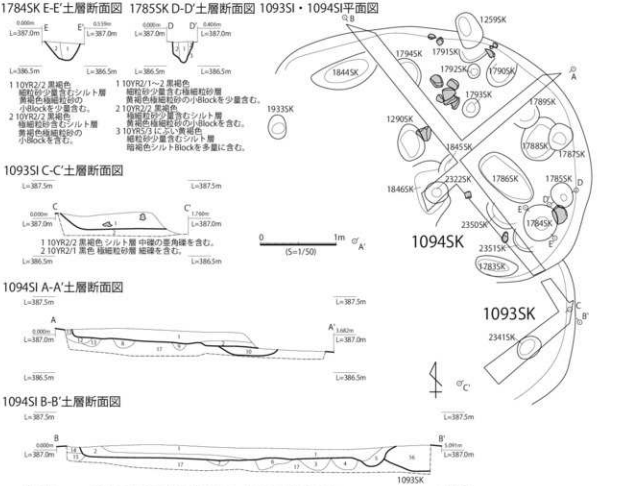
4044,4144 グリッドで検出された竪穴建物跡である。東部を 2087SI と 1864SI に切られる形で検出されており、長軸 4.56m 以上、短軸 3.75m 以上の隅丸多角形状と思われる。中央南西寄りには炉跡 2070SL があり、主柱穴は 2238SK ～ 2240SK、2251SK が該当すると考えられる。

炉跡 2070SL は長軸 0.59m、短軸 0.48m の歪な楕円形の平面プランで、断面は船底状を呈して深さは 0.12m を測る。内部には黒褐色極細粒砂が堆積していた。2238SK は長軸 0.35m、短軸 0.29m、深さは 0.23m、2239SK は長軸 0.73m、短軸 0.61m、深さは 0.15m、2240SK は長軸 0.45m、短軸 0.38m、深さは 0.22m、2251SK は長軸 0.64m、短軸 0.58m、深さは 0.18m を測る。

縄文時代の遺構と思われるが、詳細な時期は特定できない。

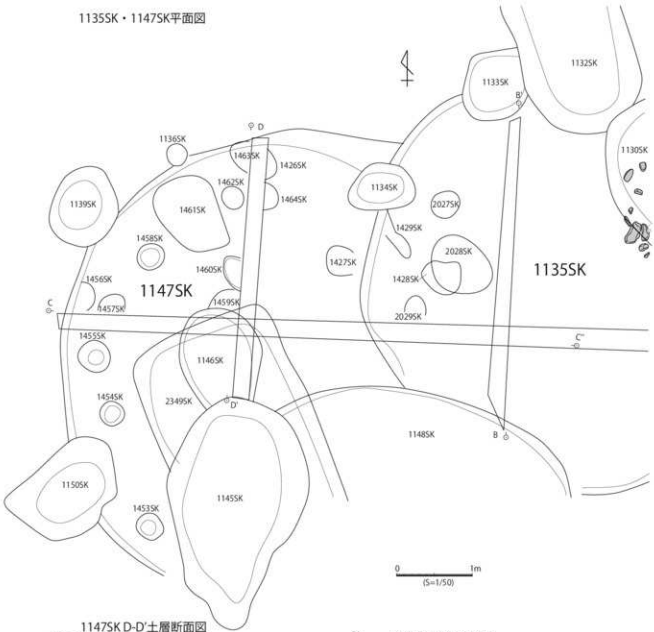
（２）2412SI（第 71 図・第 72 図）

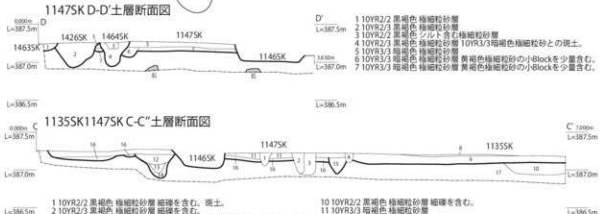
4144 グリッドで検出された竪穴建物跡である。炉跡 1880SL が検出され、その後周辺部を精査し



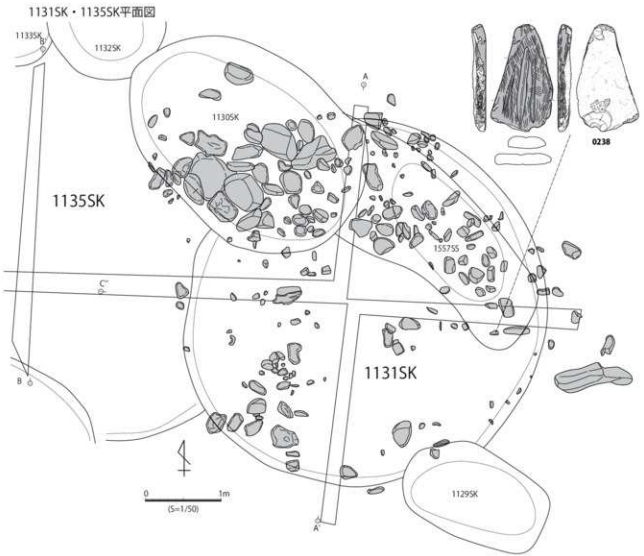
1 10YR3/1 黒褐色 シルト層 中礫の悪円礫・細礫の悪円礫を極少量含む。
2 10YR3/1 黒褐色 シルト層 中礫の悪円礫を少量含む。
3 10YR3/2 黒褐色 シルト層 細礫の悪円礫を含む。
4 10YR3/2 黒褐色 シルト層 細礫の悪円礫を少量含む。
5 10YR3/1 黒褐色 シルト層
6 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂多量に含むシルト層 暗褐色シルトBlockを多量に含む。
7 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
8 10YR3/1 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 細礫の悪円礫を少量含む。
9 10YR2/1 黒色 シルト層
10 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 炭黄褐色シルトBlockを少量含む。
11 10YR3/1 黒褐色 シルト層
12 10YR3/2 黒褐色 シルト層 中礫の悪円礫を含む。
13 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含むシルト層 炭黄褐色シルトBlockを多量に含み、中礫の円礫を少量含む。
14 10YR3/1 黒褐色 シルト層 中礫の悪円礫を少量含む。
15 10YR3/2 黒褐色 シルト層 中礫の悪円礫を少量含む。
16 10YR2/2 黒褐色 シルト層 細礫の悪円礫を含む。(1093SK)
17 10YR5/3 にぶい黄褐色 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトBlockを多量に含む。

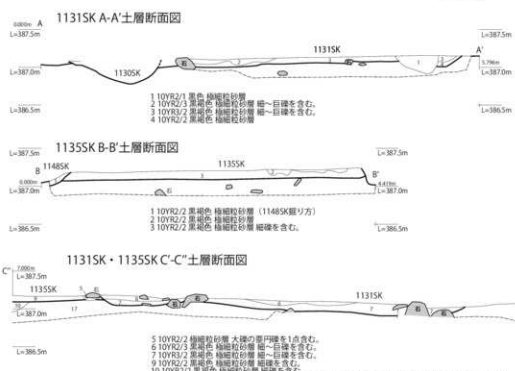
第 81 図　1093SK・1094SK 遺構図 (S=1/50)



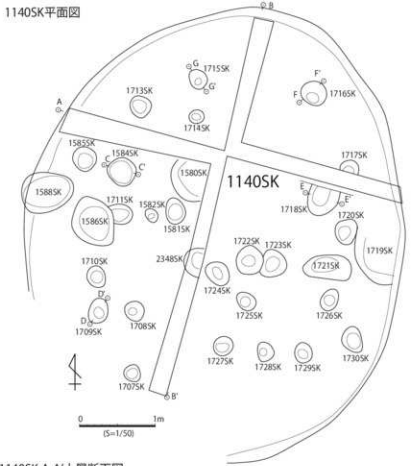


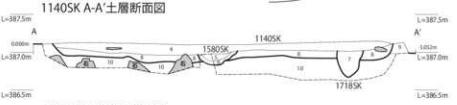
第 82 図　1135SK・1147SK 遺構図 (S=1/50)

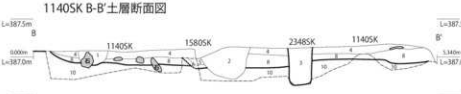




第 83 図　1131SK 遺構図 (S=1/50)







1 10YR2/2 黒褐色 中粒砂少量含む極細粒砂層 細礫を含む。中礫の亜角礫を多量に含む。
2 10YR2/2 黒褐色 中粒砂含むシルト質 細礫を含む。中礫の亜角礫を含む。
3 10YR2/2 黒褐色 中粒砂含むシルト質 黄褐色極細粒砂のパブロックを少量含む。細礫を含む。
4 10YR2/1 黒色 中粒砂含むシルト層 細礫を含む。中礫の亜角礫を含む。
5 8.75YR2/2 黒褐色 中粒砂含む極細粒砂層 炭化物を微少量含む。細礫を含む。
6 8.75YR2/2 黒褐色 中粒砂多く含む極細粒砂層 炭化物を微少量含む。粗粒砂～細礫を多量に含む。
7 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂のパブロックを少量含む。細礫を多量に含む。炭化物を少量含む。
8 10YR2/2 黒褐色 中粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂のパブロックを含む。細礫を多量に含む。炭化物を少量含む。
9 10YR2/1 黒色 中粒砂少量含む極細粒砂層 細礫を含む。中礫の亜角礫を含む。
10 10YR4/4 褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層 黒褐色極細粒砂ブロックを含む。中粒砂～細礫を多量に含む。中礫の亜円礫・亜角礫を含む。(地山)

1584SK C-C'
1 10YR2/2 黒褐色
シルト含む極細粒砂層
中礫の亜角礫を含む。

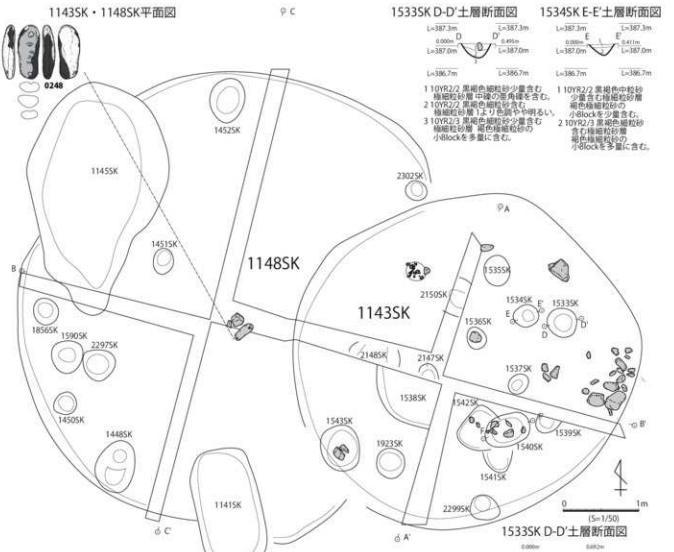
1709SK D-D'
1 10YR2/2 黒褐色
細粒砂含む極細粒砂層

1715SK G-G'
1 10YR2/2 黒褐色
中粒砂多く含む極細粒砂層
2 10YR2/2 黒褐色
細粒砂含む極細粒砂層
褐色極細粒砂小Block少量含む。

1716SK F-F'
1 10YR2/2 黒褐色
細粒砂含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の
小Blockを少量含む。

1718SK E-E'
1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層
褐色極細粒砂のパブロックを少量含む。
2 10YR2/2 黒褐色 中粒砂含む極細粒砂層
褐色極細粒砂のパブロックを少量含む。
中礫の亜角礫を含む。

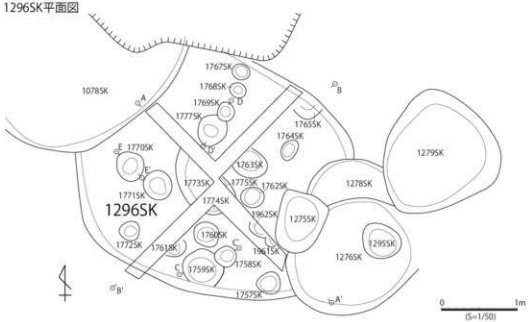
第 84 図　1140SK 遺構図 (S=1/50)



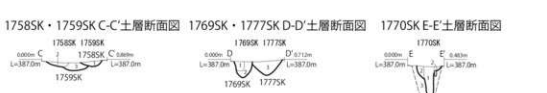
第 85 図　1148SK 遺構図 (S=1/50)

た結果、東部の掘り方と柱穴 2245SK、2253SK、2254SK、2278SK などが確認された。西側は境川に面する崖面と上位にある 997SK によって不明瞭となっている。現状で平面プランは長軸 4.06m 以上、短軸 3.52m 以上の隅丸方形と想定される。

炉跡 1880SL は石囲炉で当初は炉を構成する石材の上端が発見され、その後に掘り方を調査した。このため掘り方の上部が失われているため正確な規模は不明だが、現状で長軸 1.23m、短軸 1.00m の歪な方形の平面プランとなる。断面は皿状を呈して深さは 0.12m を測る。内部には石材を 30 ～ 80 度の比較的に緩い傾斜で設置し石囲炉が構築された。北



1 10YR3/1 黒褐色 シルト層 灰黄褐色シルトBlockを少量含む。
2 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 灰黄褐色シルトBlockを多量に含む。
3 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 灰黄褐色シルトBlockを含む。
4 10YR3/2 黒褐色 シルト層
5 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 黄褐色シルトBlock・暗褐色シルトBlockを少量含む。
6 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂少量含むシルト層 黒褐色シルトBlockを含む。
7 10YR4/2 灰黄褐色 シルト層 暗褐色シルトBlockを少量含む。
8 10YR3/3 暗褐色 細粒砂含むシルト層 細礫の面叶縁を少量含む。
9 10YR2/2 黒褐色 シルト層
10 10YR5/3 細粒砂少量含むシルト層 暗褐色シルトBlockを多量に含む。（地山）



1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。
2 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂含むシルト層 褐色極細粒砂の小Blockを含む。
3 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層 褐色極細粒砂の小Blockを含む。

1 10YR2/1 黒色 シルト層 褐色極細砂の小Blockを含む。
2 10YR2/2 黒褐色 極細砂層 褐色極細砂の小Blockを多量に含む。
3 10YR2/2 黒褐色 極細砂層 褐色極細砂の小Blockを含む。

1 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂含むシルト層（柱痕）
2 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂多く含むシルト層 褐色極細砂の小Blockを少量含む。（掘り方）
3 10YR3/2 黒褐色 シルト層 褐色極細粒砂のBlockを含む。

第 86 図　1296SK 遺構図 (S=1/50)

東辺は長さ約 50cm、幅約 30cm、厚さ約 7cm の石材を置き、西側の北端部にはやや細かい石を充填している。北西辺は長さ約 34cm、幅約 32cm、厚さ約 7cm の石材が北側に置かれ、長さ約 40cm の石材が南側に配置される。南西辺は長さ約 38cm、幅約 18cm、厚さ約 8cm の石材が西側に置かれ、東側に長さ 25cm の石材が配置される。西側の石材はやや垂直に設置された。南東辺は長さ約 35cm の石材が東側に置かれているが、西側の石材は抜き取られており残存していない。炉の内部は上層が黒褐色細粒砂含む極細粒砂、中層は黒褐色中粒砂含む極細粒砂、下層は黒褐色細粒砂含むシルトが堆積していた（第 72 図 1880SL F-F' 土層断面図の 3 層、4 層、5 層）。上層は炭化物と焼土粒を、中層は炭化物を含む。

柱穴 2245SK は長軸 0.46m、短軸 0.36m、深さは 0.10m、2253SK は長軸 0.50m、短軸 0.40m、深さは 0.27m、2254SK は長軸 0.39m、短軸 0.42m、深さは 0.15m、2278SK は長軸 0.58m、短軸 0.48m、深さは 0.34m を測る。2278SK は断面観察から柱が抜き取られた後に石材が垂直に立てて据えられていることが判明した。

縄文時代の遺構と思われるが、詳細な時期は特定できない。

2 土坑（大型土坑）

（1）787SK（第 73 図）

3750,3751 グリッドで検出された大型落ち込みである。長軸 6.14m、短軸 4.91m の歪な隅丸方形の平面プランとなる。深さは 0.37m を測り、内部に黒褐色細粒砂含むシルトが堆積していた。内部で 868SK などの遺構が検出されたが、建物遺構になるとは考えにくい。

（2）953SK（第 74 図）

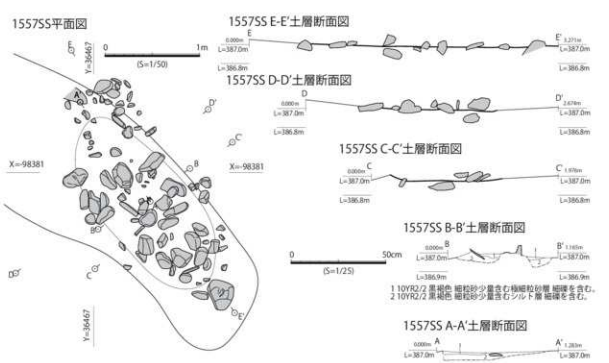
4044,4045 グリッドで 2 面遺構として検出された大型落ち込みである。986SK に切られ東半部が失われていた。長軸 5.78m 以上、短軸 3.31m 以上の楕円形プランとなると思われる。深さは 0.23m を測り、内部に黒褐色シルト含む極細粒砂が堆積していた。内部では壁柱穴状に並ぶ 1886SK ～ 1903SK などの遺構が検出されたが、建物遺構になるとは考えにくい。

（3）986SK（第 75 図・第 76 図）

4044,4045 グリッドで 2 面遺構として検出された大型落ち込みである。東側に巨岩（仮称笹平岩）に接して存在しており、調査当初は特殊な遺構となる可能性を想定した。953SK を切る。長軸 12.73m、短軸 10.04m の楕円形プランである。深さは 0.23m を測り、内部に黒褐色シルト含む極細粒砂が堆積しており、多数の礫が出土した。内部では 1646SK ～ 1695SK などの遺構が検出されたが、建物遺構になるとは考えにくい。

（4）1072SK（第 77 図）

3747,3748 グリッドで 1 面遺構として検出された



第 87 図　1557SS 遺構図 (S=1/50)

大型落ち込みである。西側に撹乱があって大きく破壊されており、長軸 3.03m、短軸 2.03m の楕円形プランである。深さは 0.12m を測り、内部に黒褐色細粒砂含むシルトが堆積しており、礫が含まれていた。内部では 1826SK ～ 1840SK などの遺構が検出されたが、建物遺構になるとは考えにくい。

（5）1078SK（第 78 図）

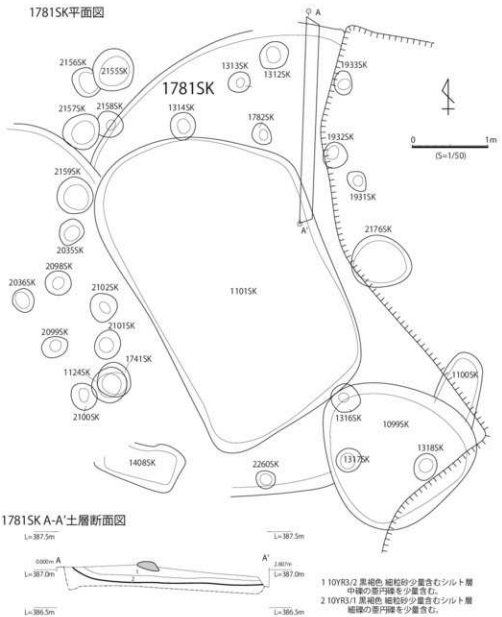
3748 グリッドで 1 面遺構（遺構図は 3 面遺構に掲載）として検出された大型落ち込みである。上部に撹乱があって、結果的に北半部が破壊されており、長軸 3.69m 以上、短軸 2.32m 以上の楕円形プランと思われる。深さは 0.16m を測り、内部に黒褐色細粒砂含むシルトが堆積しており、礫が含まれていた。内部では 1303SK ～ 1306SK などの遺構が検出されたが、建物遺構になるとは考えにくい。

（6）1084SK（第 79 図）

3748 グリッドで 1 面遺構として検出されたとして大型落ち込みである。西側に撹乱があって大きく破壊されており、長軸 4.29m 以上、短軸 3.66m 以上の楕円形プランである。深さは 0.19m を測り、内部に黒褐色細粒砂含むシルトが堆積しており、多数の礫が出土した。内部では 1799SK ～ 1825SK などの遺構が検出されたが、建物遺構になるとは考えにくい。

（7）1092SK（第 80 図）

3748,3848 グリッドで 2 面遺構として検出されたとして大型落ち込みである。長軸 4.30m、短軸 3.41m の楕円形プランで、深さは 0.25m を測る。内部に黒褐色細粒砂含むシルトが堆積しており、多数の礫が出土した。内部では集石土坑 1269SK や 1750SK ～



第 88 図　1781SK 遺構図 (S=1/50)

1756SK などの遺構が検出されたが、建物遺構になるとは考えにくい。

（8）1093SK（第 81 図）

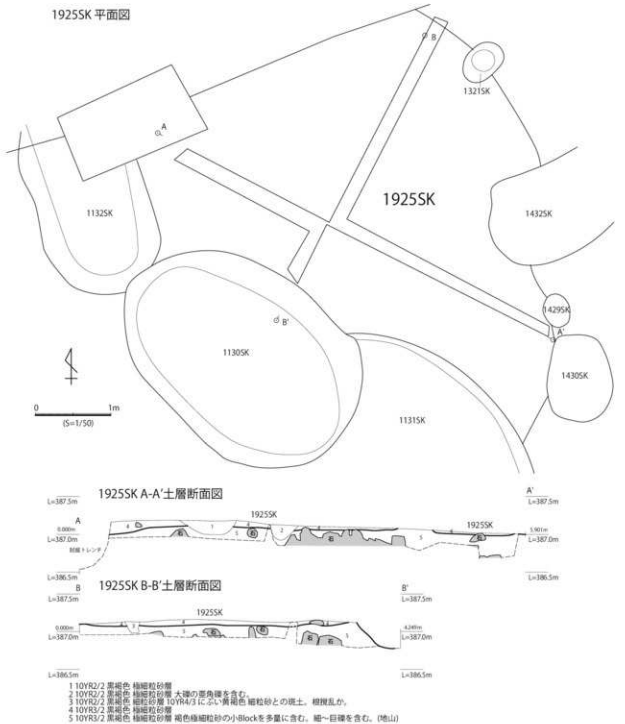
3848 グリッドで２面遺構として検出されたとして大型落ち込みである。東辺部のみ検出され、1094SK に切られていた。長軸 1.68m 以上、短軸 0.94m 以上の円形プランと思われる。深さは 0.26m を測る。

（9）1094SK（第 81 図）

3747,3748 グリッドで２面遺構として検出されたとして大型落ち込みである。長軸 4.08m,短軸 2.45m 以上の楕円形プランで、深さは 0.25m を測る。内部に黒褐色シルトが堆積しており、大量の礫が出土した。内部では土坑 1783SK ～ 1794SK などの遺構が検出されたが、建物遺構になるとは考えにくい。

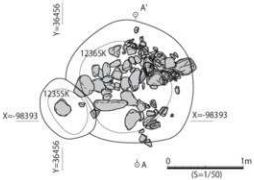
（10）1135SK（第 82 図）

3746,3846 グリッドで２面遺構として検出された大型落ち込みである。周囲を 1130SK ～ 1133SK、1148SK によって破壊されており、平面プランは長軸 5.68m、短軸 2.70m 以上の楕円形と推定するにとどまっている。深さは 0.25m を測る。内部に黒褐色



第 89 図　1925SK 遺構図 (S=1/50)

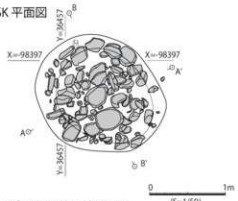
1236SK 平面図



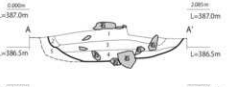
1236SK A-A'土層断面図

1 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂含むシルト層
黒色極細粒砂Blockを含む。炭化物を少量含む。
2 10YR2/3 黒褐色 細粒砂含むシルト層
褐色細粒砂の小Blockを含む。炭化物を極少量含む。

1238SK 平面図



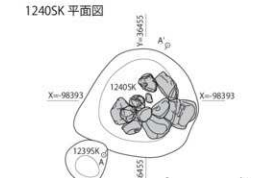
1238SK A-A'土層断面図



1238SK B-B'土層断面図

1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂非常に多く含む極細粒砂層
褐褐色極細粒砂の小Blockを含む。中粒砂含む。3層より粗い。斑土状。
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層
3 10YR2/1〜2 黒色 細粒砂多く含む極細粒砂層
4 7.5YR2/2 黒褐色 細粒砂非常に多く含む極細粒砂層
5 10YR2/3 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層 褐色細粒砂の小Blockを少量含む。

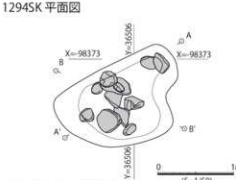
1240SK 平面図



1240SK A-A'土層断面図

1 10YR2/2 黒褐色 極細粒砂含むシルト層
黒色極細粒砂Blockを含む。炭化物を少量含む。
2 10YR2/3 黒褐色 シルト含む極細粒砂層
黒色極細粒砂の小Blockを少量含む。
3 10YR2/1 黒褐色 細粒砂含むシルト層
褐色細粒砂の小Blockを含む。炭化物を極少量含む。
4 10YR3/3 暗褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層
褐色細粒砂の小Blockを少量含む。
5 10YR2/3 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層
褐色細粒砂の小Blockを少量含む。
6 10YR4/4 褐色 中粒砂含む極細粒砂層
暗褐色極細粒砂Blockを多量に含む。(地山)

1294SK 平面図



1294SK A-A'土層断面図

1294SK B-B'土層断面図

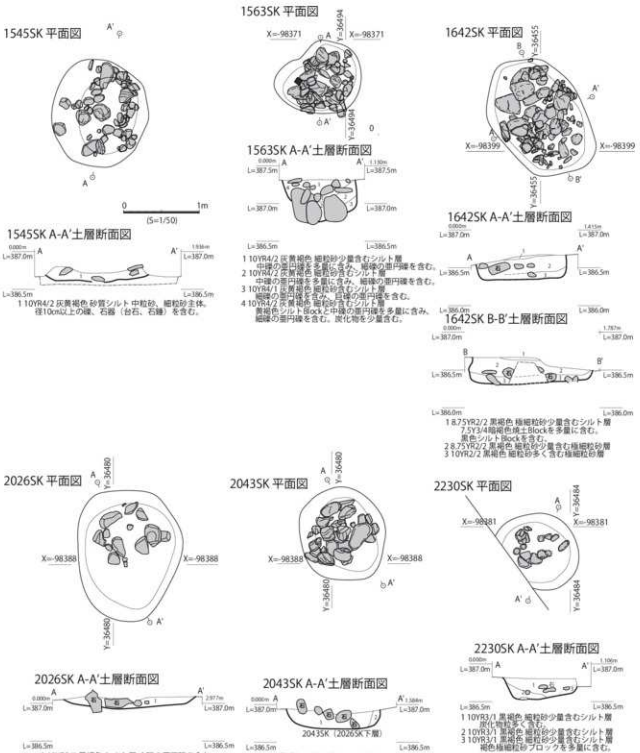
1 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層
黄褐色シルトBlockを少量含み、
中礫の亜円礫を極少量含む。炭化物を少量含む。

第 90 図　集石土坑遺構図（1）(S=1/50)

極細粒砂が堆積しており、大量の礫が出土した。内部では土坑 2027SK などの若干の遺構が検出されたが、建物遺構になるとは考えにくい。

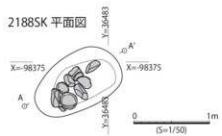
（11）1147SK（第 82 図）

3745,3746 グリッドで 2 面遺構として検出された大型落ち込みである。周囲を 1135SK、1145SK、1148SK によって破壊されており、平面プランは長軸 6.53m 以上、短軸 3.02m 以上の円形と思われる。深さは 0.18m を測る。内部に黒褐色極細粒砂が堆積しており、大量の礫が出土した。内部では土坑 1453SK ～ 1464SK などの遺構が検出されたが、建物遺構になるとは考えにくい。



第 91 図　集石土坑遺構図（2）(S=1/50)

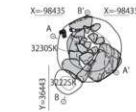
2188SK 平面図



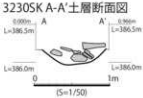
2188SK A-A'土層断面図

1 10YR3/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
黄褐色シルトBlockを少量含む。
2 10YR3/1 黒褐色 細粒砂含むシルト層
中礫の面円礫を少量含む。
3 10YR3/3 暗褐色 細粒砂含むシルト層
中礫の面円礫を少量含む。

3230SK 平面図



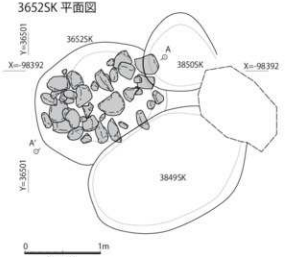
3230SK A-A'土層断面図



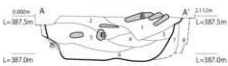
3230SK B-B'土層断面図

1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層
中礫の面円礫を少量含む。（3225SK）
2 10YR3/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層
中礫の面円礫を少量含む。（3230SK）
3 10YR4/1 灰黄褐色 細粒砂を多量に含むシルト層
に 古い黄褐色細粒ブロックを少量含み、
中礫の角礫・大礫の円礫を含む。
炭化物を含む。（3230SK）

3652SK 平面図

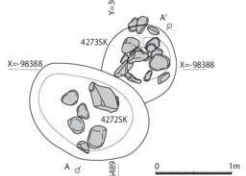


3652SK A-A'土層断面図



1 8.75YR3/3 暗褐色 シルト少量含む極細粒砂層
大～巨礫の亜角礫・亜円礫を含む。炭化物を少量含む。
2 8.75YR2/3 黒褐色 シルト少量含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。細礫を含む。炭化物を少量含む。
3 10YR3/3 暗褐色 極細粒砂含むシルト層
暗色極細粒砂の小Blockを含む。炭化物を含む。
4 10YR3/3 シルト含む極細粒砂層
暗色極細粒砂の小Blockを少量含む。
5 10YR3/3 暗褐色 シルト少量含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小Blockを含む。炭化物を少量含む。
6 10YR4/1 にぶい黄褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層
暗色極細粒砂の小Blockを少量含む。
7 10YR4/4 褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層
暗褐色極細粒砂Blockを非常に多く含む。（地山か？）
8 10YR4/4 褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層
暗褐色極細粒砂Blockを少量含む。（地山）

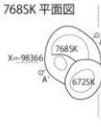
4272SK・4273SK 平面図



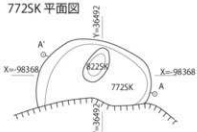
4272SK・4273SK A-A'土層断面図

1 10YR3/2 黒褐色 シルト層 中礫の面円礫を含む。
炭化物を含む。（4272SK）
2 10YR3/3 黒褐色 シルト層 大礫の亜角礫を少量含む。
炭化物を含む。（4272SK）
3 10YR3/3 黒褐色 シルト層 大礫の面円礫を少量含み、
中礫の面円礫を極少量含む。炭化物を含む。（4272SK）
4 10YR3/3 黒褐色 シルト層 灰黄褐色シルトBlockを含み、
大礫の面円礫を少量含む。（4272SK）
5 10YR3/2 黒褐色 シルト層 中礫の面円礫を含む。（4273SK）
6 10YR3/3 黒褐色 シルト層 細礫の面円礫を少量含み、
大礫の面円礫を少量含む。（4273SK）
7 10YR3/2 黒褐色 シルト層 灰黄褐色シルトBlockを含み、
大礫の面円礫を少量含む。（4273SK）

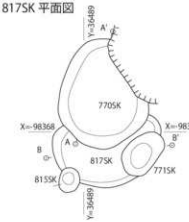
第 92 図　集石土坑遺構図（3）(S=1/50)



1 10YR3/2 黒褐色 シルト層
中礫の亜角礫を少量含む。炭化物を多量に含む。
2 10YR4/2 灰黄褐色 シルト層 黄褐色シルト小Blockを含む。
中礫の円礫を少量含む。炭化物を少量含む。
3 10YR5/3 にぶい黄褐色 細砂砂含むシルト層
中礫の亜円礫を少量含む。(地山)

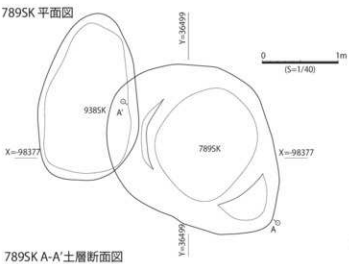


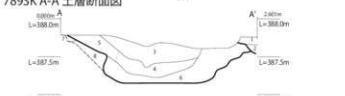
1 10YR3/2 黒褐色 シルト層 (8225K)
黄褐色シルトBlockを少量含む。炭化物を少量含む。
2 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂少量含むシルト層
黄褐色シルトBlockを少量含む。(772SK)
3 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂少量含むシルト層
黄褐色シルトBlockを多量に含む。(772SK)



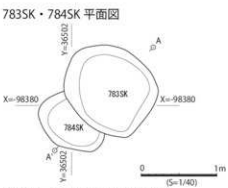
1 10YR3/2 黒褐色 シルト層
中礫の亜角礫を少量含む。炭化物を少量含む。
2 10YR4/2 灰黄褐色 シルト層
黄褐色シルトBlockと中礫の円礫を少量含む。

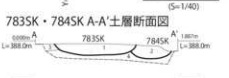
1 10YR3/2 黒褐色 シルト層
黄褐色シルトBlockと中礫の円礫を少量含む。
炭化物を極少量含む。白色粒子を少量含む。(7715K)
2 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂少量含むシルト層
黄褐色シルトブロックを含む。(8175K)
3 10YR4/2 灰黄褐色 細粒砂少量含むシルト層
黄褐色シルトブロックを多量に含む。(8175K)





1 10YR2/2 黒褐色 細砂少量含むシルト層
暗褐色シルトBlockを非常に多く含む。炭化物を少量含む。
2 10YR3/2 黒褐色 細砂少量含むシルト層
暗褐色シルトBlockを非常に多く含む。炭化物を多量含む。
3 10YR3/2 黒褐色 極細砂含むシルト層
黄褐色細砂のパBlockを含む。炭化物を少量含む。
4 10YR3/2 黒褐色 細砂少量含むシルト層
細砂シルトBlockを非常に多く含み、黒褐色シルトBlockを多量に含み、
黄褐色細砂のパBlockと炭化物を含む。
5 10YR4/6 褐色 中砂少量含むシルト層
暗褐色シルトBlockを非常に多く含む。炭化物を極少量含む。(地山)





1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層 炭化物を極少量含む。
黄褐色細粒砂のパブロックを含み、細礫少量含む。(7835K)
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含むシルト層 (7845K)
黄褐色細粒砂のパブロックを少量含む。炭化物を極少量含む。
3 10YR2/2 黒褐色 中粒砂少量含む極細粒砂層 (地山)
黄褐色極細粒砂ブロックを非常に多く含む。炭化物を少量含む。
4 10YR5/6 黄褐色 中粒砂少量含む極細粒砂層
黒褐色極細粒砂ブロックを非常に多く含む。(地山)

第 93 図　各種土坑遺構図（1）(S=1/50)

(12) 1131SK（第 83 図）

3846 グリッドで 2 面遺構として検出された大型落ち込みである。北部が 1130SK に切られるが、平面プランは長軸 4.90m、短軸 4.71m のほぼ円形となる。深さは 0.23m を測る。下部で集石土坑 1557SS がある。内部に黒褐色極細粒砂が堆積しており、大量の礫が出土した。

(13) 1140SK（第 84 図）

3846,3946 グリッドで２面遺構として検出された大型落ち込みである。南端部を撹乱によって破壊されたが、平面プランは長軸 6.01m 以上、短軸 5.05m の楕円形と推定できる。深さは 0.23m を測る。内部に黒褐色中粒砂を含む極細粒砂またはシルトが堆積しており、大量の礫が出土した。内部では土坑 1707SK ～ 1730SK などの遺構が検出されたが、建物遺構になるとは考えにくい。

(14) 1143SK（第 85 図）

3846 グリッドで２面遺構として検出された大型落ち込みである。平面プランは長軸 3.85m、短軸 3.08m の楕円形で、深さは 0.19m を測る。内部に黒褐色中粒砂を含む極細粒砂が堆積しており、大量の礫が出土した。内部では土坑 1533SK ～ 1543SK などの遺構が検出されたが、建物遺構になるとは考えにくい。

(15) 1148SK（第 85 図）

3845,3846 グリッドで２面遺構として検出された大型落ち込みである。1141SK、1143SK、1145SK によって切られるが、平面プランは長軸 6.33m、短軸 5.79m の楕円形で、深さは 0.30m を測る。内部に黒褐色細粒砂を含む極細粒砂が堆積しており、大量の礫が出土した。内部ではあまり土坑などの遺構が検出されなかった。1148SK の中央部で若干の礫を伴って石器 0248 が出土した。

(16) 1296SK（第 86 図）

3748 グリッドで２面遺構（遺構図は３面遺構に掲載）として検出された大型落ち込みである。北西部を 1078SK、南東部を 1276SK などで切られるが、平面プランは長軸 3.82m 以上、短軸 3.18m の楕円形の平面プランと推定され、深さは 0.27m を測る。内部に黒褐色シルトが堆積しており、大量の礫が出土した。内部では土坑 1757SK ～ 1772SK などの遺構が検出されたが、建物遺構になるとは考えにくい。

(17) 1557SS（第 87 図）

3649 グリッドで３面遺構として検出された大型落ち込みで集石遺構でもある。1130SK と 1131SK の下位から検出された遺構で、西端部は 1130SK により大きく破壊されている。長軸 3.23m 以上、短軸 1.60m 以上の弧状に曲がる平面プランとなる。深さは 0.10m を測り、内部に多量の礫が含まれていた。

(18) 1781SK（第 88 図）

3847 グリッドで１面遺構として検出された大型落ち込みである。撹乱や 1101SK により破壊され全形は不明である。黒褐色細粒砂含むシルト埋積し多量の礫を含む。

(19) 1925SK（第 89 図）

3746 グリッドで２面遺構として検出された大型落ち込みである。1130SK ～ 1132SK により大きく破壊されている。長軸 6.28m 以上、短軸 3.63m 以上の規模を持つが、平面プラン不明となる。深さは 0.16m を測り、黒褐色極細粒砂が堆積していた。

３土坑（集石土坑）

(1) 1236SK（第 90 図）

3945 グリッドで１面遺構（遺構図は３面遺構に掲載）として検出された集石遺構である。長軸 1.74m、短軸 1.67m のほぼ円形の平面プランをもち、深さ 0.39cm を測る。黒褐色細粒砂を含む極細粒砂が堆積しており、その上部では最大で長さ約 50cm の礫が多数出土した。縄文時代の遺構と思われるが、詳細な時期は特定できない。

(2) 1238SK（第 90 図）

3945 グリッドで１面遺構（遺構図は３面遺構に掲載）として検出された集石遺構である。長軸 1.76m、短軸 1.52m のほぼ円形の平面プランをもち、深さ 0.34cm である。黒色または黒褐色細粒砂を含む極細粒砂が堆積しており、内部では最大で長さ約 40cm の礫を含む多数の礫が出土した。縄文時代の遺構と思われるが、詳細な時期は特定できない。

(3) 1240SK（第 90 図）

3945 グリッドで１面遺構（遺構図は２面遺構に掲載）として検出された集石遺構である。平面形は長軸 1.67m、短軸 1.45m の遺物な円形であり、深さは 0.31cm を測る。黒褐色細粒砂を含むシルトが堆積しており、最大で長さ約 50cm の礫が多数出土した。縄文時代の遺構と思われるが、詳細な時期は特定できない。

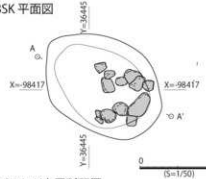
(4) 1294SK（第 90 図）

3750 グリッドで１面遺構（遺構図は３面遺構に掲載）として検出された集石遺構である。長軸 1.73m、短軸 1.13m の不定形な土坑で、深さは 0.45cm である。502SK や 834SK を切る。黒褐色細粒砂を含むシルトが堆積しており、その上部では最大で長さ約 40cm の礫がやや多く出土した。縄文時代の遺構と思われるが、詳細な時期は特定できない。

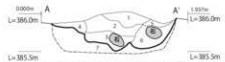
(5) 1545SK（第 91 図）

3945 グリッドで２面遺構として検出された集石

1018SK 平面図

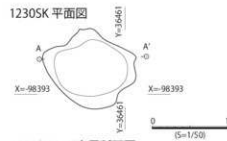


1018SK A-A'土層断面図



1 10YR2/3 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。
2 10YR3/3 暗褐色 中粒砂含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。
3 10YR3/3 暗褐色 細粒砂含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。大礫の亜円礫を含む。
4 10YR3/3 暗褐色 中粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。
5 10YR3/3 暗褐色 中粒砂少量含む極細粒砂層 褐色極細粒砂の小Blockを少量含む。
褐色極細粒砂の小Blockを含む。大～巨礫の亜円礫を含む。
6 10YR3/4 暗褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層
7 10YR4/4 褐色 中粒砂含む極細粒砂層（地山）

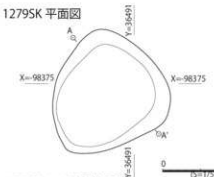
1230SK 平面図



1230SK A-A'土層断面図

1 10YR2/1 黒色 極細粒砂含むシルト層
2 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小ブロックを少量含む。
3 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小ブロックを含む。大礫の亜角礫を含む。
4 10YR2/2 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小ブロックを非常に多く含む。
5 10YR3/2 黒褐色 極細粒砂含む細粒砂層（地山）
6 10YR2/2 黒褐色 中粒砂含むシルト層
大礫の亜角礫を非常に多く含む。（地山）

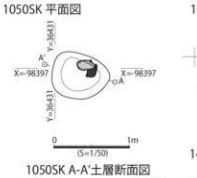
1279SK 平面図



1279SK A-A'土層断面図

1 10YR2/2 黒褐色 シルト層 大礫の亜円礫を少量含む。
2 10YR2/1 黒褐色 シルト 中礫の亜円礫を少量含む。
3 10YR5/3 細粒砂少量含むシルト層
暗褐色シルトBlockを多量に含む。（地山）

1050SK 平面図

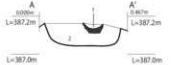


1050SK A-A'土層断面図

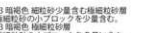
1 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小Block多く含む。
炭化物を少量含む。土器片を含む。
2 10YR2/1 黒褐色 細粒砂含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小Blockを含む。
炭化物を少量含む。
3 10YR2/3 黒褐色 細粒砂多く含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小Blockを含む。
炭化物を極少量含む。

1460SK 平面図

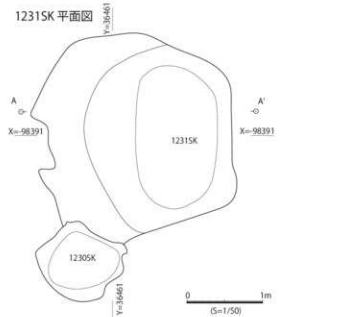
1460SK A-A'土層断面図



1 10YR3/3 暗褐色 細粒砂少量含む極細粒砂層
褐色極細粒砂の小ブロックを少量含む。
2 10YR3/3 暗褐色 細粒砂層
褐色極細粒砂の小ブロックを多量に含む。



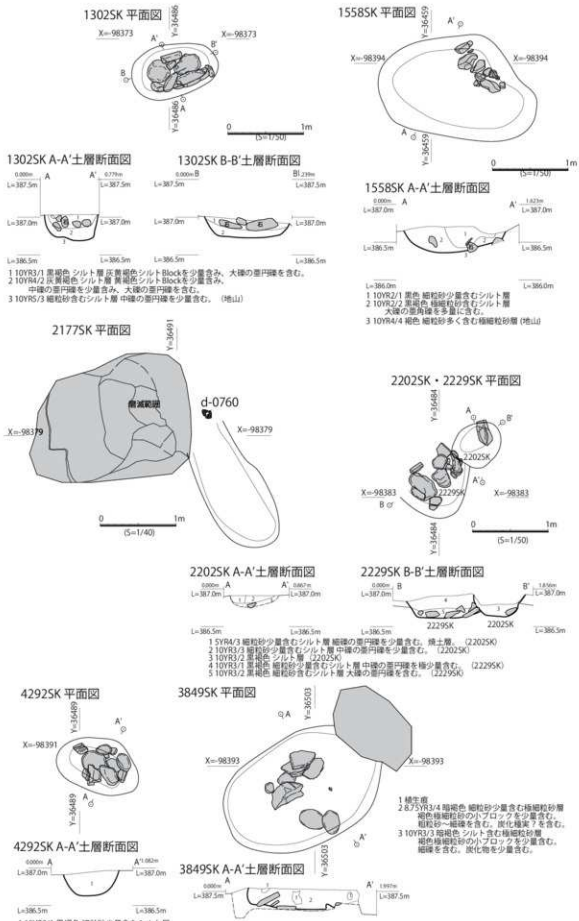
1231SK 平面図



1231SK A-A'土層断面図

1 10YR2/1 黒色 極細粒砂含むシルト層
暗褐色極細粒砂Blockを少量含む。中礫の亜角礫を含む。炭化物を極少量含む。
2 10YR2/1～2 黒褐色 極細粒砂含むシルト層
暗褐色極細粒砂Blockを含む。細～中礫の亜角礫を含む。炭化物を極少量含む。
3 10YR2/2 黒褐色 細粒砂少量含むシルト層
暗褐色極細粒砂Blockを非常に多く含む。細～大礫の亜角礫を含む。
4 10YR2/1 黒色 極細粒砂少量含むシルト層
暗褐色極細粒砂Blockを多量に含む。炭化物を少量含む。
5 10YR2/1 黒色 細粒砂少量含むシルト層
暗褐色極細粒砂Blockを含む。炭化物を少量含む。

第 94 図　各種土坑遺構図（２）(S=1/50)



第 95 図　各種土坑遺構図（３）(S=1/50)

遺構である。長軸 1.45m、短軸 1.29m の楕円形の平面プランをもち、深さは 0.39cm を測る。灰黄褐色砂質シルトが堆積しており、最大で長さ約 30cm の礫が環状に多数出土した。縄文時代の遺構と思われるが、詳細な時期は特定できない。

（6）1563SK（第 91 図）

3749 グリッドの竪穴建物跡 790SI 北東部で検出された集石遺構である。790SI との前後関係は不明瞭である。長軸 1.18m、短軸 0.92m を測る歪な平面形で、深さ 0.50cm となる。灰黄褐色細粒砂を含むシルトが堆積しており、最大で長さ約 40cm の礫が密集して出土した。縄文時代の遺構と思われるが、詳細な時期は特定できない。

（7）1642SK（第 91 図）

3945 グリッドの竪穴建物跡 1559SI 北東部床面で検出された集石遺構である。平面形は長軸 1.77m、短軸 1.18m 楕円形で、深さは 0.28cm を測る。黒褐色細粒砂を含む極細粒砂が堆積しており、その上部では最大で長さ約 30cm の礫が隙間のない状態で多数出土した。縄文時代の遺構と思われるが、詳細な時期は特定できない。

（8）2026SK（第 91 図）

3847,3848 グリッドで 2 面遺構として検出された集石遺構である。長軸 1.77m、短軸 1.44m の歪な楕円形の平面プランをもち、深さは 0.43cm となる。黒褐色シルトが堆積しており、北半部で最大で長さ約 30cm の礫がやや多く出土した。縄文時代の遺構と思われるが、詳細な時期は特定できない。

（9）2043SK（第 91 図）

3847,3848 グリッドで 2 面遺構（遺構図は 3 面遺構に掲載）として検出された集石遺構である。当初は 2214SI に伴うが跡である可能性を考えて調査した。長軸 1.28m、短軸 1.15m のほぼ円形プランで、深さは 0.39cm 測る。黒褐色細粒砂を含むシルトが堆積しており、中央部に密集した状態で最大で長さ約 35cm の礫が多数出土した。縄文時代の遺構と思われるが、詳細な時期は特定できない。

（10）2230SK（第 91 図）

3848 グリッドの竪穴建物跡 2216SI 北西部床面で検出された集石遺構である。南西部はトレンチにより形状が不明となっているが、長軸 1.08m 以上、短軸 0.69m 以上の楕円形を呈すると思われ、深さは 0.29cm となる。黒褐色細粒砂を含むシルトが堆積しており、その中央部では最大で長さ約 20cm の礫がやや多く出土した。縄文時代の遺構と思われるが、詳細な時期は特定できない。

（11）2188SK（第 92 図）

3748 グリッドで検出された集石遺構である。平面形は長軸 1.22m、短軸 0.75m の楕円形で、深さ 0.28cm である。黒褐色細粒砂を含むシルトが堆積しており、南西部を中心に最大で長さ約 30cm の礫が出土した。縄文時代の遺構と思われるが、詳細な時期は特定できない。

（12）3230SK（第 92 図）

4344 グリッドで検出された集石遺構である。大型の落ち込み 3120?SK の中央に所在し、長軸 0.91m、短軸 0.87m のほぼ円形プランとなる。深さは 0.28cm で黒褐色細粒砂を含むシルトが堆積しており、最大で長さ約 40cm の礫が密集して多数出土した。縄文時代の遺構と思われるが、詳細な時期は特定できない。

（13）3652SK（第 92 図）

3950 グリッドで 3 面遺構として検出された集石遺構である。4240SI や 4241SI と重複する可能性があり、3849SK などに切られている。長軸 0.58m 以上、短軸 0.57m 以上の楕円形を呈するとみられ、深さ 0.18cm となる。暗褐色シルトを含む極細粒砂などが堆積しており、その上部では最大で長さ約 40cm の礫が多数出土した。縄文時代の遺構と思われるが、詳細な時期は特定できない。

（14）4272SK・4273SK（第 92 図）

3848 グリッドで 3 面遺構として検出された集石遺構である。3429SI の北東側に所在しており、4272SK は 4273SK を切る。4272SK は長軸 1.72m、短軸 1.19m の楕円形プランで、深さ 0.49cm を測る。最大で長さ約 50cm の礫がやや多く出土した。4273SK は長軸 1.25m、短軸 1.14m の円形プランと想定され、深さ 0.52cm となる。黒褐色シルトが堆積しており、最大で長さ約 30cm の礫が多数出土した。いずれも縄文時代の遺構と思われるが、詳細な時期は特定できない。

第 6 節　弥生時代前期の遺構

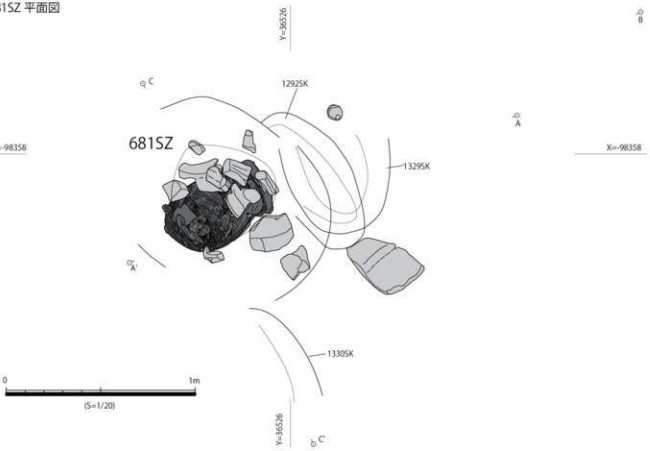
弥生時代前期の遺構としては土器棺墓 1 基、土坑 1 基などがある。

1 土器棺墓

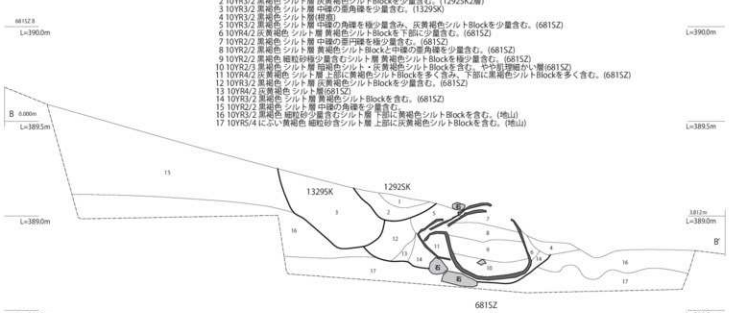
（1）681SZ（第 96 図～第 98 図）

B a 区北端の 3552 グリッドで検出された土器棺

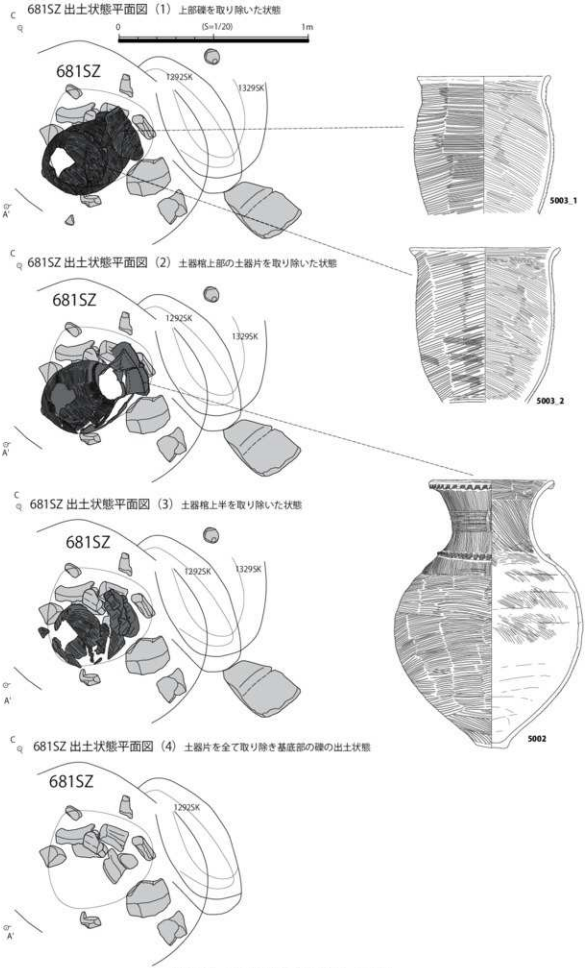
681SZ 平面図



681SZ B-B'土層断面図



第 96 図　681SZ 遺構図（1）(S=1/20)



第 97 図　681SZ 遺構図（2）(S=1/20)

墓である。表土掘削の段階で土器が出土した遺構で、その後に掘り方などが検出された遺構である。北東から南西方向に下がる緩斜面上に、長軸 1.22m 以上、短軸 1.01m 以上の楕円形の平面プランで深さは 0.48m を測る。

擂鉢状に掘削された土坑の底面に、底部を西南西の方向にし、かつ口縁部をやや上向きにして土器深鉢が横位に置かれ、体部中央から口縁部に向けて礫が土器を支えるように数個設置されていた。深鉢は横位に配置された上面（口縁部から頸部にかけての部分と体部中央部）が破損した状態で出土した。体部中央部は接合作業後に完形の状態に接合されたので、後世に土圧などの影響により破損したものと思われる。欠損した口縁部から頸部にかけては別の土器片で蓋として覆われており、さらにその上に若干の石材が置かれていた。

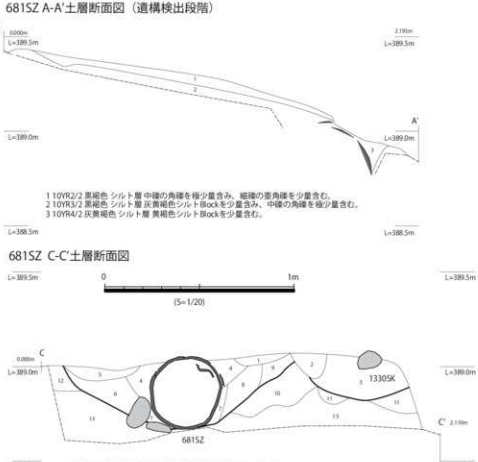
土器の内部は黄褐色シルトブロックなどを含む黒褐色シルトが埋積しており、土器外部には灰黄褐色シルトなどが堆積していた。

時期は弥生時代前期に位置付けられる。

2 土坑

（1）2255SK

Ｂａ区北端の 4144 グリッドで検出された土坑である。長軸 0.87m 以上、短軸 0.54m 以上の楕円形の平面プランで深さは 0.22m を測る。



第 98 図　681SZ 遺構図（3）(S=1/20)

時期は弥生時代前期に位置付けられる。

第７節　古代の遺構

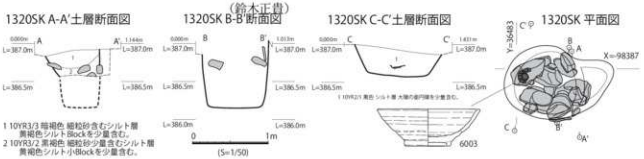
古代の遺構としては土坑１基がある。

１土坑

（１）1320SK（第 99 図）

Ｂａ区北端の 3848 グリッドで１面遺構として検出された土坑である。長軸 1.47m、短軸 1.00m の規模をもち、平面形は円形を呈するが、東側に浅く掘り込まれた張り出し部をもつ。西半部は垂直に近く掘り込まれており、底部は平坦面をなしている。最深部で深さは 0.89m を測る。埋土は暗褐色細粒砂を含むシルトが主体で中位に多量の礫が密集して出土した。その礫層の上位で西側の壁寄りの位置から灰釉陶器椀が１点が口縁部を上に向けた状態で出土した。時期は平安時代中期に位置付けられる。

（鈴木正貴）



第 99 図　1320SK 遺構図 (S=1/20)